1 年次開講科目

開設科目名	生命倫理	科目コード	MNSB501	開設期	１年前期
単位数（履修区分）	２単位（必修）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	青木清	担当者	青木清、井手信、藤堂省、牧山強美		

授業の概要（授業の目的）

生命科学や高度医療の急速な発展に伴う、生命の始まりに関する問題、生命の終わりに関する問題、患者の権利に関する問題、限られた医療資源分配の問題等、医療の分野をはじめとする生命倫理の諸問題について学際的に考察する。看護の実践および研究の倫理的課題を探究するとともに、ケーススタディを中心とした少人数のディスカッションにより倫理的最善の解決法を見出す方策を検討することを通して倫理的判断能力を養う。本科目は本学の設立理念に基づき人間の尊厳の尊重を基本原理とする。医療をはじめとする科学技術を人間（人格と基本的人権）の善に役立てるために、高度看護専門職者として必要な生命科学技術の基礎知識の教授と倫理的判断能力の育成を目的とする。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．看護の実践および看護や医学の研究において、常に人間の「生命の尊厳」を念頭において行動できるように自分の教養として会得すること。	1. 全人的ケアの探究 2. 倫理の本質を捉えた実践 3. 看護実践の探求 4. 看護の質向上への貢献 8. 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	キリスト教における生命観と倫理	講義	牧山		４時間
2	人間の生存とバイオエシックス（生命倫理）	講義	青木	人間の生存を守るには	４時間
3	生命倫理の主要概念 人間の尊厳と生命の価値、４原則	講義	青木 井手	生命倫理の歴史	４時間
4	生命・環境・倫理	講義	青木	地球環境と倫理	４時間
5	ヒトゲノムと遺伝子治療	講義	青木	遺伝子疾患について	４時間
6	遺伝子操作の医学・医療への応用	講義	青木	これまでの医学医療	４時間
7	出生をめぐる生命倫理 妊娠中絶と母体保護法、生殖補助技術 着床前遺伝子診断・出生前診断　ヒト胚・胎児の尊厳	講義	青木 井手	ヒトの生命尊重 生命の選別	４時間
8	再生医学・医療と倫理的問題 ＥＳ細胞・体性幹細胞（組織幹細胞）・ｉＰＳ細胞	講義	青木	高齢化社会における医学・医療の歴史	４時間
9	生殖科学技術の進展と倫理的問題 ひとの発生とクローンニング	講義	青木	ヒトの発生学	４時間
10	死にゆく人の尊厳 自殺・安楽死と人間の尊厳　尊厳死、死生学	講義	青木	終末期医療について	４時間
11	ＱＯＬと健康の倫理 ＱＯＬ、ターミナルケア	講義	青木	スピチュアリティーと健康	４時間
12	脳死と臓器移植	講義	藤堂		４時間
13	脳科学の発展と倫理	講義	青木	人間の脳とロボット	４時間
14	研究倫理・医療従事者の職務倫理と責任	講義	青木	人間の生存と平和	４時間
15	キリスト教における生命倫理	講義	牧山		４時間

成績評価方法・基準	①プレゼンテーション 50%　②ディスカッション参加度 10%　③レポート 40%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義最終日に講義の総評や今後の学習アドバイスを行います
教科書	テキストは特に指定しない。
参考書・参考文献	テーマ毎に参考文献等を適宜紹介する
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	青木清（非常勤）　講義終了後、教室で質問を受け付けます

開設科目名	看護倫理	科目コード	MNSB502	開設期	１年後期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	丸山マサ美	担当者	丸山マサ美、宮林郁子		

授業の概要（授業の目的）

看護倫理の基本的な知識について再考し、実践の場における倫理的問題の特徴とその共通性について理解する。またこれらの倫理的問題や葛藤に対して、看護師としての倫理的判断をするために意思決定のプロセスについて学び、同時に、その過程で関係者間の倫理的調整をするために必要な知識・実践を学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１）看護における高度専門職業人としての倫理観、看護観、人間観などを深く洞察する機会とすることができる	１全人的ケアの探究 ２倫理の本質を捉えた実践 ３看護実践の追求 ４看護の質向上への貢献 ８専門職業人としての発展
２）看護における実践・教育・研究者としての適切な倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うことができる。	
３）看護実践が行われる保健・医療・福祉・介護等の様々な分野、また人間生活の営みが行われるあらゆる場において生じる倫理的問題や葛藤に対して関心を持つことができる	
４）社会状況の変化と看護倫理の関係性に関心を持つことができる。	
５）看護実践者として、今後の看護倫理のあり方や方向性について再考することができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	看護実践現場における倫理的課題と高度専門職業人の役割について	講義	丸山	これまでに学んでいる生命倫理・看護倫理の基本的な理論・概念に関する基礎知識を復習しておく	４時間
2	看護倫理の成立と基本原理、看護倫理綱領と歴史的背景－医療の高度化・複雑化、患者の権利尊重・保健医療福祉への関心の高まり－	講義	丸山	教科書の総論、第１章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
3	看護倫理綱領と歴史的背景－情報公開・医療事故対策への対処－	講義	丸山	教科書の終章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
4	インフォームド・コンセント	講義	丸山	教科書の第６章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
5	倫理的問題と意思決定のステップ －倫理問題を検討するルール－	講義	丸山	教科書の第２章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
6	看護実践に関わる倫理的課題への対応 —看護師の価値観と倫理、道徳－	講義	丸山	教科書の第７章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
7	看護学における倫理とは —良い看護師とは—	講義	丸山	教科書の第４，５章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
8	看護専門職に求められる倫理規範, 倫理的意思決定者と行動力	講義	丸山	教科書の第２，７章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
9	看護実践場面におけるアドボカシー・倫理的決定と看護師の責務（実践事例をもとにしたグループ討議）	講義	丸山	ケーススタディ：自己の体験事例をまとめておくこと	４時間
10	患者・家族の意思決定と医療者の協働、看護実践現場における倫理的課題のアセスメント、その対処の考え方 （実践事例をもとにしたグループ討議：終末期医療における苦痛の緩和）	講義	丸山	教科書の第８章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
11	看護研究における倫理 －看護と研究－ 研究参加者保護に関する歴史的背景、看護研究における倫理的配慮,看護実践場面における看護研究と倫理的問題、倫理委員会について	講義	丸山	教科書の第３章, 配布資料の復習	４時間
12	看護教育における倫理 －看護と教育－ （看護倫理の理論化）	講義	丸山	教科書全章を読んでおく 配布資料の復習	４時間
13	総括	講義	丸山	配布資料	４時間
14	人生の最終段階における患者、家族への意思決定支援について考える	講義	宮林	資料および DVD	４時間
15	臨床実践の場での看護師のジレンマと解決のためのシステマティック・アプローチについて考える	講義	宮林	各自が課題についてまとめたものに基づいて討議する。	４時間

成績評価方法・基準	①レポート提出、 ②グループ活動への参加を総合して評価する
課題に対するフィードバック	
教科書	丸山マサ美編著：バイオエシックス－その継承と発展－、丸山マサ美他,川島書店、2018.
参考書・参考文献	・Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J. Winslade, Clinical Ethics, A practical Approach to Ethical Decisions in Clinical Medicine, Introduction, The Four Topics Chart, Eighth Edition, McGraw-Hill Education,2015, ・丸山マサ美編著：医療倫理学第2版、丸山マサ美他,中央法規出版、2009. ・Anne J. Davis, Mila A.Aroskar, Joan Liaschenko,Theresa S.Drought, Ethical Dilemmas Nursing Practice,4th ed,Appleton& Lange,1997 ・Fry,S.T.,Johnstone,M.J.：看護実践の倫理-倫理的意思決定のためのガイド- 第3版、片田範子、山本あい子訳、日本看護協会出版会、2010. ・Thompson,J.E.,Thompson,H.O.：看護倫理のための意思決定10のステップ、ケイコ・イマイ・キシ、竹内博明、山本千沙子監訳、日本看護協会出版会、2004.
オフィスアワー 学習相談 メッセージ その他	丸山マサ美（非常勤）　質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。 ケーススタディの演習は、自己（学生）の体験事例で学習します。 宮林郁子（非常勤）：質問・相談等は講義終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	看護理論	科目コード	MNSB503	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（必修）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、宮林郁子、Jacqueline Fawcett、小浜さつき		

授業の概要（授業の目的）

先ず、卓越した看護実践を導く看護諸理論の基本構造を理解する。次いで、代表的な看護理論の特性を学び事例を用いて看護現象を分析し、看護理論の実践における適用性とその範囲について検討する。さらに、ロイ適応看護モデルを取り上げ、その最新の見解について学び、実践ならびに教育・研究における有用性を検討する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 効果的な看護実践を導く看護理論の基本構造を理解する。	5. 看護理論活用の探求、 6. 看護理論の検証
2. 看護理論の実践における適用性と範囲について検討し、教育・研究・実践における意義を理解する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	看護科学の発展的経緯と看護理論の発展的プロセス	講義	宮林		
2	看護理論における概念分析	講義	宮林		
3	看護理論における概念構成と必要条件	講義	宮林		
4	大理論の基本構造分析	講義	宮林		
5	中範囲理論　各理論の教育、実践、研究における適用	講義	日高	個人ワークの課題については、講義で説明します。	15時間
6	中範囲理論　各理論の教育、実践、研究における適用	講義	日高	個人ワークの課題については、講義で説明します。	15時間
7	中範囲理論　各理論の教育、実践、研究における適用	講義	日高	個人ワークの課題については、講義で説明します。	15時間
8	中範囲理論　各理論の教育、実践、研究における適用	講義	日高	個人ワークの課題については、講義で説明します。	15時間
9	中範囲理論、小範囲理論の臨床適用	講義	日高・小浜		
10	中範囲理論、小範囲理論の臨床適用	講義	日高・小浜		
11	中範囲理論、小範囲理論の臨床適用	講義	日高・小浜		
12	Jacqueline Fawcett	講義	Fawcett他		
13	Jacqueline Fawcett	講義	Fawcett他		
14	Jacqueline Fawcett	講義	Fawcett他		
15	Jacqueline Fawcett	講義	Fawcett他		

成績評価方法・基準	クラス貢献度10%、個人ワーク・発表30%、課題レポート60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	プレゼンテーションの評価は、その都度教員がコメントします。
教科書	Sister Callista Roy　ザ・ロイ適応看護モデル第2版　医学書院 井部俊子監訳　ベナー看護論　医学書院 筒井真由美：看護理論家の業績と理論評価　医学書院
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子（7号館3階　731研究室）オフィスアワー：金曜日16：30～17：30

開設科目名	看護教育論	科目コード	MNSB504	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	宮林郁子	担当者	宮林郁子、濱野香苗、宇佐美しおり		

授業の概要（授業の目的）

近代看護発生以降の米国・日本における看護教育の発展及び日本の看護教育制度の変遷とその特徴について学ぶ。また、看護基礎教育、大学院教育、継続教育、生涯教育について検討し、教育システム、教育方法の改善、職業教育のあり方などについて看護教育の開発の方向を見きわめる。さらに看護専門職として看護職への教育活動の特徴と具体的な働きかけとともに、患者と家族に対する効果的な教育活動に関する知識と技術を教授する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．米国及び日本における看護教育制度の変遷と特徴を理解できる	7．国際性・学際性の探求
2．看護基礎教育、大学院教育、継続教育について理解し、看護教育について提案ができる	8．専門職業人としての発展
3．教育システム、教育方法の改善、職業教育の在り方について看護教育の方向を見極めることができる	8．専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	諸外国の看護教育　医療システムの変革と看護教育	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
2	日本の看護教育制度（1）	講義	濱野	講義内容の予習・復習	4時間
3	日本の看護教育制度（2）	講義	濱野	講義内容の予習・復習	4時間
4	看護教育課程 － 看護基礎教育カリキュラム －	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
5	看護教育課程 － 大学院教育カリキュラム －	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
6		講義		講義内容の予習・復習	4時間
7	継続教育	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
8	臨床的論証力と判断力①②	講義		講義内容の予習・復習	4時間
9	倫理的想像力の育成	講義		講義内容の予習・復習	4時間
10	継続教育の提案（学生プレゼンテーション）	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
11		講義		講義内容の予習・復習	4時間
12	看護専門職業人の育成	講義	宇佐美	講義内容の予習・復習	4時間
13		講義		講義内容の予習・復習	4時間
14	日本の看護教育の展望	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間
15	まとめ	講義	宮林	講義内容の予習・復習	4時間

成績評価方法・基準	レポート 40%、課題発表 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	ベナーナースを育てる、P.Benner, Molly Suphen, Victoria Leonard, Lisa Day, "Educating Nurses-A call for radical transformation", 早野ZITO 真佐子訳、医学書院、Jossey-Bass, 2011. 2010. 杉森みど里、看護教育学、医学書院 Advanced Practice Nursing-An Intergrative Approach, Ann B.Hamric, Judith A.Spross, et al, Saunders, 2009
参考書・参考文献	・成長する教師、浅田匡、生田孝至、藤岡完治、金子書房、1998 ・Using Experience for Learning、Boud David, and others ed, 1993, Open University Press ・Experiential learning: experience as the source of learning, D.Kolb,1984, Prentice Hall ・「経験学習」入門、松尾睦、ダイヤモンド社 ・教師の学びを科学する、中原淳、北大路書房 ・看護リフレクション入門、東めぐみ、ライフサポート社、2009
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	宮林郁子（非常勤講師）：質問・相談等は講義終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	看護管理論	科目コード	MNSB505	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	矢野正子、林田賢史、秋山智弥、宇佐美しおり、平田輝昭、近末清美		

授業の概要（授業の目的）

看護管理の歴史、医療制度、組織における人的資源の活用、配置、キャリア開発、医療・看護における評価の指標、成果指標とモニタリング、看護における経済行為と組織経営　などを学ぶ。また看護専門職としての技能の活用、組織での管理運営、社会への貢献のあり方を検討するために、医療制度、医療における成果指標を指向した管理手法を学ぶ。また、それらの実践例から看護管理における課題について検討する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．看護管理の歴史を理解し、説明できる	3看護実践の追及 4巻後の質向上への貢献 6看護理論の検証 8専門職業人としての発展
2．医療制度、看護制度について概要を理解し、説明できる	
3．コンサルテーションスキルの開発について理解し、説明できる	
4．コンサルテーションコンピテンシーの評価について理解し、説明できる	
5．経営課題に対する看護管理の寄与を理解し、説明できる	
6．医療・看護の質評価の方法について理解し、説明できる	
7．看護の質を向上する看護組織運営について考察できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	看護制度と看護管理の歴史	講義	矢野	次回の講義内容を予習し、専門用語等の意味を理解しておく（保助看法の成立と看護管理のはじまり）	4時間
2	医療制度論①　保健医療の動向	講義	平田	配布資料の復習（医療法と保健医療制度）	4時間
3	医療制度論②　医療保険・介護保険	講義	平田	配布資料の予習復習（医療保険・介護保険制度）	4時間
4	医療・看護の評価手法	講義	林田	配布資料の復習(医療・看護の評価)	4時間
5	看護と情報管理、看護の標準化、看護情報の活用	講義	林田	配布資料の予習、復習（看護の情報管理）	4時間
6	看護管理の実践、キャリア開発、多職種協働、離職防止	講義	秋山	配布資料の復習（看護管理の実践）	4時間
7	経営課題と看護部門の寄与、危機管理	講義	秋山	配布資料の予習、復習（経営課題と看護部門）	4時間
8	コンサルテーション論① 援助関係におけるサイコダイナミックス、クライアントの概念	講義	宇佐美	配布資料の復習（サイコダイナミックスクライアントの概念）	4時間
9	コンサルテーション論② 対人関係のダイナミックス、促進的なプロセス介入	講義	宇佐美	配布資料の予習、復習（対人関係、プロセス介入）	4時間
10	看護における質の保証と改善活動の実際① チーム医療、ケアの変革、質の評価、業務改善の推進	講義	近末	講義内容に関連する文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。	4時間
11	看護における質の保証と改善活動の実際② 看護の質を高めるマネジメント（組織分析）	講義	近末		4時間
12	看護における質の保証と改善活動の実際③ 看護の質を高めるマネジメント（コンフリクトと交渉）	講義	近末		4時間
13	看護における質の保証と改善活動の実際③ 看護の質を高めるマネジメント（リスクマネジメント）	講義	近末		4時間
14	看護における質の保証と改善活動の実際④ 看護の質を高めるマネジメント（労務管理）	講義	近末		4時間
15	人的資源活用	講義	近末		4時間

成績評価方法・基準	・プレゼンテーション、討議　30%　　・課題レポート　70%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	後日フィードバックします
教科書	特になし
参考書・参考文献	・回によって、英文または和文の精読文献を指定します。都度、資料を配布します。 看護六法　2020年版（2020），新日本法規出版 井部俊子ら編集「看護管理学習テキスト　改訂第3版」第1～8巻　別巻（2019）日本看護協会出版会 その他関連雑誌「病院管理」「看護管理」「ナーシングビジネス」「Nursing Economics」「日本看護理学会誌」「日本看護評価学会誌」「Journal of the American Academy of Nurse Practitioners」「インターナショナルナーシングレビュー」「日本医療・病院管理学会誌」「社会保険旬報」「日本の看護のあゆみ、日本看護協会出版会（2014）」
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談 メッセージ・その他	近末清美　7号館3F　734研究室　　オフィスアワー　水曜16:30～17:30

開設科目名	看護政策論	科目コード	MNSB506	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	矢野正子、近末清美、林田賢史、秋山智弥		

授業の概要（授業の目的）

わが国の看護政策が策定される過程の検討を通し、制度、経済的視点を含め、政策策定に関する基礎能力を養い、21 世紀の保健・医療・福祉に関する展望の中で、看護政策の今後のあり方を考察する機会とする。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．政策策定能力を向上させる方法を身に付けることができる。 2．診療報酬の中の看護報酬について、その経緯と現状について理解し、説明できる。 3．医療政策について看護現場での研究の必要性を理解し、説明できる。 4．看護職能団体の活動について、その役割、責任、連携を理解し、説明できる。 （米 ANA、英 RCN、ICN を含む）	3 看護実践の追及 4 看護の質向上への貢献 8 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	看護職の実態の把握	講義	矢野	次回の講義内容を予習し、専門用語等の意味を理解しておく 参考資料(平成 29 年度・看護関係統計資料等)	4 時間
2	看護政策の流れ（保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律とその後）	講義	矢野	参考資料（看護六法 2018）	4 時間
3	看護政策の策定Ⅰ　看護職員確保対策	講義	矢野	参考資料（看護職員確保対策）	4 時間
4	看護政策の策定Ⅱ　訪問看護制度の創設	講義	矢野	参考資料（訪問看護制度の創設）	4 時間
5	看護政策の動向①　介護保険制度との関係	講義	近末	参考資料（介護保険制度	4 時間
6	看護政策の動向②　特定行為研修制度	講義	近末	参考資料（特定行為看護研修）	4 時間
7	医療政策に関する現場での看護管理研究	講義	秋山	参考資料（実践現場での看護管理研究）	4 時間
8	看護組織とリーダーシップ論について	講義	近末	参考資料（リーダーシップ論）	4 時間
9	コンピテンシー・マネジメントについて	講義	近末	参考資料（コンピテンシー・マネジメント）	4 時間
10	医療行政と保健医療行政	講義	林田	参考資料（保健医療行政）	4 時間
11	保険診療のしくみと診療報酬体系	講義	林田	参考資料（診療報酬体系）	4 時間
12	診療報酬改定のスキーム	講義	林田	参考資料（診療報酬改定）	4 時間
13	診療報酬における看護サービスの評価	講義	林田	参考資料（診療報酬における看護評価）	4 時間
14	看護と経営、病院経営と看護管理	講義	近末	参考資料　国民衛生の動向 2017/2018 から	4 時間
15	看護政策推進のための専門職能団体(日、米、英、ＩＣＮ）その役割、責任、活動、連携など	講義	矢野	参考資料（日看協、日精協　ANA RCN ICN）	4 時間

成績評価方法・基準	①ディスカッション参加度（50%）　②課題レポート（50%）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	課題レポートのついては後日返却、説明する
教科書	教員作成資料
参考書・参考文献	平成 30 年度・看護関係統計資料集、日看協出版会（刊行未定）　日本の看護のあゆみ日本看護歴史学会、日看協出版会 2014 保健師助産師看護師法 60 年史、日本看護協会出版会、2009 看護六法 2020、新日本法規出版　国民衛生の動向 2019/2020、厚生労働統計協会 看護管理に活かすコンピテンシー、メヂカルフレンド社、2014 看護管理者のコンピテンシー・モデル　開発から運用まで、医学書院、2013 Donahue　M.Patricia (1985),Nursing, The Finest Art: An Illustrated History,The C.Mosby コンピテンシー・マネジメントの展開（完訳版）、生産性出版、2011
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	近末清美７号館 3F　７３４研究室　ｵﾌｨｽｱﾜｰ　水曜 16:30～17:30 事前・事後の予習・復習をしておくこと。 保健医療福祉関連する政策情報に注意し、その動向に注意・関心をもつこと。

開設科目名	看護学研究法	科目コード	MNSB507	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（必修）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	眞﨑直子	担当者	眞﨑直子、桃井雅子、崎田マユミ、谷多江子		

授業の概要（授業の目的）

看護における研究の意義と特徴を理解する。研究手法としての量的研究ならびに質的研究についてそれぞれの基本的知識を理解した上で、文献にみられる他者の研究をクリティークし、自己の研究課題に取り組む基礎を養う。またロイモデルを用いた文献を講読し、理論と実践の関連を理解することを目的とする。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）量的研究の特徴とプロセスを理解することができる。	3看護実践の追及
2）調査研究や実験研究にみられる研究デザインについて理解することができる。	7国際性・学際性の探求
3）測定用具の信頼性と妥当性について理解することができる。	8専門職業人としての発展
4）質的研究の特徴とプロセスを理解することができる	
5）文献を講読し、クリティークをすることができる	
6）研究倫理を理解した上で研究計画書の書き方を理解することができる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	看護研究の意義と研究疑問	講義	桃井	文献を読み、研究の概念について調べる	4時間
2	看護研究プロセス	講義	桃井	研究文献を読み研究構造の概略を調べる	4時間
3	系統的文献検索	講義	桃井	文献の種類、質などを概括する	4時間
4	研究デザイン（調査研究）	講義	崎田	調査の種類、構造、弱点、利点、をまとめる	4時間
5	研究デザイン（実験・准実験研究）	講義	崎田	因子・関係探索、因果探索などのデザインをまとめる	4時間
6	概念・理論枠組み	討議	崎田	看護に有用な理論と研究の結合について理解する	4時間
7	アウトカムについて 測定用具の信頼性と妥当性	講義	眞﨑	看護実践でのアウトカムについて考える 測定用具と研究結果の関係について理解する	4時間
8	質的研究・量的研究とは何か、研究テーマ	講義	眞﨑	質的・量的研究の興味あるテーマを調べてみる	4時間
9	研究方法を考える	講義	眞﨑	インタビューの結果に影響する要因について考える	4時間
10	質的データ・量的データ分析の方法	講義	眞﨑	興味ある文献に使用される各分析方法を調べてみる	4時間
11	結果と考察、文献レビュー	講義	眞﨑	質的・量的文献をいくつか収集してみる	4時間
12	研究倫理と研究計画書	講義	眞﨑	研究における具体的な倫理的配慮について考える	4時間
13	質的研究の実際	講義	谷	配布資料を復習する	4時間
14	文献クリティークのプレゼンテーション	演習	眞﨑	プレゼンテーションの準備を各自する	4時間
15	文献のクリティークのプレゼンテーション	討議	眞﨑	他者のプレゼンテーションと聞き、方法について考える	4時間

成績評価方法・基準	評価方法：レポート 50点（自身の興味ある研究課題の文献レビュー）文献クリティークプレゼンテーション 50点
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義最終日に講義やプレゼンテーションへの総評今後の学習アドバイスを行う。レポートの関しては、返却し学習のアドバイスを行う。
教科書	① D.F. ポーリット& C.T. ベック著、近藤潤子監訳：看護研究-原理と方法（Nursing Research Principles & Methods 7th Ed.2004）、2010、医学書院 ② 谷津裕子 Start up 質的看護研究 第2版 Gakken2015
参考書・参考文献	中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	眞﨑 火曜日 12：10～13：10 講義終了後質問を受け付けます。 ＊授業形式は「講義」形式ですが、ディスカッションを含めます。

開設科目名	EBNP 特論	科目コード	MNSB508	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	講義
責任者	眞﨑直子	担当者	眞﨑直子、井手悠一郎、崎田マユミ、中村和代、小浜さつき		

授業の概要（授業の目的）

Evidence based nursing practice （EBNP：科学的根拠に基づく看護実践）とは「入手可能な範囲で最も信頼できる根拠（質の高いエビデンス）を把握したうえで、理に適った看護を行うこと、あるいはこれを行うための一連の行動指針」である。この一連の過程を遂行するためには、データベースへアクセスして目的とする文献を効率よく探し出す能力（コンピュータリテラシー）、文献を吟味できる能力が必須である。この科目では臨床疫学を中心に学修し、臨床疫学は「疫学的手法を応用して、医師の診療行為や検査・治療法などの有効性を評価する学問」（SackettD.L,et al.）と定義されている。看護の分野において、看護領域におけるエビデンスを築くための臨床疫学研究、看護判断学の実際についても、看護教員を含む教員から体系的に学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．疫学の基礎を復習し、臨床看護の現場で、根拠に基づいた看護が実践できる	2．倫理の本質を捉えた実践
2．看護判断学の基礎（確率と結果の重み付けで、選択すべきケアが異なること）が説明できる	◎3、看護実践の追求
3．看護・医学・福祉に関する研究論文を批判的立場で解読でき、研究結果の信頼度を判断できる	7．国際性・学際性の探求
4．学会発表や論文投稿を行なう際にエビデンスを提示する図表の作成ができる	◎8．専門職業人としての発展
5．看護研究を行なう際に必要な倫理の基本が説明できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	科学的根拠に基づく医学研究、医学判断学	講義	眞﨑	講義資料の復習	4時間
2	科学的根拠に基づく医学研究、医学判断学	講義	眞﨑	講義資料の復習	4時間
3	研究デザインとエビデンスのレベル	講義	井手悠	講義資料の復習	4時間
4	看護研究と研究倫理	講義	眞﨑	講義資料の復習	4時間
5	質問票の作成	講義	中村	講義資料の復習	4時間
6	図表の作成（学会発表と論文の違い）	講義	小浜	講義資料の復習	4時間
7	研究倫理審査で求められる研究計画書	講義	井手悠	講義資料の復習	4時間
8	研究倫理審査で求められる研究計画書	講義	中村	講義資料の復習	4時間
9	臨床の経験に基づく看護研究	講義	小浜	講義資料の復習　（臨床看護）	4時間
10	看護職として働きながらの看護研究	講義	眞﨑	講義資料の復習　（看護実践のための看護職による研究）	4時間
11	共同研究の研究協力者	講義	中村	講義資料の復習　（共同研究者の立場、責務と倫理）	4時間
12	エビデンス構築のための看護研究の実際	講義	崎田	講義資料の復習	4時間
13	エビデンス構築のための看護研究の実際	講義	崎田	講義資料の復習	4時間
14	科学的根拠に基づく看護研究、看護判断学	講義 演習 討議	中村	資料の復習、 演習の予習	4時間
15	科学的根拠に基づく看護研究、看護判断学	講義 討論	眞﨑	資料の復習、演習の予習	4時間

成績評価方法・基準	レポート（70点）、プレゼン・演習取り組み状況（30点）により評価します。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義最終日に講義やプレゼンテーションへの総評今後の学習アドバイスを行う。レポートの関しては、返却し学習のアドバイスを行う。
教科書	中村好一；基礎から学ぶ楽しい疫学、第3版、医学書院、2013 日本疫学会編：はじめて学ぶやさしい疫学、疫学への招待、改定第3版、南江堂、2018
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	眞﨑直子　火曜日　12：10～13：10 講義終了後、教室で質問を受け付けます

開設科目名	疫学特論	科目コード	MNSB510	開設期	1年通年
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	井手悠一郎	担当者	井手悠一郎、堤千代、伊藤一弥、井手三郎、中村和代、眞﨑直子		

授業の概要（授業の目的）

疫学的実践を行う上で必須となる知識を修得する。また各回において提示される内容について考え、疫学的な思考力と判断力を身につける。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
疫学的実践を行う上で必須となる基礎知識を身につける	3.看護実践の追求、7.国際性・学際性の探求
疫学的思考の必要な場面において、基礎知識に基づいた判断を行うことができる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	疫学概論	講義	井手三	講義内容の復習	4時間
2	疫学的思考の紹介、因果関係の推論	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
3	疾病発生と因果的効果の測定（1）（割合、率）	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
4	疾病発生と因果的効果の測定（2）（比）	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
5	研究デザイン（1）（観察研究）	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
6	研究デザイン（2）（介入研究）	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
7	バイアス・交絡とその制御	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
8	偶然誤差と統計の役割	講義	堤	講義内容の復習	4時間
9	多変量解析による交絡の制御	講義	伊藤	講義内容の復習	4時間
10	カテゴリカルデータの検定	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
11	交互作用の評価	講義	伊藤	講義内容の復習	4時間
12	感度・特異度（ROC解析）	講義	中村	講義内容の復習	4時間
13	地域のデータ分析	講義	眞﨑	講義内容の復習	4時間
14	疫学研究手法と応用	講義	井手悠	講義内容の復習	4時間
15	疫学研究における医療費用と臨床効果	講義	井手三	講義内容の復習	4時間

成績評価方法・基準	WebClass上での試験 100% （※単位認定を希望する人については、WebClass上での試験を行い、その結果で単位認定を行います）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	単位認定試験の結果は、WebClass上で参照することができます。
教科書	基礎から学ぶ楽しい疫学．中村好一．医学書院
参考書・参考文献	ロスマンの疫学．Kenneth J. Rothman．篠原出版新社
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	*連絡先 井手悠一郎（6号館2階 井手悠一郎研究室）、オフィスアワー：火曜16：00～17：00 質問については、授業終了後に直接か、メールに宛てて送ってもらうとより確実です。 メールアドレスについては、Office 365のアドレスを参照してください。 ICT の活用：毎回の授業終了後に、WebClass 上で理解度についてのアンケートを行っています。授業終了後には回答の方をどうぞよろしくお願いします。 上記の単位認定試験は第14回授業終了後に、WebClass上で実施します。出題範囲は、「因果関係の判定、罹患率、罹患率比、オッズ比の計算、疫学用語の理解、研究デザインの種類と特徴、交絡、バイアスの制御」です。これまでの内容を復習の上授業に臨んでください。

開設科目名	臨床統計特論	科目コード	MNSB511	開設期	1年通年
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	堤　千代	担当者	堤　千代、角間辰之、川口淳、伊藤一弥　他		

授業の概要（授業の目的）

データを用いたパソコン演習によって統計の基本的知識を理解するとともに、Excel、JMP、R、SAS の操作スキルを習得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
尺度の種類に応じ、データの特性が記述できる	◎ 4.看護の質の向上への貢献 ◎ 7国際性・学際性の探求 ◎ 8専門職業人としての発展
推測統計の考え方を理解し、尺度の種類に応じた統計手法を選択できる	
JMP、R コマンダー、SAS の基本的操作ができる	
多因子解析や多重比較の概念が理解できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	担当者	方法	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	尺度の理解（度数分布とヒストグラム）	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
2	一変量の記述統計と図表化	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
3	正規分布	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
4	二変量の記述統計	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
5	推測統計の考え方	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
6	連続データの検定（t検定、等分散性の検定）	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
7	正規線形回帰分析	伊藤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
8	ロジスティック回帰分析	伊藤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
9	連続データの検定（分散分析、交互作用）	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
10	ノンパラメトリック検定	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
11	対応のあるデータの分析	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間
12	因子分析（1）理論	角間	講義・演習	講義内容の復習	4時間
13	因子分析（2）演習	角間	講義・演習	講義内容の復習	4時間
14	多重比較	川口	講義・演習	講義内容の復習	4時間
15	探索的データ解析	堤	講義・演習	講義内容の復習	4時間

成績評価方法・基準	WebClass 上での試験 100% （※単位認定を希望する人については、WebClass 上での試験を行い、その結果で単位認定を行います）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	単位認定試験の結果と解説は、WebClass 上で参照することができます。
教科書	新・看護・リハビリ・福祉のための統計学．柳川尭　他．近代科学社
参考書・参考文献	なし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	堤千代　オフィスアワー（火）12：10～13：10　　2号館 220 室（内線 240） tsutsumi@stmaryacjp.onmicrosoft.com この科目は、社会人履修証明プログラムとの合同授業であり、90 分以上の講義となることがあります。 ※　疫学特論、研究実践方法論、文献講読演習と関連して進行します。統計ソフトのセットアップやプログラミングの基礎は研究実践方法論で行い、それができている前提で演習を進めます。また、疫学特論と合同で講義を行うコマがありますので、本科目単独の履修はお勧めしません。 ※　CNS コースの方は、実習優先のため履修できない時期に授業が入ることがありますのでご注意ください。

開設科目名	文献講読演習	科目コード	MNSB512	開設期	1年通年
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	井手悠一郎	担当者	井手悠一郎、清原裕、原めぐみ、桃井雅子、室谷健太		

授業の概要（授業の目的）

文献検索とクリティークの手法を学び、著名な研究論文を読解し、批判的思考を身につける。多様な領域における先行研究から、適切な研究手法と研究意義を学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
文献検索ができる	4.看護実践の追及
指定された論文のクリティークができる	4.看護実践の追及
著名な先行研究から研究手法と研究意義を理解することができる	7.国際性、学際性の探求

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	文献検索	講義・発表等	桃井	講義内容の復習	4時間
2	文献のクリティーク（1）	講義・発表等	桃井	講義内容の復習	4時間
3	文献のクリティーク（2）	講義・発表等	桃井	講義内容の復習	4時間
4	文献講読演習（1）（文献の検索）	講義・個人ワーク	井手悠	各自の選択した論文の講読	4時間
5	文献講読演習（2）（文献の選定）	個人ワーク	井手悠	各自の選択した論文の講読	4時間
6	文献講読演習（3）（文献の読み込み）	個人ワーク	井手悠	各自の選択した論文の講読	4時間
7	文献講読演習（4）（文献の要約）	個人ワーク	井手悠	講読した論文の発表	4時間
8	文献における統計の見方（1）	講義	室谷	講義内容の復習	4時間
9	文献における統計の見方（2）	講義	室谷	講義内容の復習	4時間
10	地域保健に関する研究（1）（ワクチン研究）	講義	原	講義内容の復習	4時間
11	地域保健に関する研究（2）（J-Micc Study）	講義	原	講義内容の復習	4時間
12	久山町研究（1）（立ち上げと発展の歴史）	講義	清原	講義内容の復習	4時間
13	久山町研究（2）（新しい健康問題）	講義	清原	講義内容の復習	4時間
14	文献講読演習（5）（発表資料作成）	個人ワーク	井手悠	講義内容の復習	4時間
15	発表	発表	井手悠	講義内容の復習	4時間

成績評価方法・基準	論文講読演習の成果物　100% （※単位認定を希望する人については、文献講読演習の成果物を評価し単位認定を行います）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	単位認定希望者に対しては、上記提出物の評価結果を WebClass 上で開示します。
教科書	指定なし
参考書・参考文献	適宜参考書を紹介します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	*連絡先　井手悠一郎（6号館2階　井手悠一郎研究室）、オフィスアワー：火曜 16：00～17：00 質問については、授業終了後に直接か、メールに宛てて送ってもらうとより確実です。 メールアドレスについては、Office 365 のアドレスを参照してください。 ICT の活用：毎回の授業終了後に、WebClass 上で理解度についてのアンケートを行っています。授業終了後には回答の方をどうぞよろしくお願いします。 論文講読演習の成果物の提出は WebClass 上で行います。

開設科目名	研究実践方法論	科目コード	MNSB513	開設期	1年通年
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	堤 千代	担当者	堤 千代、池田浩、川口淳、桃井雅子、中村和代 他		

授業の概要（授業の目的）

自身の臨床疑問をリサーチクエスチョンに構造化する思考を養う。研究課題にそった適切な研究手法を選択し、倫理に配慮した研究計画を策定する過程を学ぶ。信頼性と妥当性の観点から適切な質問紙調査の方法を理解し、尺度開発の方法を理解する。データを用いた演習を通して、Excel、JMP、R コマンダー、SAS の基本的操作を学び、研究実践の基礎を身につける。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
自分の課題について、必要なポイントをふまえた研究計画書を作成できる	◎8．専門職業人としての発展
研究倫理を理解し、倫理に配慮できる態度を身につける	◎2．倫理の本質を捉えた実践
信頼性と妥当性の観点から、適切な質問調査票を考えることができる	◎4．看護実践の追求
Excel、JMP、R コマンダーの基本操作と、SAS を用いた基本的なプログラミングができる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	科目ガイダンスと統計ソフトのセットアップ	講義	堤	研究や調査になりそうな身近な疑問を考えておく	4時間
2	リサーチクエスチョンの構造化	講義	堤	身近な例からリサーチクエスチョンを考える	4時間
3	研究方法計画書の概要	講義	中村	自分の研究課題について研究計画書を作成する	4時間
4	研究計画書作成演習	演習	中村	自分の研究課題について研究計画書を作成する	4時間
5	研究計画素案発表とディスカッション	演習	中村	意見を受けて、研究計画書を修正する	4時間
6	SAS プログラミング パソコン演習	演習	堤	講義内容の復習	4時間
7	研究者の倫理と倫理的配慮	講義	桃井	講義内容の復習	4時間
8	質問紙調査	講義	堤	講義内容の復習	4時間
9	尺度の信頼性と妥当性	講義	池田	講義内容の復習	4時間
10	尺度の信頼性と妥当性 質問項目抽出演習	演習	池田	演習内容の復習	4時間
11	データマネジメント パソコン演習	演習	堤	演習内容の復習	4時間
12	研究計画書作成演習	演習	堤	自分の研究課題について研究計画書を作成する	4時間
13	スライド作成のポイント	講義	堤	講義内容の復習	4時間
14	サンプルサイズの設定	講義・演習	川口	講義内容の復習	4時間
15	研究計画書発表とディスカッション	演習	堤	発表準備	4時間

成績評価方法・基準	自身の臨床疑問を明確化し、研究計画書を作成して発表する 100%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	中間発表、最終発表の回に、それぞれにディスカッションを通じてフィードバックを行う。
教科書	看護リハビリ福祉のための統計学．柳川尭 他．近代科学社
参考書・参考文献	リサーチ・クエスチョンの作り方．福原俊一．健康医療評価研究機構
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ	堤千代 オフィスアワー（火）12：10～13：10　2号館 220 室（内線 240） tsutsumi@stmaryacjp.onmicrosoft.com この科目は、社会人履修証明プログラムとの合同授業であり、90 分以上の講義となることがあります。 ※ 疫学特論、臨床統計特論、文献講読演習と関連して進行します。臨床統計特論で使用する統計ソフトのセットアップやプログラミングの基礎はこの科目で行います。また、研究計画書の作成の基礎となる文献レビューの方法は文献講読演習で履修しているものとして講義が進行しますので、本科目単独の履修はお勧めしません。 ※ CNS コースの方は、実習優先のため履修できない時期に授業が入ることがありますのでご注意ください。

開設科目名	生体感染防御論	科目コード	MNSB513	開設期	１年通年
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	黒岩中	担当者	黒岩中、本田順一、井手悠一郎		

授業の概要（授業の目的）

現代社会は人口の高齢化に基づく日和見感染症、薬剤耐性菌の出現による病院感染の拡がり、地球規模での環境破壊、人口の都市集中による新興・再興感染症の勃興や感染症のグローバル化（パンデミックな拡大）等で新たな「感染症の時代」であることを常に念頭に置きながら講義をする。それに基づいてそれぞれの対応について考えさせる。

① 病原微生物の特性とそれによる感染症の成因、および対応する生体の防御免疫機構を学び、適正な治療法や予防法を理解する。

② 地域および病院における感染症の発症および流行、母性・小児・成人・老人の感染発症の特徴、易感染者の特性などについて学ぶ。

③ 交通網の発展に伴う急速なグローバル化で感染症もパンデミックな拡大をみせることから、これら国際感染症の現状と対策を学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．病原微生物の特性とそれによる感染症の成因、および対応する生体の防御免疫機構を学び、適正な治療法や予防法が理解できる。	３看護実践の追求 ４看護の質向上への貢献 ８専門職業人としての発展
２．地域および病院における感染症の発症および流行、母性・小児・成人・老人の感染発症の特徴、易感染者の特性について理解できる	
３．交通網の発展に伴う急速なグローバル化で感染症もパンデミックな拡大をみせることから、これら国際感染症の現状と対策について理解できる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	微生物学概論： 感染と感染症	講義	黒岩	国内外から日々伝えられるニュースの中から、この事に関する話題に注意を払っておく、 教科書①を参照する	４時間
2	感染防御免疫学 １非特異的防御機構	講義	黒岩	配布資料を参考に自然免疫機構を学習する	４時間
3	感染防御免疫学 ２特異的防御機構	講義	黒岩	配布資料を参考に適応免疫機構を学習する	４時間
4	ゲノム微生物学	講義	黒岩	教科書②を参照し微生物の遺伝的背景を学習する	４時間
5	細菌学とその感染症	講義	黒岩	教科書①，②を参照し細菌感染症を学習する	４時間
6	ウイルス学とその感染症	講義	黒岩	教科書①、②を参照しウイルス感染症を学習する	４時間
7	その他の感染症：真菌、原虫、プリオンなど	講義	黒岩	教科書①、②を参照し真菌、原虫、プリオン感染症を学習	４時間
8	感染症の診断と治療①：細菌感染症と抗菌薬	講義	本田	教科書①、②を参照し抗細菌化学療法を学習する	４時間
9	感染症の診断と治療②：ウイルス感染症を中心として	講義	井手	教科書①、②を参照し抗ウイルス、抗真菌剤、などを学習する	４時間
10	病院感染について：多剤耐性菌対策	講義	本田	配布資料、参考書などを通して「院内感染」の実態を知る	４時間
11	日和見感染症	講義	本田	配布資料、参考書などを通して「日和見感染症」について調べる	４時間
12	感染症コントロール	講義	本田	配布資料、参考書などを通して 「院内感染対策」などを調べる	４時間
13	グローバル時代の感染症対策	講義	井手	① グラーバル化時代の再興・新興感染症について学習する	４時間
14	新興・再興感染症	講義	井手	② 特にＡ型インフルエンザウイルスについて学習する	４時間
15	パンデミック規模の感染症に対する予防策： 高病原性トリインフルエンザＡウイルス対策など	講義	井手	③ その他パンデミックになる感染症についてその対策などを学習する	４時間

成績評価方法・基準	定期試験（50%）、レポート（40%）、学習態度（10%）等を基準に評価する。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	レポートは後日総評をお知らせします
教科書	① Mechanisms of Microbial Disease：（Ed.）Engleberg, N LWW, 2006 ② 南嶋洋一ほか編『系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学』医学書院 13 版 2019
参考書・参考文献	感染制御学 （編） 矢野邦夫、ほか 文光堂 2015 「新院内感染予防対策ハンドブック」 （編） 国立病院機構大阪医療センター 南江堂 2007
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談 メッセージ・その他	黒岩中（非常勤）akuroiwa@fukuoka-u.ac.jp 看護師として常に compromised hosts と接する立場上、自身が感染病原体の媒介者になる恐れが有ることを含め、この講義を確実に理解すること。

開設科目名	ライフスパンフィジカルアセスメント	科目コード	MNSB514	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	演習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、宮林郁子、﨑田マユミ、鶴田明美、浅野美智留、小浜さつき、大城知恵、酒井輝文、千住秀明、武岡宏明、佐藤友紀他		

授業の概要（授業の目的）

先ず、講義や演習を通して大学院教育におけるフィジカルアセスメントの目的、高度看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する。次いで、デモンストレーションやシミュレーション、模擬患者を通して複雑な健康問題を持つ患者を対象とした高度看護実践に必要なフィジカルアセスメント技術を領域別に習得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．大学院教育におけるフィジカルアセスメントの目的、高度看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する。 2．複雑な健康問題をもつ患者を対象とした高度看護実践に必要なフィジカルアセスメント技術を習得する。	3．看護実践の追及、4．看護の質向上への貢献、8．専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	大学院教育におけるフィジカルアセスメントの目的	講義	宮林	高度看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義について予習し講義に臨む。	4時間
2	高度看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義	講義	宮林		4時間
3	フィジカルアセスメントの基本的技法（問診、視診、聴診、触診、打診他）	演習	日高 鶴田	フィジカルアセスメントの基本的技法について復習し講義に臨む。	4時間
4	胸部（呼吸）	演習	千住・ 﨑田	呼吸のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
5	胸部（呼吸）	演習	千住・ 﨑田		4時間
6	胸部（循環）	演習	鶴田	循環のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
7	腹部（消化管、尿路系）	演習	酒井・ 佐藤	腹部のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
8	腹部（消化管、尿路系）	演習	酒井・ 佐藤		4時間
9	感覚・神経	演習	日高	感覚・神経のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
10	頭部、眼、耳、鼻と副鼻腔、口と咽頭、頚部	演習	武岡	頭部、眼、鼻と副鼻腔、口と咽頭、頚部のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
11	頭部、眼、耳、鼻と副鼻腔、口と咽頭、頚部	演習	武岡		4時間
12	小児	演習	大城	小児のフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
13	ウィメンズヘルス	演習	浅野	ウィメンズヘルスのフィジカルアセスメントについて復習し講義に臨む	4時間
14	Head to Toe	演習	小浜	Head to Toeについて復習し講義に臨む	4時間
15	まとめ	演習	日高		4時間

成績評価方法・基準	1．実技試験70%、2．筆記試験30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	実技試験のフィードバックは、試験時に行います。
教科書	Lynn，S．Bickley著、福井次矢・井部俊子監修：Bates' Guide to Physical Examination and History Taking
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子：7号館3階731研究室、オフィスアワー：金曜日16：30～17：30 本科目は、2年次前期に開講される療養支援慢性看護学演習ⅠB（2）と連動している。療養支援慢性看護学演習ⅠB(2)においては、本科目で学んだ内容が基盤となる。 備考：使用機器　ラングモデル、イチロー、呼吸器・循環器聴診シミュレーター、乳がん触診モデル、消化器触診モデル、脳神経診察セットなど。

開設科目名	臨床病態生理学	科目コード	MNSB515	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	講義
責任者	本田 浩	担当者	本田浩、中山和道、河野弘志、今村豊、武岡宏明、福嶌由尚、田代英樹、神保幸太郎、中野輝明、江口善朗、東治道、布井清秀、佐藤雄一、大部敬三、村上文洋、阿部俊文、坂西雄大		

授業の概要（授業の目的）

疾病の病態生理の理解は医師・看護師を始めとする医療提供者の臨床活動の基礎をなす領域である。高度実践看護業務を行うには必須のコア科目として位置づけられている。疾病や身体機能の変化に対応した高度実践看護に必要な知識として、発熱、頭痛、胸痛、腹痛、全身倦怠などの主要症候から診断までの過程、小児や高齢者、女性の診療の際に留意すべき点を、其々の疾患の病態生理を各科の専門医師より学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．主要症候から診断までの過程を理解し、鑑別すべき疾患を説明できる	3．看護実践の追求
2．各疾患の病態生理を理解し、説明できる	3、看護実践の追求
3．小児や高齢者、女性の診療の際に留意すべき点を理解し、説明できる	3、看護実践の追求

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	各領域疾患と画像	講義	本田	講義資料の復習	60分
2	胸痛と腹痛	講義	坂西	講義資料の復習	60分
3・4	脳、頭頸部系領域	講義	福嶌	講義資料の復習	60分
5・6	骨・筋肉系	講義	神保	講義資料の復習	60分
7・8	呼吸器領域	講義	武岡	講義資料の復習	60分
9・10	循環器領域	講義	田代	講義資料の復習	60分
11・12	消化器領域	講義	中山	講義資料の復習	60分
13・14	消化器領域	講義	河野	講義資料の復習	60分
15・16	内分泌・糖尿病	講義	布井	講義資料の復習	60分
17	内分泌・糖尿病	講義	佐藤	講義資料の復習	60分
18・19	腎疾患・水電解質	講義	東	講義資料の復習	60分
20	泌尿器・男性生殖器	講義	江口	講義資料の復習	60分
21	女性生殖器	講義	村上	講義資料の復習	60分
22・23	リウマチ・膠原病	講義	中野	講義資料の復習	60分
24・25	血液・腫瘍疾患	講義	今村	講義資料の復習	60分
26	小児の特徴	講義	大部	講義資料の復習	60分
27	全身疾患と関連した皮膚病変	講義	阿部	講義資料の復習	60分
28～30	各領域疾患と画像	講義	本田	講義資料の復習	60分

成績評価方法・基準	試験（50%）、レポート、授業態度等の各担当教員による評価（50%）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	試験：模範解答を後日配布する
教科書	福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、第2版、医学書院 一目でわかる内科学(日本語版監修、日野原重明)、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2004.　(Patrick Davey eds. Medicine at a Glance, Blackwell Sciences, 2002) この他、必要に応じて資料配布
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	各講義の順番は入れ替わることがありますので、時間割で確認して下さい。

開設科目名	臨床薬理学	科目コード	MNSB516	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	古賀恭子	担当者	古賀恭子、田中正敏、三宅秀敏、石原純一、長嶋フクエ、松本隆範		

授業の概要（授業の目的）

薬物療法を行うにあたっては、薬物の生体への作用メカニズムを理解している必要がある。薬剤学、薬物動態学、薬力学の観点から薬物の生体への作用メカニズムを学び、臨床で汎用される薬物について、安全で有効な効果が得られるよう、その作用効果、使用方法、患者ケア・服薬管理など、看護に必要な知識を深める。また、ケーススタディにより学習を深める。高度看護実践に必要な薬物療法の知識を取得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．医薬品の基礎知識を理解する	3看護実践の追求
2．各種疾患治療に使用される代表的な医薬品の適正使用について理解する	4看護の質向上への貢献
3．各種疾患治療に使用される代表的な医薬品について、看護実践的な視点から理解する。	8専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	臨床薬理学総論、薬物法規、薬効評価	講義	古賀	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
2	薬物動態学、薬物血中濃度測定の臨床的意義（吸収・分布・代謝・排泄、併用薬との相互作用）	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
3	なぜ臨床薬理学が必要か、ﾌﾟﾗｾﾎﾞ効果、動物とヒトの違い	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
4	薬の評価の実際、前臨床試験、第1相～第4相試験、説明と同意、GCP 基準	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
5	肝・腎障害時の医薬品投与についての考え方	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
6	精神・神経疾患とくすりの適正使用（うつ・不安・不眠症・総合失調症、パーキンソン病などに用いるくすり）	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
7	炎症・痛みとくすりの適正使用（解熱、消炎、鎮痛剤の適正使用・・・麻薬を含む）	講義	田中	講義資料の該当部分を予習しておく	4時間
8	添付文書の読み方と処方箋の読み方	講義	古賀	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
9	糖尿病/アレルギー性疾患とくすりの適正使用	講義	石原	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
10	循環器疾患とくすりの適正使用	講義	石原	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
11	消化器疾患（肝炎を中心に）とくすりの適正使用	講義	松本	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
12	感染症とくすりの適正使用（抗菌薬、抗ウイルス剤など）	講義	松本	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
13	癌化学療法の実際	講義	三宅	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
14	輸液療法の実際	講義	長嶋	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間
15	ケーススタディにより、適切な薬物療法について検討する。	講義	古賀	講義資料、関連資料を復習し、理解を深める	4時間

成績評価方法・基準	①筆記試験 100%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義ごとに講義の総評を行い、今後の学習アドバイスを行う
教科書	特に指定しない
参考書・参考文献	「新版　超図解薬はなぜ効くか」田中正敏　講談社、授業の中で適宜紹介する
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	古賀恭子（非常勤、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院） 質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	異文化理解と国際医療協力論	科目コード	MNSB517	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	秦野環	担当者	秦野環、Eric FORTIN、中島小乃美		

授業の概要（授業の目的）

国際保健医療協力を行うにあたり、参加する人々や国々、国際的な連携を理解し尊重することが求められる。異文化の存在を理解し、尊重する姿勢が重要であることから異文化理解の学習が前提となる。国際協力の現場で保健医療の現状・問題を分析し、関係諸機関と連携協力しながら健康問題に取り組むための基礎的知識・方法論を学ぶ。国際協力の取り組みとして「持続可能な開発目標」の進捗状況と課題を考察する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
文化の構成要素を説明できる 自己がもつ文化とは異なる文化の存在を理解する 国際保健医療協力の基礎となる政治、経済、社会、文化的背景の重要性を考慮する意義を理解する 文化が人々の健康に影響を与えることを理解し、具体例を説明できる	1. 全人的ケアの探求、 2. 倫理の本質をとらえた実践、 7. 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	学習ガイダンス（毎回の授業は、予習に基づいてプレゼンテーションを行い、担当教員の講義と合わせてディスカッションを進める） 異文化理解とは	講義	秦野	文化とはについて予習する	4時間
2	異文化コミュニケーション 異文化と国際理解	講義	中島	文化とはについて予習する	4時間
3	文化の構成（1）宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	講義	Fortin	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教を予習する	4時間
4	文化の構成（2）宗教（アフリカ、アジア、日本など）	講義	中島	アフリカ、アジア、日本などの宗教を予習する。 特に仏教、チベット仏教など	4時間
5	文化の構成（3）国家、言語（Fortin）	講義	Fortin	第1回～第4回までを復習しておく	4時間
6	多様な文化（1）難民 他	講義	秦野	難民と、現状を調べる	4時間
7	多様な文化（2）コミュニケーション	講義	秦野	コミュニケーションを構成するものを考える	4時間
8	英語による"日本の文化の紹介"	講義	Fortin	英語による"日本の文化の紹介"の準備を行う	4時間
9	英語による"異文化理解のまとめ	講義	Fortin		4時間
10	開発途上国における医療活動の実際・MDGsを含む	講義	秦野	MDGsを復習しておく	4時間
11	文化・歴史が医療制度に与える影響	講義	秦野	調査対象とする予定の国について調べる	4時間
12	国際保健協力総論 戦後から現在までの国際協力の概要、 協力成果と課題、将来の展望	講義	秦野	日本政府が行ってきた国際医療協力について調べる	4時間
13	日本政府が行う国際協力	講義	秦野	日本政府が行ってきた国際医療協力について調べる	4時間
14	日本政府が行う国際協力	講義	秦野	日本政府が行ってきた国際医療協力について調べる	4時間
15	日本政府が行う国際協力	講義	秦野	日本政府が行ってきた国際医療協力について調べる	4時間

成績評価方法・基準	評価： 授業外レポート 50点、 授業内での参加度 30点、プレゼンテーション 20点
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	毎回の授業の中で行うディスカッションを活用し、行う。
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	秦野環 2号館一階 214研究室 hatano@st-mary.ac.jp オフィスアワー： 火曜日 12時10分～13時10分、その他はメールでご連絡ください。調整します。メールアドレスはoffice365を活用ください。

開設科目名	APN（Advanced Practice Nursing）特論	科目コード	MNSB518	開設期	１年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	矢野正子	担当者	矢野正子、日高艶子		

授業の概要（授業の目的）

わが国における高度実践看護を検討するには、その例として米国の高度実践看護(APN)についての知識が必要であることから、その例としてナースプラクティショナー(NP)とは何か、をいくつかの側面から学ぶ。すなわち、NPとは何か、NPの歴史、NPが提供する看護はどのようなものか、業務範囲、NPになるための教育とライセンス、そしてNPの法的根拠などがある。また、これらに加えてNPの実践・教育・研究について学ぶため、NPに関連する文献を検討する。これらの学習からわが国におけるAPNのあり方や課題をまとめる。

看護職が高度実践看護を通して人々のQuality Careの実現と健康の維持増進に貢献するために役割・機能の拡大を図ろうという動きが米国はもとよりヨーロッパ、アジア地域でも見られるようになり、各国で制度化されてきている。看護の分野で、NPという新たな高度実践や役割拡大、制度化されるに至った過程やその背景、実態、課題などについて学び、将来のわが国の看護を展望する視野を拡げる。

APN特論では、APNの１例としてNPを取り上げ、その制度・教育などの概要を学ぶ。高度実践看護を担う看護師の教育のあり方について、教育内容、特にその中でも高度"Advanced"と呼ばれるのは、どのような能力・実践が期待されるのか、カリキュラムの内容や教育方法、医師などとの役割・機能や業務範囲との関連、その他教育・研究などを可能な限り実践的な理解が深められるように探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．高度実践看護(APN)とは何か、その誕生の地である米国での歴史を学び説明できる	７国際性・学際性の探求
２．米国の看護業務法で位置づけられているAPNの資格、業務を理解し、説明できる	７国際性・学際性の探求
３．米国APNのうちの１つであるNPについて、その教育、実践（業務）の範囲、法的側面、他の医療職との連携について説明できる	７国際性・学際性の探求
４．わが国のAPNとして専門看護師が生まれた経緯、役割、資格認定について説明できる	３看護実践の追求　４看護の質向上への貢献７国際性・学際性の探求
５．わが国におけるAPNの課題を明確にし、その対策を検討し、まとめることができる	１全人的ケアの探求　３看護実践の追求　４看護の質向上への貢献　８専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容		担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	APNの中のNurse Practitionerについて、提供される看護と、NPと他の医療関係者との業務の相違を知り、わが国の状況に照らし合わせた考察をする。			次回の講義内容を予習し、専門用語の意味を理解しておく	
1	米国におけるAPNの歴史	講義	矢野	教科書①第１章、教科書②Part１(APNの歴史)	４時間
2	米国におけるAPNのコンピテンシー、臨床実践、ガイダンス・コーチングなど	講義	矢野	教科書②PartⅡ7・8(APN の臨床実践、ガイダンス・コーチング)	４時間
3	米国における APN のコンピテンシーとして、EBP、リーダーシップ、連携、倫理的課題など	講義	矢野	教科書②PartⅡ10～12(EBP、リーダーシップ、連携、倫理的課題)	４時間
4	米国におけるCNS、NPの定義と役割	講義	矢野	教科書②PartⅢ14～16(CNS、NPの定義・役割)	４時間
5	米国におけるCNM、CRNAの定義と役割	講義	矢野	教科書②PartⅢ17・18(CNM、CRNA の定義と役割)	４時間
6	ANPの１つであるNPについて① 定義、業務、資格、分野	講義	矢野	教科書①chapter1(NPとは何か)	４時間
7	ANPの１つであるNPについて② 法制度の歴史、他の医療関係職種との連携 （PA, Physician など）	講義	矢野	教科書①chapter1(NPの歴史、他医療職との相違)	４時間
8	ANPの１つであるNPについて③ RN,CNSとの役割の違い	講義	矢野	教科書①chapter1(NPとRN,CNSとの相違)	４時間
9	ANPの１つであるNPについて④ 業務範囲、Scope of Practice	講義	矢野	教科書①chapter2(NPの法的な業務範囲)	４時間
10	ANPの１つであるNPについて⑤ Scope of Practice-MDとの比較	講義	矢野	教科書①chapter2(NPの業務範囲の医師との相違)	４時間
11	米国で活躍するNP（L氏、O氏、E氏）	講義	矢野	参考資料(米国の日本人NP)	４時間
12	わが国におけるAPNについての位置づけ① 専門看護師、認定看護師	講義	矢野	参考資料(わが国の専門看護師、認定看護師の位置づけ)	４時間

13	わが国における APN についての位置づけ② 特定行為研修制度	講義	矢野	参考資料(わが国の特定行為研修制度の内容)	4 時間
14	わが国における実際例①専門看護師の活動	講義	矢野	参考資料(専門看護師の業務)	4 時間
15	わが国における実際例②特定行為研修修了者の活動	講義	矢野	参考資料(特定行為研修修了者の業務)	4 時間

成績評価方法・基準	① 授業への参加状況 50%　②課題への取り組み 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の模範解答を講義内に、または後日提示する ・講義中、または後日返却する
教科書	① Carolyn Buppert (2011), Nurse Practitioner's Business Practice and Legal Guide (4th ed.), Jones & Bartlett Learning ② Hamric, A. 他(2014), Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5th edition
参考書・参考文献	看護研究 Jul-Aug, 2015 日本看護系大学協会(2012) 米国におけるナースプラクティショナーの教育・実践・研究の実際 ＊参考資料は随時提示します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	矢野正子（非常勤）　質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	ヘルスプロモーション看護学特論	科目コード	MNSA501	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	眞崎直子	担当者	眞崎直子		

授業の概要（授業の目的）

ヘルスプロモーション看護の理念・目的・対象・活動方法の特性について、保健師教育や保健師活動の歴史的検証、健康政策の動向について文献探求し、現在要請される関係機関・関係者との協働と連携による実践活動－施策化、事業化、社会資源開発、システム化－の活動計画を立案できる。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．ヘルスプロモーション看護の基本理念と活動の特性を考慮し、地域で生活する人々の健康を支援する看護活動の計画立案・実施・評価ができる。 2．ヘルスプロモーション看護の展開過程－ヘルスプロモーションを基軸にした施策化、事業化、社会資源開発、システム化－について活動計画を立案できる。	1.全人的ケアの探求 7.国際性・学際性の探求 8.専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	ヘルスプロモーション看護の定義	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
2	保健師教育の歴史的検証と動向	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
3	システム化に係る保健師活動の歴史的検証①	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
4	システム化に係る保健師活動の歴史的検証②	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
5	医療制度改革と地域ケアシステム①	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
6	医療制度改革と地域ケアシステム②	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
7	自治体政策上の課題たる地域連携、地域開発（community development）①	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
8	自治体政策上の課題たる地域連携、地域開発（community development）②	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
9	保健師の活動の場と職制（市町村・保健所他）① 保健師活動の場の広がり	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
10	保健師の活動の場と職制（市町村・保健所他）② 学校・産業分野との連携強化 等	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
11	活動態様とヘルスプロモーション看護の活動体系①	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
12	活動態様とヘルスプロモーション看護の活動体系②	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
13	活動態様とヘルスプロモーション看護の活動体系③	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
14	活動態様とヘルスプロモーション看護の活動体系④	講義	眞崎	各講義終了時に指示する。	4時間
15	ヘルスプロモーション看護の今日的課題と将来展望 連携と協働からシステム化への実践力強化	講義	眞崎	レポート：15 回の授業の中から、システム化の観点から捉えたヘルスプロモーション看護についてまとめる。	4時間

成績評価方法・基準	1.授業への参加状況 40% 2.レポート 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義最終日に講義の総評や今後の学習アドバイスを行う。レポートの関しては、返却し学習のアドバイスを行う。
教科書	①金川克子・早川和生（監訳）（2007）．コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第２版）．医学書院. ②公衆衛生看護学…ｊＰ：インターメディカル ③公衆衛生看護学演習・実習：クオリティケア
参考書・参考文献	・神馬征峰（2005）．実践ヘルスプロモーション．医学書院．他　参考書は別途提示する。 ・安梅勅江（編著）（2005）．コミュニティ・エンパワメントの技法．医歯薬出版株式会社.適宜提示する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	眞崎直子（7号館２階 722 研究室）　火曜日 12：10～13：10、その他在室時 ＊ICT の活用：演習後は WebClass で理解度の確認テストを受けることができます。解説を確認し、復習に活用してください。 その他メッセージ等があればご記入ください（メールでも可）masaki@st-mary.ac.jp

開設科目名	ヘルスプロモーション看護学演習(地域包括ケアシステム)	科目コード	MNSA502	開設期	１年後期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義･演習
責任者	眞﨑直子	担当者	眞﨑直子、渋江暁春		

授業の概要（授業の目的）

地域包括ケアシステム構築に係る活動の展開理論、方法について、実際の活動事例を用い学ぶ。さらに、理論・方法を用いた文献から活動展開上の課題を探求する。そして、活動展開に要する住民主体の関係機関・関係者との連携・協働に係る参加型実践方法、ならびに、疫学・統計手法による地区診断の方法・技術を学び、地域看護活動展開上の質的・量的根拠資料の作成技術を習得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 地域包括ケアシステム構築過程に係る研究の現状と課題を説明できる。 2. 地域包括ケアシステム構築に係る参加型実践方法を活用できる。 3. 地域診断・展開方法の手法の比較から地域看護活動における最適な方法を抽出できる。 4. 疫学・統計手法を的確に活用でき地区診断に役立てることができる。	1.全人的ケアの探求 7.国際性・学際性の探求 8.専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	地域包括ケアシステム構築過程についての現状と課題	演習	眞﨑	各講義終了時に指示する。	４時間
2	地域包括ケアシステム構築過程に係る理論と実践活動 ①プリシード・プロシードモデル、コミュニティー・アズ・パートナーモデル	演習	眞﨑	各講義終了時に指示する。	４時間
3	地域包括ケアシステム構築過程に係る理論と実践活動 ②理論上の用語と実践用語の使い分け「看護診断・保健計画・施策化」	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
4	地域包括ケアシステム構築過程に係る理論と実践活動③	演習	眞﨑	各講義終了時に指示する。	４時間
5	参加型実践方法 フォーカス・グループ・ディスカッション、PCM 法、アクション・リサーチ、KJ 法	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
6	参加型実践方法 FGD、PCM 法、アクション・リサーチ、KJ 法	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
7	参加型実践方法 FGD 法、PCM 法、アクション・リサーチ、KJ 法	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
8	地域看護過程に係る理論・方法の限界と課題－《話し合い》による解決策の検討と合意形成	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
9	《話し合い》の場における意見の質的統合の方法－現象学的探求法の実際①	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
10	《話し合い》の場における意見の質的統合の方法－現象学的探求法の実際②	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
11	《話し合い》の場における意見の質的統合の方法－現象学的探求法の実際③	演習	眞﨑 渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
12	疫学・保健統計と看護－地区診断技術	演習	眞﨑・渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
13	疫学・保健統計の実際①	演習	眞﨑・渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
14	疫学・保健統計の実際②	演習	眞﨑・渋江	各講義終了時に指示する。	４時間
15	地域包括ケアシステムにおける実践方法総括	講義	眞﨑	各講義終了時に指示する。	４時間

成績評価方法・基準	1.授業への参加状況 40% 2.レポート 60%（地域包括ケアシステム構築に必要な実践の場での研究計画立案について、実際の事例を通して論じる。）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義最終日に講義の総評や今後の学習アドバイスを行う。 レポートの関しては、返却し学習のアドバイスを行う。
教科書	①金川克子・早川和生（監訳）（2007）．コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（第２版）．医学書院. ②公衆衛生看護学…ｊＰ：インターメディカル ③公衆衛生看護学演習・実習：クオリティケア
参考書・参考文献	・新谷歩（2016）．みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター．講談社 ・新谷歩（2016）．みんなの医療統計多変量解析編 10 日間で基礎理論と EZR を完全マスター．講談社.
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ・その他	眞﨑直子（7 号館 2 階 722 研究室）　火曜日 12：10～13：10、その他在室時 office365 のメールでアポイントを取って下さい。質問はメールでも受け付けます。masaki@stmaryacjp.onmicrosoft.com ＊ICT の活用：演習後は WebClass で理解度の確認テストを受けることができます。解説を確認し、復習に活用してください。

開設科目名	小児・子育て支援看護学演習	科目コード	MNSA504	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	演習
責任者		担当者			

授業の概要（授業の目的）

小児・子育て支援の諸課題および現象をあげ、学際的・多様的支援方法を考究する。
特論で取り上げた子どもと子育てに関連する概念および現象の理解に基づき、研究ゼミにおいては子どもと家族の支援方法に焦点をあて、国内外の研究文献や事例等を通して検討する。おかれた状況に合わせた支援方法の適用および開発に向けた取り組みをめざす。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．子どもと家族の支援方法に焦点をあて、国内外の研究文献や事例等を通して検討することができる。	
2．おかれた状況に合わせた支援方法の適用および開発に向けた取り組みを考えることができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	1．小児・子育て支援方法の概要 2．子どもに関連するさまざまな現象と現象の記述法 1）子どもの心の悲しみや葛藤の理解と支援 —「悲しみの子どもたち—罪と病を背負って」（岡田尊司著）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
2	2）描画にみる子どもと家族の情緒的表象と描画法の活用 3）子どもの虐待予防と子育て環境の理解 —「子どもの遊びプレジェクト」にみる子どもおよび養育者のセルフケアの芽を育くむ支援	演習		講義内容の予習、復習	4時間
3	4）子どもの慢性疼痛体験の理解と支援（1）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
4	5）慢性疼痛を体験する子どもの支援（2） ソーシャルサポートとネットワーク支援	演習		講義内容の予習、復習	4時間
5	3．子ども・子育て支援の研究と倫理的配慮 1）倫理的課題	演習		講義内容の予習、復習	4時間
6	3．子ども・子育て支援の研究と倫理的配慮 2）子どもを対象にした「アンケート作成」の言葉の表現	演習		講義内容の予習、復習	4時間
7	3．子ども・子育て支援の研究と倫理的配慮 3）『子どもの主観的健康観』の研究にみる子どもへの面接方法	演習		講義内容の予習、復習	4時間
8	3．子ども・子育て支援の研究と倫理的配慮 4）子どもを対象にした国内外の諸発達研究	演習		講義内容の予習、復習	4時間
9	4．小児・子育て支援研究の文献レヴュー	演習		講義内容の予習、復習	4時間
10	5．学生の関心テーマのプレゼンテーション（1）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
11	学生関心テーマのプレゼンテーション（2）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
12	6．ロイ適応理論にみる子ども・子育て支援（1）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
13	ロイ適応理論にみる子ども・子育て支援研究（2）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
14	ロイ適応理論にみる子ども・子育て支援研究（3）	演習		講義内容の予習、復習	4時間
15	7．小児・子育て支援の課題と展望	演習		講義内容の予習、復習	4時間

成績評価方法・基準	授業への参加状況 50%、 プレゼンテーション 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	必要に応じ適宜提示
参考書・参考文献	必要に応じ適宜提示
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	

開設科目名	小児・子育て支援看護学特論	科目コード	MNSA503	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者		担当者			

授業の概要（授業の目的）

子どもと環境の発達モデル（ブロンフェンブレンナーの環境相互システム論等）をとりあげ、子どもの発達・健康・生活への影響を検討する。また、近年の子どもを取り巻く状況や現象の根底にある、子どもの適応力、セルフケア能力、ファミリー・レジリエンス、遊ぶ力などに焦点をあて理解を深める。さらに、国内外の文献をとおして、子どもと子育て支援に関連した研究のテーマを取り上げ検討する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．子どもと家族を取り巻く環境の変化に伴う課題・問題を取り上げ、昨今の子どもと子育ての現状が理解できる。	
2．子どもと環境のダイナミックな関係の観点から、関連する概念および現象等の知識を習得することができる。	
3．国内外の研究の知見および動向を概観し、小児と家族支援の知識の構築をめざすことができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	小児・家族のおかれている現状と課題（国内外の知見） －生涯発達の観点からみた子どもの養育環境 －アジアの子育て格差と貧困の問題	講義		講義内容の予習、復習	4時間
2	子どもの生涯発達の観点からみた子ども観と発達支援① 子どもの『時間』と子育て	講義		講義内容の予習、復習	4時間
3	子どもの生涯発達の観点からみた子ども観と発達支援② ピアジェとヴィゴツキーの発達を促す応答	講義		講義内容の予習、復習	4時間
4	子どもの生涯発達の観点からみた子ども観と発達支援③ 遊びの諸理論	講義		講義内容の予習、復習	4時間
5	子どもの生涯発達の観点からみた子ども観と発達支援④ ウィニコットの子ども観と「good enough mother」	講義		講義内容の予習、復習	4時間
6	子どもと環境の相互作用① Bronfenbrenner ブロンフェンブレンナーの環境モデル	講義		講義内容の予習、復習	4時間
7	子どもと環境の相互作用② 子どもの社会化と個性化の課題	講義		講義内容の予習、復習	4時間
8	子どもと環境の相互作用③ 子どもの適応力・Resilience：心身の健康	講義		講義内容の予習、復習	4時間
9	子どもと環境の相互作用④ Family Resilience の研究にみる子どもと家族の相互作用	講義		講義内容の予習、復習	4時間
10	子どもと環境の相互作用⑤ 親になること・子どもを育むことの課題	講義		講義内容の予習、復習	4時間
11	子どもと環境の相互作用⑥ 子育てとソーシャルサポート	講義		講義内容の予習、復習	4時間
12	子どもの病気体験の理解および発達的死の概念 －子どもの病気・障害は危機かそれとも成長か －子どもの病気・入院が及ぼす家族への相互影響	講義		講義内容の予習、復習	4時間
13	国内外の文献講読	講義		講義内容の予習、復習	4時間
14	学生の関心テーマプレゼンテーション	講義		講義内容の予習、復習	4時間
15	小児・子育て支援の展望	講義		講義内容の予習、復習	4時間

成績評価方法・基準	授業への取り組み状況 40%、 レポート 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	・「悲しみの子どもたち－罪と病を背負って」（岡田尊司著） ・「子ども期の養育環境と QOL」（菅原ますみ編） その他必要に応じ適宜紹介します
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	

開設科目名	クリティカルケア看護学特論	科目コード	MNSA505	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	鶴田明美	担当者	鶴田明美、他		

授業の概要（授業の目的）

1. クリティカルケア看護の特性及びクリティカルな状況にある患者・家族の特徴と看護援助の方策について学修する。
2. クリティカルケア看護学分野の対象理解と援助のための代表的な理論について学修し、文献や看護実践の事例を基にした講義や議論をとおして、実際的な看護援助ついて考察、検討する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）クリティカルケア看護の特性及び患者と家族の特徴を説明できる。	◎1．全人的ケアの探求
2）クリティカルケア看護の主要な理論および概念について説明できる。	◎2．倫理の本質を捉えた実践
3）クリティカルな状況にある患者及び家族の身体的・心理的・社会的側面を支援する看護について議論できる。	3．看護実践の追求 4．看護の質向上への貢献
4）クリティカルケア看護の現状をふまえ今後の課題について提示し議論できる。	◎5．看護理論活用の探求

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	クリティカルケア領域の動向と今日的課題	講義・議論	鶴田	第1回から3回の授業内容について関連書籍及び先行研究を基に予習し講義に臨む	4時間
2	クリティカルな状態にある患者と家族の特徴	講義・議論	鶴田		4時間
3	クリティカルケア領域における看護の基本特性	講義・議論	鶴田		4時間
4	クリティカルケア領域におけるケアマネジメント	講義・議論	鶴田他	ケアマネジメントについて専門書籍を基に予習する	4時間
5	臨床推論の基本とプロセスモデル	講義・議論	鶴田他	臨床推論について専門書籍を基に予習する	4時間
6	臨床推論に基づく看護診断（1）頭痛	発表・議論	鶴田他	第6回と7回は、ケースに応じた臨床推論と看護診断についてまとめ、プレゼンテーションに備える	4時間
7	臨床推論に基づく看護診断（2）胸痛	発表・議論	鶴田		4時間
8	クリティカルケア看護における倫理的課題（1）脳死と臓器移植	発表・議論	鶴田他	第8回から10回は、授業内容に提示した看護場面における倫理的課題について自己の体験を引用しながらまとめプレゼンテーションに備える	5時間
9	クリティカルケア看護における倫理的課題（2）自己決定による蘇生処置拒否	発表・議論	鶴田他		5時間
10	クリティカルケア看護における倫理的課題（3）患者の権利と擁護	発表・議論	鶴田他		4時間
11	クリティカルケア看護の基盤となる理論と看護実践への活用（1）ストレスコーピング	発表・議論	鶴田他	第11回から13回は、授業内容に提示した理論について予習し、看護実践への活用についてまとめプレゼンテーションに備える	4時間
12	クリティカルケア看護の基盤となる理論と看護実践への活用（2）危機	発表・議論	鶴田他		4時間
13	クリティカルケア看護の基盤となる理論と看護実践への活用（3）意思決定	発表・議論	鶴田他		4時間
14	地域包括ケアシステムとクリティカルケア看護	発表・議論	鶴田他	地域包括ケアシステムにおけるクリティカルケア看護の役割についてまとめプレゼンテーションに備える	4時間
15	総括	講義・議論	鶴田		2時間

成績評価方法・基準	プレゼンテーションの内容および精度60%　議論への参加度40%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義中の議論を通して行う
教科書	講義内容に応じた資料配布または文献紹介
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	・オフィスアワー及び学習相談：随時受付（下記連絡先） 鶴田明美　2号館1階　L223研究室　内線243　メールアドレス：tsuruta@st-mary.ac.jp ・ﾒｯｾｰｼﾞ：授業日程は、学生との調整の上決定します

開設科目名	クリティカルケア看護援助特論	科目コード	MNSA506	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	鶴田明美	担当者	鶴田明美、他		

授業の概要（授業の目的）

クリティカルな状況にある患者・家族の反応について学修し、回復および健康の再構築のために必要な看護援助について探求する.

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．クリティカルな状況にある患者・家族の反応について説明できる。 2．クリティカルな状況にある患者・家族が抱える課題を明確化し、回復と健康の再構築のために必要な看護援助について提示できる。	2．倫理の本質を捉えた実践 ◎3．看護実践の追求 ◎4．看護の質向上への貢献

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	クリティカルケア看護の対象と場の特性	講義・議論	鶴田	先行研究の知見を最新の知見及び実際の事例を基に思考をまとめる。	4時間
2	クリティカルケア看護における患者・家族の反応	講義・議論	鶴田		4時間
3	クリティカルケア看護における全身管理の実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他	自分の看護実践を基に、援助の実際と課題と課題解決に向けた発展的な方策について思考し、プレゼンテーションに備える。	4時間
4	クリティカルケア看護における全身管理の実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
5	クリティカルケア看護における日常性への支援の実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他		4時間
6	クリティカルケア看護における日常性への支援の実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
7	クリティカルケア看護における患者の全人的苦痛と緩和ケアの実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他		4時間
8	クリティカルケア看護における患者の全人的苦痛と緩和ケアの実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
9	クリティカルケア看護における患者への回復促進に向けた支援の実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他		4時間
10	クリティカルケア看護における患者への回復促進に向けた支援の実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
11	クリティカルケア看護における家族支援の実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他		4時間
12	クリティカルケア看護における家族支援の実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
13	クリティカルケア看護における患者・家族の自己決定支援の実際と課題 ①	発表・議論	鶴田他		4時間
14	クリティカルケア看護における患者・家族の自己決定支援の実際と課題 ②	発表・議論	鶴田他		4時間
15	クリティカルケア看護領域における看護実践課題と課題解決のための方策総括	講義・議論	鶴田他		4時間

成績評価方法・基準	プレゼンテーションの内容および精度60%　議論への参加度40%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義中の議論を通して行う
教科書	講義内容に応じた資料配布または文献紹介
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	・オフィスアワー及び学習相談：随時受付（下記連絡先） 鶴田明美　2号館1階　L223研究室　内線243　メールアドレス：tsuruta@st-mary.ac.jp ・ﾒｯｾｰｼﾞ：授業日程は、学生との調整の上決定します

開設科目名	クリティカルケア看護学演習	科目コード	MNSA507	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	鶴田明美	担当者	鶴田明美、他		

授業の概要（授業の目的）

1. クリティカルな状況にある患者及び家族を対象とした先行研究のクリティークを基に討議を行い、患者・家族への看護援助及びクリティカル領域における看護師の役割について分析的に考察する.
2. 自己の研究課題の精選及び新たな知見の探求のために、文献クリティークをとおして、研究課題、研究方法、分析方法等、研究過程について総合的に学修する.

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）クリティカルな状況にある患者および家族の特徴を説明できる.	2. 倫理の本質を捉えた実践 ◎3. 看護実践の追求 4. 看護の質向上への貢献
2）危機的状況からの回復を促進するための看護援助について、実践事例および先行研究を基に多角的・複合的な視点から考察し、討議できる.	
3）クリティカルな状況にある患者および家族への科学的・理論的かつ全人的な看護の方策について探求し、説明できる.	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	コースガイダンス	講義	鶴田	各授業内容について国内外の先行研究についての知見をまとめる. 先行研究の知見をもとに研究課題との関連について考察し、プレゼンテーションに備える.	4時間
2	クリティカルケア看護領域における患者の治療環境及び治療体験に関する研究動向	講義・議論	鶴田		4時間
3	クリティカルケア看護領域における患者の治療環境及び治療体験に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田		4時間
4	クリティカルケア看護領域における患者・家族の意思決定に関する研究動向	講義・議論	鶴田、他		4時間
5	クリティカルケア看護領域における患者・家族の意思決定に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田、他		4時間
6	クリティカルケア看護領域における家族看護に関する研究動向	講義・議論	鶴田、他		4時間
7	クリティカルケア看護領域における家族看護に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田、他		4時間
8	クリティカルケア看護領域におけるComfort care及び終末期看護に関する研究動向	講義・議論	鶴田、他		4時間
9	クリティカルケア看護領域におけるComfort care及び終末期看護に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田、他		4時間
10	クリティカルケア看護領域における臨床判断に関する研究動向	講義・議論	鶴田、他		4時間
11	クリティカルケア看護領域における臨床判断に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田、他		4時間
12	クリティカルケア看護領域における看護師の自律性・専門性に関する研究動向	講義・議論	鶴田、他		4時間
13	クリティカルケア看護領域における看護師の自律性・専門性に関する研究クリティーク	発表・議論	鶴田、他		4時間
14	先行研究から得た知見と研究課題への適用	発表・討議	鶴田		4時間
15	研究デザインおよび研究方法の検討	発表・討議	鶴田		4時間

成績評価方法・基準	プレゼンテーションの内容および精度 60%　議論への参加度 40%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義中の議論を通して行う
教科書	必要に応じた文献紹介
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	・オフィスアワー及び学習相談：随時受付（下記連絡先） 鶴田明美　2号館1階　L223研究室　内線243　メールアドレス：tsuruta@st-mary.ac.jp ・メッセージ：授業日程は、学生との調整の上決定します

開設科目名	療養支援慢性看護学特論	科目コード	MNSA508	開設期	1年 前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	講義
責任者	﨑田 マユミ	担当者	日高 艶子、松尾 ミヨ子、中山 美由紀、﨑田 マユミ		

授業の概要（授業の目的）

1. 慢性疾患を病む人々の看護に必要な理論や概念について学び、実践への適用を探求する。
2. 慢性疾患を病む人々と家族の反応や療養行動の特性と生活に及ぼす影響を心理的およびスピリチュアル領域、社会的領域から探求する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1) 慢性疾患を病む人の看護に必要な理論、概念を理解できる。	1 全人的ケアの探求
2) 慢性疾患を病む人の療養行動と生活を理解できる。	◎3 看護実践の追求
3) 慢性疾患を病む人の療養行動を理解するために、理論やモデルを適用できる。	◎4 看護の質向上への貢献
4) 慢性疾患を病む人と家族を心理・社会・スピリチュアル領域から幅広くアセスメントできる。	◎7 看護理論活用の探求
5) 慢性疾患を病む人と家族の療養行動の改善に有効な理論・モデルについて議論し探求する。	8 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	慢性疾患の定義、慢性疾患の構造と変遷	講義	﨑田	慢性疾患について以下に指定の①を読んでおくこと	4時間
2	慢性疾患の病みの軌跡論	P&D	﨑田	病みの軌跡に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
3	セルフケア理論、セルフマネジメント論	P&D	﨑田	疾患と療養管理に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
4	コンプライアンス、アドヒアランス論	P&D	松尾	療養継続に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
5	トランスセオレティカルモデル、ヘルスビリーフモデル	P&D	松尾	療養行動の進行・ステージに関する文献を探しプレゼンテーションに備える	4時間
6	成人教育論（アンドラゴジー）	P&D	松尾	成人の教育に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
7	自己決定、スティグマ	P&D	松尾	自己決定またはスティグマに関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
8	ストレスコーピング、ストレスマネジメント	P&D	日高	ストレス対処、問題解決に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
9	セルフエフィカシー	P&D	日高	自己効力に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
10	家族発達理論	講義	中山	家族看護理論に関する文献を読み、議論への参加に備える	4時間
11	家族システム理論、家族ストレス理論	講義	中山	家族構造と機能、ストレスに関する文献を探し、議論への参加に備える	4時間
12	コーチング、ソーシャルサポート	P&D	﨑田	療養行動のコーチ、社会資源に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
13	QOL モデル	P&D	﨑田	QOL に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
14	ターミナルケア（終末期医療、死の受容）	P&D	﨑田	ターミナルケアに関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間
15	慢性看護における倫理的問題と判断	P&D	﨑田	看護上の倫理問題に関する文献を探し、プレゼンテーションに備える	4時間

成績評価方法・基準	1)プレゼンテーション 50%（10 篇以上の文献の使用(書籍は 5 編相当)、30 分での発表、議論のリードと発展など) 2)プレゼンテーションに基づく討論 25%(活発に議論の要素を見出し、議論に参加する) 3)レポート 25%（科目進行途中でレポート内容を明示する)
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・プレゼンテーションと討論においてフィードバックを行います。
教科書	Strauss A. L and others（1984）.Chronic illness and the Quality of Life. 南裕子監訳（1987）慢性疾患を生きる，医学書院.
参考書・参考文献	・Woog P. and others（1992）.The chronic illness trajectory framework－黒江ゆり子他訳（1995）慢性疾患の病みの軌跡，医学書院.
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ	﨑田（7 号館 733 研究室）火曜日 12：10～13：10 ※上記時間以外は事前に予約をしてください。メールアドレス ：sakita@stmaryacjp.onmicrospft.com *各回のプレゼンテーションは、担当者を学生間で話し合い、決定してください。プレゼンテーションの準備には最低でも 1 週間は要するため、各自早めに取り組み、当日参加者全員にプレゼンテーション資料を配布してください。他学生の発表内容は事前学習を十分に行っておいてください。

開設科目名	療養支援慢性看護学援助特論	科目コード	MNSA509	開設期	1年 前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	講義
責任者	﨑田 マユミ	担当者	松尾 ミヨ子、堤千代、中尾友美、﨑田 マユミ		

授業の概要（授業の目的）

1. 慢性疾患を病む人々の悪化予防、回復促進、リハビリテーション、QOL 維持に必要な自己管理支援などの専門的看護支援に関する理論を学び、支援に必要な技術について探求する。
2. 慢性疾患を病む人々の発症から死に至る諸側面に対して、学際的アプローチと高度実践看護職の役割を修得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1) 慢性疾患を病む人の悪化予防からターミナルまでの諸側面を理解できる。	◎3 看護実践の追求
2) 慢性疾患を病む人への支援における学際的アプローチを理解できる。	7 学際性に関する探究
3) 慢性疾患を病む人と家族の自己管理など教育的支援について探求できる。	5 看護理論活用の探求
4) 慢性疾患を病む人と家族への高度実践看護の専門性と機能について理解できる。	◎4 看護の質向上への貢献
5) 慢性疾患を病む人と家族を支援する高度実践看護について具体的事例によって検討できる。	◎8 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	慢性疾患を病む人の問題の多様性	講義	﨑田	患者と家族の抱える問題の内容と質について文献を読んでおく	2時間
2	学際的アプローチの意義と実際	講義	松尾	保健医療福祉職者と看護との接点を文献で読んでおく	2時間
3	高度実践看護職の役割と機能	講義	松尾	専門看護師の役割について文献を読んでおく	2時間
4	慢性疾患と保健医療福祉政策	講義	松尾	政策の看護実践への影響、政策の役割を整理する	2時間
5	専門看護師における薬剤管理	講義	松尾	専門看護師による患者の薬剤管理支援について整理する	2時間
6	自己管理支援の実際(症状マネジメント、セルフモニタリング、アクションプランなど)	P&D	﨑田	自己管理支援の方法について調べ、プレゼンテーションに備える 継続困難な点、その打開策、新たな対策などを整理する	2時間
7	自己管理支援の実際(症状マネジメント、セルフモニタリング、アクションプランなど)	P&D	﨑田	自己管理支援の方法について調べ、プレゼンテーションに備える 自己管理法の利点、欠点を整理、実践への適用性をまとめる	2時間
8	在宅看護の実際と今後の方向性	講義	堤	慢性疾患における在宅看護の役割を整理する	2時間
9	慢性疾患の在宅看護支援の具体的検討	講義	堤	慢性疾患の在宅看護事例を文献で調べ、検討点を用意しておく	2時間
10	患者教育の実際	講義	中尾	患者教育について文献を読んでおく	2時間
11	患者教育の事例ワーク	P&D	中尾	患者教育の有効性、問題点を整理する	2時間
12	社会資源へのアクセス・利用の事例ワーク (ピアサポートを含む)	P&D	﨑田	社会資源とその利用について調べ、プレゼンテーションに備える 慢性疾患患者にとっての社会資源、それの活用性を整理する	2時間
13	QOL 向上を目指す医療の事例ワーク	P&D	﨑田	慢性疾患患者のQOLの改善についてのプレゼンテーションに備える QOL 向上に向けた医療の各種取り組みについて整理する	2時間
14	専門看護支援技術：調整、相談、実践、教育、倫理調整事例ワーク	講義	﨑田	専門看護師の機能について事例を通して得た理解を整理する	2時間
15	専門看護支援技術：調整、相談、実践、教育、倫理調整事例ワーク	P&D	﨑田	専門看護師の機能について事例を通して得た理解を整理する	2時間

成績評価方法・基準	1)プレゼンテーション 40%（10篇以上の文献の使用(書籍は5編相当)、30分での発表、議論のリードと発展など) 2)プレゼンテーションに基づく議論 30%(活発に議論の要素を見出し、議論に参加する) 3)レポート 30%（科目進行途中でレポート内容を明示する)
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・プレゼンテーションと討論においてフィードバックを行います。
教科書	・Ann B Hamric et al(2014).Advanced practice nursing: An integrative approach, Fifth edition, 中村美鈴 監訳(2017).高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版.
参考書・参考文献	・佐藤直子：専門看護制度―理論と実践、医学書院、1999.
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	﨑田（7号館 733研究室）火曜日 12：10～13：10 ※上記時間以外は事前に予約をしてください。メールアドレス ：sakita@stmaryacjp.onmicrospft.com *各回のプレゼンテーションは、担当者を学生間で話し合い、決定してください。プレゼンテーションの準備には最低でも1週間は要するため、各自早めに取り組み、当日参加者全員にプレゼンテーション資料を配布してください。他学生の発表内容は事前学習を十分に行っておいてください。 ＊非常勤講師の先生には、授業終了時に質問や相談を行ってください。

開設科目名	療養支援慢性看護学演習ＩＡ(１)	科目コード	MNSA510	開設期	１年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	演習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、糖尿病関係（布井清秀、赤司朋之）、呼吸器疾患関係（千住秀明、竹川幸恵）、循環器疾患関係（田代英樹、藤井利江）、脳血管疾患関係（井林雪郎、橋本洋一郎、中村真紀、吉村綾子、安永惠）、地域医療（橋本洋一郎、山本弥生）		

授業の概要（授業の目的）

1.慢性疾患患者と家族を対象に、患者及び家族に対する治療や療養を支える環境について探求する。
2.Subspecialty それぞれの領域において、慢性疾患の各時期に応じた人的資源、組織、サポートネット構築、連携について検討する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1)Subspecialty とする慢性疾患領域の患者・家族の療養環境を理解できる。	３看護実践の追求 ４看護の質向上への貢献
2)慢性疾患患者の連携医療について理解し、現状の課題と将来展望について議論できる。	
3)慢性疾患患者にかかわる職種と職種間連携について、課題とあり方を議論できる。	
4)幾つかの病院と連携する医療施設、福祉施設などとの連携の実際を見て、医療連携を議論できる。	
5)慢性疾患患者・家族が関係する医療連携における専門看護師の役割を議論・探求できる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	医療連携の目的と意義	講義	井林	医療連携について文献で調べておく	４時間
2	医療連携：医療計画と地域医療体制	演習	井林	医療連携の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間
3	医療連携：外来機能の課題と展望、疾病連携	演習	井林	医療連携の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間
4	地域医療連携システム：循環型、疾患別、連携のツール	演習	井林	地域医療連携システムを調べておく	４時間
5	医師がみる医療連携の実際(一病院の患者事例)	演習	井林	医療連携の具体例から学習ポイントを整理しておく	４時間
6	特定地域での医療連携の実際：拠点と連携の構造	演習	橋本	具体例から医療連携の構造をまとめておく	４時間
7	特定地域での医療連携の実際：人的資源の活用	演習	橋本	具体例から医療連携の人的資源をまとめておく	４時間
8 9	QOL の視点から見たケアの連続性と実践モデル 看護部と福祉部の連携実践モデル 病病連携・看看連携	演習	中村 吉村 日高	病病連携、看看連携について事前に調べておく。 事後は授業との比較	４時間 ４時間
10	連携医療における看護師の役割と今後の発展	演習	藤井	連携医療における専門看護の役割の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間
11 12	連携医療における看護師の役割と今後の発展	演習	安永	医療連携の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間
13	在宅医療連携：特定地域における慢性疾患患者の在宅医療	演習	赤司	慢性疾患患者の在宅医療連携の具体例を予習、事後が授業との比較	４時間
14	医療連携の今後の発展	演習	赤司	具体例から医療連携の今後の発展をまとめておく	４時間
15	在宅医療連携：慢性疾患患者の訪問看護の現状と今後の発展	演習	山本	慢性疾患患者の訪問看護の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間

成績評価方法・基準	1)授業への参加状況 40% 2)レポート 60% 慢性疾患治療環境として、授業で学んだ医療連携について 2 つを選び、文献ワークと演習参加によって学んだもの、利点、弱点、今後の課題についてレポートを作成する。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは後日返却します。
教科書	特になし
参考書・参考文献	・慢性疾患ケアモデル（2007）中央法規出版 ・地域連携パスの作成術・活用術（2008）医学書院
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	オフィスアワー：日高艶子（７号館３階 731 号室） 医療連携の進んでいる脳血管疾患や糖尿病治療や療養における様々な連携医療についての講義時間が多くなる。学生は自分が所属する施設での地域連携の実際を十分理解しておくと、講義での連携の取り組みがわかりやすくなり、探求の視点も加わる。

開設科目名	療養支援慢性看護学演習ＩＡ（2）	科目コード	MNSA511	開設期	１年 後期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	演習
責任者	﨑田 マユミ	担当者	日高艶子、﨑田マユミ、橋口ちどり、糖尿病関係（布井清秀、赤司朋之、坂根直樹、中尾友美）、呼吸器疾患関係（千住秀明、竹川幸恵）、循環器疾患関係（田代英樹、藤井利江）、消化器疾患関係（酒井輝文）、脳血管疾患関係（井林雪郎、吉村綾子、安永惠）、地域医療（橋本洋一郎、山本弥生）		

授業の概要（授業の目的）

地域連携施設をフィールドとし、糖尿病、慢性呼吸器疾患、脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患、腎機能障害などを有する患者を対象とした医療現場に参画し、subspecialty に応じた支援技術と調整・教育・相談・倫理などの専門的看護支援技術について演習する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1) 慢性疾患の各 subspeciality に応じた、自己管理技術、リハビリテーション、患者教育、専門看護支援技術について理解できる。	◎3 看護実践の追求 ◎4 看護の質向上への貢献 ◎8 専門職業人としての貢献
2) 慢性疾患の変化する各時期の支援技術について理解できる。	
3) Subspeciality 領域で学んだ支援技術の有効性と課題について議論・探求できる。	
4) Subspeciality 領域で学んだ教育・相談・調整・倫理調整について議論・探求できる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	地域連携施設における高度実践看護の今後の発展	講義	橋口	各 Subspeciality 領域に応じた【自己管理技術】【患者教育】【専門的看護支援技術】の具体例を予習、事後は授業との比較 【自己管理技術】知識の提供、自己管理能力の査定、セルフモニタリング、アクションプラン、社会資源活用、情報マネジメント 【患者教育】集団教育と個人教育、多様な教育方法の活用、教育目標の設定 【専門的看護支援技術】自己決定支援、症状マネジメント、倫理調整、社会資源や人的資源の調整	４時間
2	地域連携施設における高度実践看護の今後の発展	講義・討論	橋口		４時間
3	糖尿病領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	中尾		４時間
4	糖尿病領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	GS		４時間
5	循環器領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	藤井		４時間
6	循環器領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	藤井		４時間
7	循環器領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	藤井		４時間
8	脳血管疾患領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	日高	【リハビリテーション】【専門的看護支援技術】の具体例を予習、事後は授業との比較 【リハビリテーション】：セルフケア再獲得、自立支援、家族介護者支援	４時間
9	脳血管疾患領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	吉村		４時間
10	脳血管疾患領域に必要な支援技術と専門的看護支援技術	講義・討論	安永		４時間
11	訪問看護領域に必要な専門的看護支援技術	講義・討論	山本	【自己管理技術】【患者教育】【専門的看護支援技術】の具体例を予習、事後は授業との比較	４時間
12	訪問看護領域に必要な専門的看護支援技術	講義・討論	山本		４時間
13	専門的看護支援技術：教育・相談・調整・倫理調整	講義・討論	﨑田	演習内容の予習、事後の復習	４時間
14	専門的看護支援技術：教育・相談・調整・倫理調整	発表・討論	﨑田	演習内容の予習、事後の復習	４時間
15	専門的看護支援技術：教育・相談・調整・倫理調整	発表・討論	﨑田	演習内容の予習、事後の復習	４時間

成績評価方法・基準	1)演習への取り組み状況 50% 2)レポート 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・プレゼンテーションと討論においてフィードバックを行います。
教科書	・Ann B Hamric et al(2014).Advanced practice nursing: An integrative approach, Fifth edition, 中村美鈴 監訳 (2017).高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版. 必要に応じて適宜紹介します。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	オフィスアワー：﨑田マユミ（7 号館 3 階 733 号室）；火曜日 12：10～13：10 ※上記時間以外は事前に予約をしてください。メールアドレス ：sakita@stmaryacjp.onmicrosoft.com 専門看護師の役割について、CNS 学会に参加、CNS の役割に関する文献を読むなど、CNS 機能について、予習や自力ワークをすることで授業への参加がより積極的なものになるでしょう。

開設科目名	療養支援慢性看護学演習ＩB(1)	科目コード	MNSA512	開設期	１年後期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	30 時間	授業区分	演習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、中山美由紀、小浜さつき他		

授業の概要（授業の目的）

慢性疾患を病む家族と患者の心理・社会的側面に存在する問題の特徴について学ぶ。さらに、患者と家族の問題を明らかにし介入するための中範囲理論の実践への適用について探求する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．慢性病を病む患者と家族の心理・社会的側面に存在する問題の特徴について検討する。	3．看護実践の追及、4．看護の質向上への貢献、5．看護理論活用の探求
2．患者と家族の問題を明らかにし介入するための中範囲理論の実践への適用について事例を用いて検討する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	コースガイダンス	講義	日高		４時間
2	慢性病を病む患者の心理・社会的問題	講義	中山	慢性病を持つ患者と家族の心理・社会的問題、現状と課題について予習して講義に臨む。また、家族看護について予習し講義に臨む。	４時間
3	家族の機能と評価	講義	中山		４時間
4	家族によるケア提供：機能的支援、情動的支援	講義	中山		４時間
5	Case study1 中範囲理論の適用	講義	日高	慢性疾患患者に適用可能な中範囲理論について予習し講義に臨む。演習では、受講生が中範囲理論を用いて検討した事例を提示し、ディスカッションを行う。	４時間
6	Case study2 中範囲理論の適用	講義・演習	日高 小浜		４時間
7	Case study３ 中範囲理論の適用	講義・演習	日高 小浜		４時間
8	Case study４ 中範囲理論の適用	講義・演習	日高 小浜		４時間
9 10 11 12	中範囲理論を用いた Case report 検討会への参加	講義・演習	日高	熊本大学医学部附属病院で行われる中範囲理論を用いたCase report検討会へ参加し、呈示されたテーマに沿ってレポートを作成する。	４時間 ４時間 ４時間 ４時間
13	中範囲理論を用いた Case report・プレゼンテーション①	講義・演習	日高	各自提示されたテーマについてレポートを作成し、講義内でプレゼンテーションを行う。	４時間
14	中範囲理論を用いた Case report・プレゼンテーション②	講義・演習	日高	各自提示されたテーマについてレポートを作成し、講義内でプレゼンテーションを行う。	４時間
15	まとめ	講義・演習	日高		４時間

成績評価方法・基準	授業への参加状況 40%、レポート 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは後日返却します。
教科書	必要に応じ適宜指示する。
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子：７号館３階、731 研究室、 オフィスアワー：金曜日 16:30-17:30

開設科目名	療養支援慢性看護学実習Ⅰ	科目コード	MNSA513	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	3単位（選択）	時間数	135時間	授業区分	実習
責任者	﨑田 マユミ	担当者	日高艶子、﨑田マユミ (実習施設指導者：金山萬紀子、中村真紀、吉村綾子、竹川幸恵、藤井利江、下村晃子)		

授業の概要（授業の目的）

実習Ⅰでは、患者と家族を対象に専門看護師の役割である実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整について、状況に関係する医師をはじめとする他職種との協働のなかで、実際の専門看護師の活動と指導のもとに実習する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．慢性疾患を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養う。	◎2倫理の本質を捉えた実践 ◎3看護実践の追求 ◎4看護の質向上への貢献 ◎5看護理論活用の探求 6看護理論の検証
2．患者や家族に対して専門看護師の役割である実践、教育、相談、調整、倫理調整、研究活動支援について実習を通して修得する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1. 実習Ⅰは、1年次後期に実施する。 2. 学生の subspecialty に応じて、糖尿病、呼吸器疾患、脳血管障害、循環器疾患を有する患者を担当し、実習する。 3. 学生は、各自の関心領域を中心に、授業目標に提示されている専門看護師の役割である教育、相談、調整、研究、倫理的判断の実践について学ぶために実習計画書を作成し提出する。 4.患者と家族を対象に実践した専門看護師の役割である教育、相談、調整、研究、倫理的判断についてレポートを提出し専門看護師、看護師長、医師、担当教員とカンファレンスを持ち検討する。 5.実習場所：聖マリア病院、誠愛リハビリテーション病院、大阪府立病院機構呼吸器・アレルギー医療センター、兵庫医科大学病院、横浜市脳卒中神経脊椎センター	実習	日高 﨑田	専門看護師の役割に関する講義資料や、自己学習で得た知識を活用し、実習計画書を作成する。	

成績評価方法・基準	(1)レポート70%、(2)実習への取り組み状況（カンファレンス参加度、臨床指導者評価など）30% 中間、最終カンファレンスに加え、短時間のカンファレンスを適宜実施し、学習状況を確認します。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・実習前・実習中・実習後にそれぞれフィードバックします。
教科書	・Ann B Hamric et al(2014).Advanced practice nursing: An integrative approach, Fifth edition, 中村美鈴 監訳(2017).高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版. ・Lynn S. Bickley 他著，福井次矢他監修：ベイツ診察法 第2版．メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015.
参考書・参考文献	適宜、紹介します。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	﨑田 マユミ（7号館3階733研究室） オフィスアワー：火曜日 12：10～13：10 ※上記時間以外は事前に予約をしてください。メールアドレス ：sakita@stmaryacjp.onmicrosoft.com

開設科目名	老年看護学特論	科目コード	MNSA514	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	中村和代	担当者	中村和代、他		

授業の概要（授業の目的）

加齢に伴う心身の変化の特性を理解し、高齢者およびその家族の健康と生活を支援する看護について探求する。特に、高齢者の QOL を改善・向上させるケアおよび関連する保健医療福祉制度について理解を深める。また、健康長寿を目指した介入とそのエビデンスについて学修する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1) 加齢や健康障害による高齢者の生活やその家族への影響について考えることができる	1 全人的ケアについて探求する姿勢
2) 老年看護に活用できる諸理論について理解し、QOL 向上への看護実践について探求できる	2 倫理の本質
3) 高齢者とその家族を対象とした急性期・慢性期・終末期の看護について探求できる	◎ 3 看護実践の探求
4) 高齢者のヘルスプロモーションへの取り組みなど文献を基に考えることができる	4 他職種との協働
5) 高齢者に関係する保健医療福祉制度の変遷とその背景について理解できる	5 理論の活用
6) 老年看護を取り巻く環境や倫理的課題について理解を深める	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学修課題)	取組時間
1	ガイダンス/ 高齢者に関係する保健医療福祉制度の変遷とその背景	講義	中村	各授業内容に関して専門書を読み、自分の看護実践を基に看護の実際と課題、今後の方向性等について考える。学修を基に高齢者看護の課題解決に向けて考察する。	4時間
2	加齢に伴う身体機能・認知機能・心理的機能の変化とその評価	講義	中村		4時間
3	高齢者の生活と包括的機能評価と看護	講義	中村		4時間
4	加齢や健康障害による高齢者の生活やその家族への影響	講義	中村		4時間
5	高齢者とその家族を対象とした急性期における看護	講義	中村		4時間
6	高齢者とその家族を対象とした慢性期・終末期における看護	講義	中村		4時間
7	老年看護に活用できる諸理論	演習	中村		4時間
8	老年看護領域における倫理的課題(エイジズム、権利擁護、虐待、成年後見制度他)	講義	中村		4時間
9	健康長寿と介護予防	講義	中村	授業内容に関する先行研究を抄読しエビデンスに関して考察する。	4時間
10	生活習慣病予防とアンチエイジング	講義	中村		4時間
11	高齢者ケアと Evidence Based Nursing：量的研究	講義	中村		4時間
12	高齢者ケアと Evidence Based Nursing：質的研究	講義	中村		4時間
13	高齢者への終末期医療・看護に関する現状と課題	演習	中村	関連情報を収集し事前に準備しておく	4時間
14	「ディベート」（例）　尊厳死・安楽死について肯定 vs 否定	討議	中村		4時間
15	まとめ　課題「○○○における QOL を改善・向上させるためのケア」 1000 字程度	講義	中村	事例を考えておく	4時間

成績評価方法・基準	授業への取り組み状況 50%，　課題レポート　50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	授業時間中にディスカッションなどを通して、フィードバックいたします
教科書	初回の授業および授業内容に応じて、資料の配布・文献の紹介
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学修相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	オフィスアワー：毎週（月）16:30-17:30，学習相談は随時受け付けます。 中村　和代（6号館2階　625研究室、内線217）、Office365 の Mail 利用可 講義形式の授業でも、適宜、演習を入れます。演習課題などについては、事前に提示いたします。

開設科目名	老年看護学演習	科目コード	MNSA515	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	中村和代	担当者	中村和代、堤千代、他		

授業の概要（授業の目的）

高齢者のヘルスプロモーションや QOL の維持向上を目指した看護ケアについて、国内外の文献を基に討議を行い、科学的・理論的な根拠に基づいた看護について探求する。また、研究課題、研究計画の方向性および研究方法についても探求することをねらいとする。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1) 高齢者とその家族を対象とした研究の動向と課題に関する文献を収集できる	1 全人的ケアについて探求する
2) 高齢者看護における倫理的問題、倫理的配慮に関する先行研究を収集できる	2 倫理の本質についての研究の視点
3) 高齢者の終末期医療や QOL に関する先行研究を収集できる	◎ 3 看護実践・看護研究の探求
4) 老年看護学領域における興味関心のある先行研究を収集できる	4 現場の質向上
5) 収集した文献を精読し、クリティークができる	
6) 収集した論文について根拠に基づいて討議ができる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学修課題)	取組時間
1	ガイダンス	講義	中村他	各回の授業内容に関する論文を収集しクリティークして臨む。自分の看護実践と関連づけ、特に、関心があるテーマに関する研究の動向について考察し、探求したい課題について絞り込んでいく。	4時間
2	高齢者やその家族を対象とした QOL に関する研究の動向	演習	中村他		4時間
3	高齢者に活用できる理論等に関する研究の動向	演習	中村		4時間
4	包括的機能評価・アセスメント等に関する研究の動向	演習	中村		4時間
5	倫理的問題、エイジズム、虐待等に関する研究の動向	演習	中村他		4時間
6	認知症高齢者を対象とした研究の動向	演習	中村		4時間
7	認知症高齢者の家族（介護者）を対象とした研究の動向	演習	中村		4時間
8	健康長寿、アンチエイジングに関する研究の動向	演習	中村		4時間
9	急性期における老年看護に関する研究の動向	演習	中村		4時間
10	慢性期における老年看護に関する研究の動向	演習	中村		4時間
11	在宅における高齢者看護に関する研究	演習	堤		4時間
12	施設における高齢者看護に関する研究の動向	演習	中村		4時間
13	高齢者の終末期医療などに関する研究の動向	演習	中村		4時間
14	エンドオブライフケア・リビングウィルなどに関する研究の動向	演習	中村		4時間
15	まとめ・自分が興味関心のあるテーマの論文の紹介	演習	中村	論文精読およびプレゼンテーションの準備	4時間

成績評価方法・基準	授業への参加状況 50%、 プレゼンテーション 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	授業時間中にディスカッションなどを通して、フィードバックいたします
教科書	必要に応じ適宜ご紹介します
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学修相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	オフィスアワー：毎週（月）16:30-17:30, 学習相談は随時受け付けます。 中村　和代（6号館2階 625研究の室、内線217）、Office365 の Mail 利用可 勤務などの都合により時間割調整が必要な場合は、連絡をお願いします。

開設科目名	精神看護学特論	科目コード	MNSA516	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	谷多江子	担当者	谷多江子、松枝美智子		

授業の概要（授業の目的）

精神医療の変遷と現状、課題から精神医療を概観する。その後、看護理論や臨床において活用されているスキルの理論的背景を学び、精神障がい者を支援する上で重要な考え方を理解する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）精神医療の変遷と現状から課題を明確にすることができる。	1全人的ケアの探求 ◎2倫理の本質を捉えた実践
2）臨床で行われる精神・社会機能検査や診断について説明できる。	◎3看護実践の追及 4看護の質向上への貢献
3）精神看護において用いられるモデルや理論を理解することができる。	5看護理論活用の探求
4）精神障がい者への様々なアプローチの方法を理解することができる。	3看護実践の追及
5）精神看護専門看護師（CNS）に求められる役割と課題について理解することができる。	8専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	精神医療の変遷と現状	講義	谷	精神医療の変遷と現状について調べる。	4時間
2	海外の精神医療の現状と課題	講義	谷	海外の精神医療の現状について調べる。	4時間
3	精神疾患の診断と考え方	講義	谷	精神疾患の診断についての様々な考え方を調べる。	4時間
4	精神医療に関するエビデンス	講義	谷	臨床で行われる治療のエビデンスについて調べる。	4時間
5	精神・社会機能のアセスメント	講義	谷	臨床で行われる精神・社会機能検査について調べる。	4時間
6	治療的面接の技法	演習	谷	治療的面接の技法について例を挙げる。	4時間
7	看護理論と自己洞察	講義	谷	精神看護において用いられる看護理論について調べる。	4時間
8	SSTの理論的背景と実際	講義	谷	SSTの理論的背景について調べる。	4時間
9	WRAPの理論的背景と実際	講義・演習	谷	WRAPの理論的背景について調べる。	4時間
10	オープンダイアローグ①理論的背景	講義	谷	オープンダイアローグの概要について調べる。	4時間
11	オープンダイアローグ②リフレクティングの実際	演習	谷	オープンダイアローグの日本での実践可能性を考える。	4時間
12	ピアサポートの現状と課題	講義	谷	ピアサポートの現状と課題について調べる。	4時間
13	精神看護CNSの役割と技法	講義	松枝	精神看護CNSに求められる役割について調べる。	4時間
14	精神看護CNSの活動の実際	講義	松枝	自分の職場に応用する方法を考える。	4時間
15	まとめ	講義	谷	講義内容の復習	4時間

成績評価方法・基準	① レポート　40%　② プレゼン内容　30%　③ 参加度　30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義中にフィードバックします。
教科書	適宜文献を紹介します。
参考書・参考文献	1）南 裕子（監修）精神科看護の理論と実際 ヌーベルヒロカワ 2010 2）日本専門看護師協議会（監修）精神看護スペシャリストに必要な理論と技法 日本看護協会出版会 2009
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	谷 多江子（6号館622研究室）　ｵﾌｨｽｱﾜｰ：月曜日 16:30～17:30

開設科目名	精神看護学演習	科目コード	MNSA517	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	演習
責任者	谷多江子	担当者	谷多江子、白石裕子、他		

授業の概要（授業の目的）

自分の心の健康の保持からスタッフのメンタルヘルス、さらに、ケアが困難な対象や地域で生活する精神障がい者へのアプローチまでを広く学び、他職種、地域と連携し専門的な精神看護実践を展開していくための方法を探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）心の健康を保持するための様々な方法を理解し評価することができる	1 全人的ケアの探求
2）職場のスタッフの心の健康を保持するための方法を具体的に考えることができる。	◎3 看護実践の追求 4 看護の質向上への貢献
3）精神科における新しい治療・考え方について批判的に評価し、現場に導入する方法を考えることができる。	3 看護実践の追求 ◎4 看護の質向上への貢献 6 看護理論の検証 7 国際性・学際性の探求
4）地域における精神医療の課題とその解決策を考えることができる。	2 倫理の本質を捉えた実践 3 看護実践の追求 ◎4 看護の質向上への貢献

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	心の健康を保持する①考え方と様々な方法	講義	谷	講義内容に関連する文献を読む。	4時間
2	心の健康を保持する②方法の体験	演習	谷	演習での体験から気づきをまとめる。	4時間
3	精神療法の理論的背景	講義	谷	講義内容に関連する文献を読む。	4時間
4	精神療法の実際	演習	谷	講義内容に関連する文献を読む。	4時間
5	認知行動療法の理論的背景	講義	白石	講義内容に関連する文献を読む。	4時間
6	認知行動療法の実際	演習	白石	演習での体験から気づきをまとめる。	4時間
7	地域における精神医療①実際と課題	演習	谷	地域における精神医療の実際について調査しておく。	4時間
8	地域における精神医療②治療共同体	演習	谷	治療共同体の考え方を職場にどう応用できるかまとめる。	4時間
9	地域における精神医療③児童思春期精神医療	演習	谷	児童思春期精神医療の特徴をまとめる。	4時間
10	地域における精神医療④ACT	演習	谷	ACTの役割と実際についてまとめる。	4時間
11	地域における精神医療⑤うつ病	演習	谷	うつ病患者に対する支援を職場にどう応用できるかまとめる。	4時間
12	地域における精神医療⑥今後の動向	演習	谷	※課題は講義中に提示します	4時間
13	精神科における新しい治療・考え方①紹介	演習	谷	精神科における新しい治療・考え方を調べる。	4時間
14	精神科における新しい治療・考え方②調査	演習	谷	新しい治療・考え方について焦点を絞って文献を読む。	4時間
15	精神科における新しい治療・考え方③議論	演習	谷	精神科における新しい治療・考え方についてまとめる。	4時間

成績評価方法・基準	① レポート 40%　② プレゼン内容 30%　③ 参加度 30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義中にフィードバックします。
教科書	適宜文献を紹介します。
参考書・参考文献	1）南 裕子（監修）精神科看護の理論と実際、ヌーベルヒロカワ、2010 2）日本専門看護師協議会（監修）精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	谷 多江子（6号館622研究室）　ｵﾌｨｽｱﾜｰ：月曜日 16:30～17:30

開設科目名	リハビリテーション看護学特論	科目コード	MNSA518	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、井手睦、金山萬紀子、千住秀明、林克樹、橋本美紀、佐藤友紀、山田由李子、深井敦夫、小浜さつき、他		

授業の概要（授業の目的）

高齢社会や慢性疾患の増加に伴いリハビリテーション看護の実践の場は病院から在宅まで拡大している。本講義では、先ずリハビリテーションの概念と発展について学ぶ。次いで、リハビリテーション看護の実践を導く看護モデルや理論、倫理的・法的問題、チーム医療について探求する。さらに、慢性疾患のリハビリテーション看護領域における高度看護実践のためのアセスメントと介入技術について学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. リハビリテーションの概念と発展について講義を受け指示されたテーマについてレポートを作成する。	3．看護実践の追求、4．看護の質向上への貢献、5．看護理論活用の探求
2. リハビリテーション看護の実践を導く看護モデル、理論の発展過程やリハビリテーション看護における適用についてレポートを作成しプレゼンテーションを行い検討する。	
3. 慢性疾患(脳卒中、慢性閉塞性肺疾患等)を呈した対象者のリハビリテーション治療と看護アセスメント、Evidenceに基づく介入技術について検討する。	
4. リハビリテーション領域における倫理的・法的問題、チーム医療について探求する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	リハビリテーションの概念と発展―過去・現在・未来 地域包括ケアシステム	講義	井手	リハビリテーションの概念と発展について予習し講義に臨む。地域包括ケアシステムについて予習し講義に臨む	4時間
2 3	脳血管障害のリハビリテーション （運動機能障害、高次脳機能障害の作業療法）	講義	林	脳卒中、作業療法について予習し講義に臨む	4時間 4時間
4 5	呼吸器機能障害のリハビリテーション （呼吸理学療法）	講義	千住	慢性閉塞性肺疾患、呼吸理学療法について予習し講義に臨む	4時間 4時間
6	リハビリテーション看護の視点と実践を導く看護モデル ーロイ適応看護モデルのリハビリテーション看護への適用	講義	日高	看護理論・看護モデルを復習し講義に臨む	4時間 4時間
7	脳血管障害のリハビリテーション看護 （高次脳機能障害のアセスメントと看護介入）①	講義	日高	高次脳機能障害のアセスメントと看護介入について予習し講義に臨む。	4時間
8	脳血管障害のリハビリテーション看護 （高次脳機能障害のアセスメントと看護介入）②	講義	小浜	高次脳機能障害のアセスメントと看護介入について予習し講義に臨む。	4時間
9	Evidence based Rehabilitation Nursing①転倒	講義	金山	リハビリテーション看護領域におけるEvidenceの構築について予習し講義に臨む	4時間
10 11	Evidence based Rehabilitation Nursing ②嚥下障害・③便秘・④再発予防	講義	橋本 佐藤 山田	リハビリテーション看護領域におけるEvidenceの構築について予習し講義に臨む	4時間
12 13	建築環境からみたリハビリテーション	講義	深井	課題レポートに取り組み、講義に臨む。	4時間
14	リハビリテーション領域における倫理的・法的問題	講義	井手他	課題レポートに取り組み、プレゼンテーションを行なう。	4時間
15	リハビリテーション領域におけるチーム医療	講義	井手 日高	課題レポートに取り組み、プレゼンテーションを行なう。	4時間

成績評価方法・基準	レポート70%、プレゼンテーション30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは、後日返却します。
教科書	必要に応じ、適宜指示する。
参考書・参考文献	必要に応じ、適宜指示する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子7号館3階、731研究室 ｵﾌｨｽｱﾜｰ：金曜日16：30-17：30 事前に提示した課題についてレポートを作成すること。

開設科目名	健康・療養支援看護学演習	科目コード	MNSA519	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	講義・演習
責任者	眞﨑直子	担当者	眞﨑直子、日高艶子、崎田マユミ、中村和代、堤千代、秦野環、鶴田明美、谷多江子		

授業の概要（授業の目的）

慢性疾患患者を対象とする看護研究の意義、目的を明らかにし、目的達成のための方法、実行可能性を考慮した上で、研究計画書を作成し提出する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
慢性疾患患者を対象とする看護研究の意義、目的を明らかにし、目的達成のための方法、実行可能性を考慮した上で、研究計画書を作成し提出する。	◎3 看護実践の追求
	◎4 看護の質向上への貢献
	◎7 学際性に関する探究
	8 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1・2	研究意義	演習	各指導教員	研究計画の進み具合は、学生個々によって異なるので、主指導教員と密に連絡を取ること。研究計画に必要な先行研究文献は主指導教員と文献クリティークなどを行い、正確に理解した上で、自己の研究に活用・応用すること。	
3・4	研究目的	演習	各指導教員		
5・6	文献レビュー	演習	各指導教員		
7~11	研究対象	演習	各指導教員		
12・13	研究方法	演習	各指導教員		
14・15	研究結果の予測	演習	各指導教員		
16・17	研究の限界	演習	各指導教員		
18・19	倫理的配慮	演習	各指導教員		
20~30	計画書の点検 1．前期に学んだ看護学研究法に基づいて、研究計画を構造化する。 2．研究目的は先行研究の検討や専門家との協議により妥当性や意義を検討する。 3．研究結果の信頼性を高めるために、適切な研究方法を選択する。 4．主指導教員に十分なアドバイスをうける。 5．指定された日時に作成した研究計画書を提出する。 6．研究計画審査で承認された後は、倫理審査受審に備える。 （倫理審査受審に必要な書類を漏れなく準備する）	演習	各指導教員		

成績評価方法・基準	演習への取り組み状況 40% 研究計画書の精度 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	講義終了時に講義の総評や今後の学習アドバイスを行う。 レポートに関しては、返却し学習のアドバイスを行う。
教科書	必要に応じ、適宜指示する。
参考書・参考文献	必要に応じ、適宜指示する。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	オフィスアワー：眞﨑直子（7号館4階 722号室）；月曜 12：10～13：10 メールアドレス ：masaki@st-mary.ac.jp 各演習に関する事項については各指導教員にご連絡ください.

開設科目名	ウィメンズヘルス看護学特論	科目コード	MNSA520	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	浅野美智留	担当者	浅野美智留、桃井雅子、野口ゆかり、川上桂子、堀大藏、他		

授業の概要（授業の目的）

ウィメンズヘルス（リプロダクィブヘルスを含む）の高度看護実践における臨床判断に必要な、女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に関連する女性医学の知識、人間発達学の知識を学習する。また、ウィメンズヘルスに関する今日的な課題に焦点を当て、関連する概念・理論・制度に対する理解に基づき、社会システム構築および政策立案について探求する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．女性のライフサイクルにおける健康問題に関連する女性医学の知識、人間発達学の知識、また看護ケアについて理解できる。 2．ウィメンズヘルスに関する今日の課題と、関連する概念・理論・制度について理解できる。 2．ウィメンズヘルスに関する課題について、社会におけるケア・システムの構築および政策の立案を考察できる。	1）全人的ケアの探求、2）倫理原理の修得 3）看護実践の追求、5）看護理論の活用 8）看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	周産期医療の動向とハイリスク妊産褥婦管理の課題	講義	堀	復習：講義で配布された文献・資料等を見直すと共に、自らの関心に沿ってリソース探索を行い、さらに理解を深めてください。	4時間
2	助産職におけるシステム・基礎知識のイノベーション	講義	浅野	講義にて課題を呈します。共に思考して議論した結果を踏まえ、ウイメンズヘルスの健康に関連する女性異学の知識について議論する。	4時間
3	健康生成論、適応力・適応システム、ストレス理論	講義	浅野	講義にてウイメンズヘルスに関する適応生理を確認し、健康を促進する看護ケアについて議論した結果を踏まえ、私見をまとめる。	4時間
4	ウイメンズヘルス、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス／ライツの概念	講義	桃井	授業に向けて事前に購読して頂きたい文献・資料等を提示・配布いたします。	4時間
5	女性の生涯発達・女性のライフステージと各期の健康課題と意思決定	講義	桃井	授業に向けて事前に購読して頂きたい文献・資料等を提示・配布いたします。	4時間
6	女性のライフサイクルにおける健康課題とケア① 内分泌変化による女性の体と心の変化	講義	浅野、桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
7	女性のライフサイクルにおける健康課題とケア② 女性を"ケアすること"について	講義	浅野、桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
8	妊孕性とウイメンズヘルス① 健康な生殖力と環境	講義	浅野、野口、川上 桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
9	妊孕性とウイメンズヘルス② 食生活とウイメンズヘルス	講義	浅野、野口、川上 桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
10	女性の身体性・運動① 健康を生成する生活の科学	講義	浅野、野口、川上 桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
11	女性の身体性・運動② 骨盤底筋群・月経血コントロール	講義	浅野、野口、川上 桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
12	ライフサイクルを取り巻く環境と心身相関	講義	浅野、野口、川上 桃井	事前に講義にて課題を呈し、議論を行う。	4時間
13	妊孕性・出産・子育て期におけるセルフコントロール力と、専門的助産・看護支援	講義 演習	桃井、浅野、 野口、川上	上記の議論を踏まえて、セルフコントロール力を高める支援について考える。	4時間
14	妊孕性・出産・子育て期におけるセルフコントロール力と、専門的助産・看護支援	講義 演習	桃井、浅野、 野口、川上		4時間
15	女性の健康問題に関するケア・システムの構築、政策立案	講義 演習	桃井、浅野、野口、川上	ウイメンズヘルスの健康生成に寄与するテーマを考えて社会システム構築について考える。	4時間

成績評価方法・基準	①　授業への取り組み状況（40%）：事前の準備、授業への参加状況 ②　レポート（60%）＊レポートのテーマは、講義の最終回に行います。

課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	フィードバックは講義終了から1~2週間後に行います
教科書	必要に応じて、適宜提示いたします。
参考書・参考文献	・吉野慎一：脳内リセット、主婦の友社、2003 ・船瀬俊介：笑いの免疫学、花伝社、2006 ・ジャスティン・モベリ：オキシトシン、晶文社、最新版 ・ミシェルオダン：プライマル・ヘルス、メディカ出版、2000 ・安保徹著書多数
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ その他	＊浅野美智留　水曜日 12:10～13:10 オフィスアワーには、自由にドアをたたいてください。それ以外の時間帯はメールで予約を入れてください。 ＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	MCH 看護学特論Ⅰ	科目コード	MNSA521	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、堀内成子　他		

授業の概要（授業の目的）

周産期・母子ケアの理念、既存の理論と概念を学ぶ。これらの学習内容を基に、女性と家族の健康に関わる現象を捉え、女性と家族の持てる力（生命力 vital power、セルフケアの力）を尊重し生かす看護実践を探求する。また当領域の看護実践に関わる倫理的課題について理解を深め、考察することができる。

現代の女性と家族を取り巻く周産期・母子のケアシステムの現状・課題とその対応（周産期医療ネットワークの構築・課題とそれに対する社会システムの構築・政策立案等）について理解を深めることができる。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1）当領域のケアに関わる理念、主なる理論と概念について理解を深めることができる。	1）全人的ケアの探求
2）上記 1)の理念および理論と概念について、実践・研究への適用を検討することができる。 ①自らの関心に沿って適切な文献を選択し、読み解くことができる。 ②自らの考えを言語化・明文化して他者と共有できる（プレゼンテーション、ディスカッション）。 ③他者と考えを共有することを通して、さらに自らの考えを深化させることができる。	1）全人的ケアの探求、3）看護実践の追求、 ◎5）看護理論の活用、 6）看護理論の検証、 ◎7）国際性・学際性の探求
3）現代の女性と家族を取り巻く、周産期・母子のケアシステムの現状と課題、また当領域のケアに関わる倫理的課題について理解を深めることができる。	◎1）全人的ケアの探求、◎2）倫理原理の修得
4）現代の女性と家族の健康に関わる課題（問題）について、自らの関心に沿って具体的な現象を取りあげ、それに対峙するケア者（看護専門職者）としての、自らのあり方や考え方（倫理観を含む）について再考・考察できる。また、そこで明らかとなった自己の考えを他者と共有し、それを通してさらに自己の考えを深化させることができる。	◎1）全人的ケアの探求、 2）倫理原理の修得、 ◎3）看護実践の追求

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	科目のガイダンス、 周産期・母子の看護におけるケア者の理念	講義	桃井	講義の前後で、自身のケア者としての理念について再考する	4時間
2	理論①：セルフケア・役割に関する理論	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当理論について再考する	4時間
3	理論②：愛着に関する理論	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当理論について再考する	4時間
4	理論③：人間発達に関する理論	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当理論について再考する	4時間
5	理論の実践・研究への適用 ＊受講者の関心に沿って内容を決定します。	発表 討議	桃井	事前に提示されたテーマに沿ってレポートを作成する、 講義中の他者との考えの共有をもとに自己の考えを深める	4時間
6	概念①：女性中心のケア、家族中心のケア	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当概念について再考する	4時間
7	概念②：意思決定	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当概念について再考する	4時間
8	概念③：聖性の健康にかかわる概念	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、当概念について再考する	4時間
9	ヘルスプロモーション・エンパワメント、セルフケア				4時間
10	概念の実践・研究への適用	発表 討議	桃井	事前に提示されたテーマに沿ってレポートを作成する、 講義中の他者との考えの共有をもとに自己の考えを深める	4時間
11	＊受講者の関心に沿って内容を決定します。				4時間
12	女性と家族を取り巻く社会の現状と課題 1）周産期ケアシステムの現状と課題 ①　周産期医療ネットワークの構築と課題	講義	堀内	学習内容を基に、自らの実践場面を想起し再考する	4時間
13	②　周産期における質と安全の保証	講義	織内	学習内容を基に、自らの実践場面を想起し再考する	4時間
14	2）周産期ケアにおける倫理的課題 ・生殖医療・新生児医療における倫理的課題	講義 討議	桃井	事前に提示されたテーマに沿ってレポートを作成する、 講義中の他者との考えの共有をもとに自己の考えを深める	4時間
15	・倫理的課題に対するケア者のあり方について				4時間

成績評価方法・基準 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	①　授業への取り組み状況（60%）：事前の準備、授業への参加状況 ②　レポート（40%）：フィードバックは講義中と本科目終了後に行います。
教科書、参考書・参考文献	各回に備えて購読していただきたい文献を、事前に提示いたします。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ	＊オフィスアワー：水曜日　16:30~18:00　　＊学習相談：随時受け付けます。 ＊メッセージ：看護学における理論・概念を通して、自らの看護者としてのあり方や、自らのこれまでのケアについて振り返る時としてください。また、理論や概念を看護ケアに活かすことの意味・意義、可能性についても深く考える時としていただくことを願っています。

開設科目名	MCH 看護学特論Ⅱ	科目コード	MNSA522	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、片岡弥恵子、浅野美智留、野口ゆかり、川上桂子他		

授業の概要（授業の目的）

周産期・母子ケアに関する研究を導く、また研究をクリティークするための基盤となる論理的思考について学ぶ。

研究を通して当領域のケアを創出することと、対象者にとって最善のケアを探求することに関して学び、それを担う看護学の研究者として、自らの研究に関する考えを探究することについて学修する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1） 周産期・母子ケアに関する研究を計画・実施、クリティークするために基盤となる論理的思考について理解し、その思考過程を辿ることができる。 ① その意味と必要性、具体的な思考の仕方を理解できる。 ② 上記①を基に、自他の研究計画ならびに研究論文を検討する、クリティークすることができる。 ③ 上記②について、自己の考えを言語化・明文化して、他者と共有すること（プレゼンテーション、ディスカッション）ができる。 ④ ①~③を通し論理的思考に慣れ親しむと共に、その必要性について理解を深めることができる。	◎1）全人的ケアの探求 ◎3）看護実践の追求 5）看護理論の活用 6）看護理論の検証 7）国際性・学際性の探求、 ◎8）看護学の検証と発展
2） 研究を通して周産期・母子ケアを創出すること、対象者にとって最善のケアを探求することに関して理解し、後者の探求に関しては実際に探索過程を辿ることができる。 ① 研究を通して当領域のケアを創出すること、よりよいケアを探求すること（ケアの根拠を探索すること、根拠を適用すること）の意味と必要性を理解できる。 ② 根拠の探索・適用に関して、対象者の個別的ニーズに沿うケアを見い出すための探索方法、それを適用するか否かを判断するための視点について理解できる。 ③ 上記②を基に、既存のガイドラインを吟味・検討し、自己の考えを他者と共有すること（同上）ができる。	
3） 上記1）および2）を通して、研究によって周産期・母子ケアを創出する、ならびに探求する看護者かつ研究者として、自らの研究に対する考えを再考し、他者と共有すること（同上）ができる。この共有を通して、自己の考えを深化させることができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	Ⅱ．周産期・母子領域における根拠（研究）にもとづくケアの意味と必要性 1．ケアを創出することについて	講義	桃井	事前に提示された文献・資料を購読する、上記の到達目標3）について自己の考えを再考・深化させる	4時間
2	2．根拠の探索と適用について	講義	桃井		4時間
3	【EBNと量的研究】 ～基本となるステップ～ 1．問題の定式化	講義	片岡	事前に提示された文献を購読する、事後に文献を見直す	4時間
4	2．文献検索	講義	片岡		4時間
5	3．エビデンスの吟味① 表題、抄録、研究の背景と目的・意義 研究方法について	講義 討議	片岡		4時間
6	エビデンスの吟味② 結果と考察、結論、その他（利益相反、臨床試験登録など）について	講義 討議	片岡		4時間
7	4．エビデンスの適用	講義	片岡		4時間
8 ～ 9	～周産期・母子ケアにおけるエビデンスの適用～ 1． ガイドラインについて 目的・必要性，作成，評価	講義	桃井	事前に提示された文献を購読する、事後に文献を見直す	4時間 4時間
10	2．周産期ケアに関するガイドラインの吟味	発表 討議	桃井	事前に提示された既存のガイドラインを購読し、第8～9回での学習をもとにガイドラインの内容を吟味・検討して講義に臨む	4時間
11	3．新生児ケアに関するガイドラインの吟味	発表 討議	桃井		4時間
12	【EBNと質的研究】 周産期ケアのエビデンスとしての質的研究の捉え方	講義	桃井	事前に提示された文献・資料を購読する、上記の到達目標3）について自己の考えを再考・深化させる	4時間

13	Ⅲ．論理的思考にもとづく周産期ケアに関する研究の検討・クリティーク 1．研究論文の吟味・クリティーク	演習	桃井、浅野 野口、川上	（次ページ参照）	8時間
14	2．研究計画の吟味・クリティーク① 研究計画書のプレゼンテーション・質疑応答		桃井、浅野 野口、川上	予習：プレゼンテーション・ディスカッションに備えて、以下①~③を行い、講義に臨む。 ① 取りあげたい研究論文および研究計画を選択する ② 上記①で選択したものの内容を論理的思考にもとづき検討・クリティークする ③ 自己の考えをレポートにまとめ、講義の前日までに担当教員に提出。また、他の受講者に配布する 復習：講義での他者との共有（ディスカッション等）をうけて、自己の講義前のレポートを再考し、考えを深化させ、内容を洗練することを試みる。	8時間
15	研究計画の吟味・クリティーク② よりよい（善い・良い）計画書に向けての意見交換・討議		桃井、浅野 野口、川上		8時間

成績評価方法・基準 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	① 授業への取り組み状況（60%）：事前の準備、授業への参加状況 ② レポート（40%） ＊レポートは第13回～15回の授業に向けて作成して頂きます。テーマの提示は、各回の2週間前に行い、フィードバックは講義中と本科目終了後に行います。
参考書・参考文献	各回に備えて購読していただきたい文献を、事前に提示・配布いたします。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ	＊オフィスアワー：桃井雅子、2号館1階 213研究室、水曜日 16:30~18:00 ＊学習相談：随時受け付けます。 ＊メッセージ：周産期・母子看護におけるケア者として、研究をどのように捉え、今後、研究に臨もうとしておられるでしょうか？ 本科目を通して御自身の考え方、あり方・姿勢を明確にする機会と時間を持っていただけることを願っています。

開設科目名	PIC(周産期集中ケア)特論Ⅰ	科目コード		開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、川上桂子、堀大蔵、下村卓也、田中佳代、他		

授業の概要（授業の目的）

EBN および EBM の研究成果に基づき、周産期(妊娠・分娩・産褥期)における妊産褥婦と家族のプライマリーケア、正常経過から逸脱した対象者（ﾊｲﾘｽｸ事例）に対する症状アセスメントや看護ケア、緊急時に対応するための医療を学び、質の高い高度看護実践方法を探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．周産期における妊産褥婦について、その経過を正常へと導く臨床判断を行うのに必要な知識を理解できる。	◎3）看護実践の追求
2．正常経過から逸脱した対象者（ﾊｲﾘｽｸ事例）に対する症状アセスメントや看護ケア、緊急時に対応するための医療を理解できる。	◎4）高度実践看護師
3．上記1と2を通して、質の高い看護実践方法を考察することができる。	5）看護理論の活用 6）看護理論の検証 8）看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	周産期医療・看護の歴史	講義・討議	桃井	予習： ・テキスト・参考書等で授業内容に該当する箇所に目を通し、これまでの自身の経験と照らし合わせ、授業のテーマに関する自分なりの見解をもって授業に参加してください。 ・21-30 回の事例展開の授業までに、CNS として介入する必要があると考えられる事例を選定しておいてください。 復習： ・授業で配布された文献・資料等を見直すと共に、自らの関心に沿ってリソース探索を行い、さらに理解を深めてください。 ・21-30 回の、各回の事例展開の授業を受けて、CNS として質の高い実践に向けた取り組みについて考察してください。	到達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。
2	妊娠期の異常(切迫早産、妊娠高血圧症候群、他)	講義・討議	堀・下村他		
3	合併症妊娠：病態生理・診断と治療	講義・討議	堀・下村他		
4	周産期と糖尿病①	講義・討議	田中		
5	周産期と糖尿病②	講義・討議	田中		
6	妊娠期の異常：妊娠合併症と看護	講義・討議	田中		
7	超音波による画像診断①	講義・討議	堀・下村他		
8	超音波による画像診断②	講義・討議	堀・下村他		
9	胎児モニタリングと周産期医学①	講義・討議	堀・下村他		
10	胎児モニタリングと周産期医学②	講義・討議	堀・下村他		
11	胎児モニタリングの判読と対応　事例検討①	講義・討議	浅野他		
12	胎児モニタリングの判読と対応　事例検討②	講義・討議	浅野他		
13	分娩期の異常の予防	講義・討議	川上他		
14	分娩期の異常への緊急対応①	講義・討議	堀・下村他		
15	分娩期の異常への緊急対応②	講義・討議	堀・下村他		
16	分娩期異常と看護	講義・討議	川上他		
17	麻酔と分娩	講義・討議	堀・下村他		
18	産褥合併症　病態生理・診断と治療	講義・討議	堀・下村他		
19	産褥合併症と看護	講義・討議	桃井		
20	周産期分野で職種を超えた協働（職種について）	講義・討議	桃井		
第21～25回 【演習1】ﾌｨｰﾙﾄﾞ：聖マリア病院:MFICU、産科病棟、産科外来 ・医師のクリニカルラウンド、カンファレンス(切迫早産、多胎妊娠、合併症をもつ妊産褥婦　ほか)参画、診断・検査・薬物療法、処置について学ぶ ・妊婦健康診査を行い母体の健康状態診査、超音波による胎児管理、胎児モニタリングによる胎児の健康状態の評価までを実施(産科外来)		講義 ・討議実技	堀・下村 桃井・浅野 川上他		
第26～30回 【演習2】ﾌｨｰﾙﾄﾞ：聖マリア病院：MFICU、産科病棟、 ・産科外来の事例（若年妊婦、多胎妊産褥婦等の複雑事例）のアセスメント、ケア計画病棟カンファレンスの企画から評価までを行う		講義・討議 実技	堀・下村 桃井・浅野 川上他		

成績評価方法・基準	①　演習への取り組み状況（40%）：事前の準備、演習への参加状況 ②　レポート（60%）＊レポートのテーマは、第21~30回に関するオリエンテーションにおいて提示いたします。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	＊フィードバックはレポート返却時に行います。
教科書	必要に応じて、適宜提示いたします。
参考書・参考文献	必要に応じて、適宜指示します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談	桃井雅子＊オフィスアワー：水曜日　16:30~18:00　　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	PIC(周産期集中ケア)特論Ⅱ	科目コード	MNSA524	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、川上桂子、橋本武夫、前野泰樹 他		

授業の概要（授業の目的）

EBN および EBM の研究成果に基づき、周産期看護ケアを必要とする胎児・新生児と家族のプライマリケア、正常経過から逸脱した対象者（ハイリスク新生児）に対する症状アセスメントや看護ケア、緊急時に対応するための医療を学び、質の高い高度実践看護方法を探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．周産期における胎児・新生児について、その経過を正常へと導く臨床判断を行うのに必要な知識を理解できる。 2．正常経過から逸脱した対象者（ハイリスク事例）に対する症状アセスメントや看護ケア、緊急時に対応するための医療を理解できる。 3．上記1と2を通して、質の高い看護実践方法を考察することができる。	◎3）看護実践の追求 ◎4）高度実践看護師 5）看護理論の活用、6）看護理論の検証 8）看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	【新生児集中ケア概論】 新生児医療（看護）の歴史	講義・討議	桃井	予習： ・テキスト・参考書等で授業内容に該当する箇所に目を通し、これまでの自身の経験と照らし合わせ、授業のテーマに関する自分なりの見解をもって授業に参加してください。 ・21-30 回の事例展開の授業までに、CNSとして介入する必要があると考えられる事例を選定しておいてください。 復習： ・授業で配布された文献・資料等を見直すと共に、自らの関心に沿ってリソース探索を行い、さらに理解を深めてください。 ・21-30 回の、各回の事例展開の授業を受けて、CNS として質の高い実践に向けた取り組みについて考察してください。	到達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。
2	新生児集中ケアにおける看護の基本	講義・討議	桃井		
3	新生児のディベロプメンタルケア	講義・討議	橋本		
4	新生児集中ケアの倫理的課題① 新生児の痛みについて	講義・討議	桃井他		
5	新生児集中ケアの倫理的課題② 新生児の痛みに対するケア	講義・討議	桃井他		
6	【新生児集中ケア方法】 新生児のフィジカルアセスメント① 意義、出生前の環境と予後への影響	講義・討議	前野		
7	新生児のフィジカルアセスメント② 生理学的及び行動学的観察、 成熟度及び母体外適応レベルの評価	講義・討議	前野		
8	【蘇生技術の基本と実際】 胎児期からの呼吸器系発達、胎児循環から新生児循環への変化、ほか	講義・討議	前野		
9	蘇生技術の実際	講義・討議	前野		
10	呼吸の管理① 人工呼吸器の原理	講義・討議	前野		
11	呼吸の管理② 呼吸管理の実際	講義・討議	前野		
12	【新生児の病態生理・診断と治療】 呼吸不全	講義・討議	前野		
13	呼吸不全	講義・討議	前野		
14	新生児と薬理① 新生児の薬物動態	講義・討議	前野		
15	新生児と薬理② 薬物療法の基本・原則	講義・討議	前野		
16	新生児と薬理③ 薬物と母乳について	講義・討議	前野		
17	【ディベロップメンタルケア、タッチケア他】 意義と考え方	講義・討議	橋本		
18	ケアの実際	講義・討議	橋本		
19	【新生児の在宅医療支援】 NICUから在宅への移行について	講義・討議	桃井他		
20	NICU入院退院支援コーディネーター、他職種との協働	講義・討議	桃井他		
第21～23回 【演習1】フィールド： 聖マリア病院 ： NICU、GCU、新生児外来 医師のクリニカルラウンド、カンファレンス参画、診断・検査・薬物療法、処置について、医師の外来診療につき臨床推論過程を辿る		講義・討議 実践	前野 桃井・浅野 川上 他		
第24～30回 【演習2】 受け持ち事例のアセスメントとケア計画、病棟カンファレンスの企画から評価迄 ＊レポート課題：複雑事例の在宅医療支援とコーディネートについて （他職種との協働・調整）		講義・討議 実践	前野 桃井・浅野 川上 他		

成績評価方法・基準 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	①　演習への取り組み状況（40%）：事前の準備、演習への参加状況 ②　レポート（60%）＊テーマの詳細は、第 21~30 回のオリエンテーションにおいて説明いたします。 ＊フィードバックはレポート返却時に行います。
参考書・参考文献	必要に応じて、適宜提示いたします。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ、学習相談	桃井雅子　＊オフィスアワー：水曜日 16:30~18:00　　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	MCH 看護学特論実習Ⅰ	科目コード	MNSA525	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	90時間	授業区分	実習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、川上桂子 他		

授業の概要（授業の目的）

【実習1st レベル】 CNS役割実習

専門看護師の役割と機能を果たすために、実習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを段階的に習得するための初期段階の実習である。高度なアセスメントに基づいた周産期医療とケアの実践、看護スタッフへの教育・相談活動、他部門との調整、倫理的課題に対する調整機能について、実践活動を通して学修する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．MCH（周産期・母子）看護学領域の専門科目で学習したことを統合し、高度周産期医療が提供される医療機関において、複雑な問題を抱える事例について、実際の臨床現場において展開されるCNSの看護活動を、CNS（役割モデル）のスーパーバイズを受けながら実施することができる。	◎1）全人的ケアの探求 ◎2）倫理原理の修得 ◎3）看護実践の追求 4）高度実践看護師 5）看護理論の活用 6）看護理論の検証 8）看護学の検証と発展
2．上記1の実践を通して、周産期にある母子とその家族に対し、個々の状況に即した質の高い看護実践活動を行うための母性看護（周産期集中ケア）専門看護師の役割について評価・考察ができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	実習内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1．周産期における複雑な問題を抱える事例を1例受け持ち、実習指導者である専門看護師（CNS 役割モデル）のスーパーバイズを受けながら専門看護師の役割を果たす。 2．実習施設でCNSが行っている専門的看護実践の実際（高度実践、看護スタッフへの相談・教育、他部門との調整、倫理調整など）について、事例検討やカンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保、業務改善のための取り組みについて学ぶ。 3．実習施設で行われている研究的取り組みや事例検討、カンファレンスに参加し、CNS が行っている業務改善や組織改革のための取り組みについて学修する。 ※詳細は実習要項参照	実習	桃井 浅野 川上 他	実習要項を熟読し、実習の目的・目標・内容、留意事項について十分理解した上で、自身の実習計画を立案し、実習施設との調整等、主体的に実習準備を行ってください。	達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。

成績評価方法・基準	実践場面の評価：60%、レポート：40% ＊実習施設と協働し、適宜ケースカンファレンスを行い、評価を受ける。 ＊実習終了時には、実習した事例、課題についてレポートにまとめる。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	＊フィードバックは実習中（随時）および実習後のレポート返却時に行います。
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	桃井雅子　＊オフィスアワー：水曜日 16:30~18:00　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	看護政策・管理学特論（国際比較）	科目コード	MNSA526	開設期	１年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	矢野正子、近末清美		

授業の概要（授業の目的）

外国の医療制度の経緯・実状理解しつつ、わが国の将来の保健・医療祉の方向性を見直し、その中で看護政策・看護管理・看護教育の改革に求められるものを把握し、学生自身の持つ課題に結び付けて考察し、研究につなげられるようにするための導入として位置づける。
保健・医療・福祉・看護の機構の中で、看護の質の観点から医療制度や医療供給体制の改革が重要視されている今日、看護師、医師、医療関係従事者、患者がどのように改革に参加できるのか、特に看護師が医療システムにおけるケア・サービスを提供する中で、効果的なリーダーや管理者となるために必要な知識と技術について、国際的視野での看護・医療の動きの上に立って学ぶ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．日本の医療制度・看護制度の歴史的変遷を説明できる。	４看護の質向上への貢献 ８専門職業人としての発展
２．英国の医療制度・看護制度の歴史的変遷を説明できる。	
３．米国の医療制度・看護制度の歴史的変遷を説明できる。	
４．各国比較により要点・違が説明できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）①日本の医療制度	講義	矢野	教科書①第Ｉ部（日本の医療制度）	４時間
2	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）②日本の看護制度	演習	矢野	教科書①第Ｉ部（日本の看護制度）	４時間
3	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）③英国の医療制度	講義	矢野	教科書①第２部（英国の医療制度）	４時間
4	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）④英国の看護制度	演習	矢野	教科書①第２部（英国の看護制度）	４時間
5	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）⑤米国の医療制度	講義	矢野	参考文献（馬場園他）米国の医療制度	４時間
6	各国の医療制度および看護制度について（日本、英国、米国、その他）⑥米国の看護制度	講義	矢野	参考文献（馬場園他）米国の看護制度	４時間
7	わが国の医療政策・医療行政について① 平成 31 年度厚労省予算(案)概要と主要政策	講義	近末	参考資料（国家予算、厚労省予算等）	４時間
8	わが国の医療政策・医療行政について② 医療介護総合推進法の意味	講義	近末	参考資料（医療介護総合推進法等）	４時間
9	わが国の医療政策・医療行政について③ 看護職確保の実績と特定行為研修制度の推進	講義	近末	参考資料（看護職員確保対策と特定行為研修制度）	４時間
10	わが国の医療政策・医療行政について④ 地域包括ケアシステムの推進	講義	近末	参考文献（地域包括ケアシステム）	４時間
11	米国の看護に関する検討① 米国の看護教育の歴史	講義	矢野	参考文献（アメリカの看護教育の歴史）	４時間
12	米国の看護の関する検討② APN の今後の展望	講義	矢野	参考文献（米国の APN について）	４時間
13	わが国の看護管理に関する検討① 明治～第二次世界大戦	講義	矢野	教科書② わが国の看護管理の経緯その①	４時間
14	わが国の看護管理に関する「検討② 1945～現在	講義	矢野	教科書② わが国の看護管理の経緯その②	４時間
15	わが国の看護政策・管理の課題（まとめ）	講義	近末	参考文献 まとめと課題レポートについて	４時間

成績評価方法・基準	① クラスワーク・発表 50% ② 課題レポート 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	レポートは評価し、後日返却、説明する
教科書	① 金子雅彦（2012）医療制度の社会学－日本とイギリスにおける医療提供システム－．書肆クラルテ ② 日本看護歴史学会編（2014）日本の看護のあゆみ－歴史をつくるあなたへ－．日本看護協会出版会
参考書・参考文献	参考書、参考文献など ・看護教育の原理と歴史 小山眞理子（2003）医学書院 ・看護六法（平成 30 年度必要な部分をコピー） その他必要時提示します

教科書	① 小山真理子（2003)、看護教育の原理と歴史、医学書院 ② 金子雅彦（2012)、医療制度の社会学 日本とイギリスにおける医療提供システム、書肆クラルテ ③ JETRO BRC Research Project No. 19 (2017), Human Resource Development and Mobility of Skilled Labour in Southeast Asia: The Case for Nurses, Chapter 3, Thailand
参考書･参考文献	日本の看護のあゆみ、日本看護協会出版会（2014） Donahue M. Patricia (1985), Nursing, The Finest Art: An Illustrated History, The C. V. Mosby（コピーを準備） 看護史（1957）極東学芸通信 Harmic, A etc. (2013) : Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5th edition ライダー玲子他（2003)、戦後日本の看護改革、日本看護協会出版会 金子光（1980）看護の灯高くかかげて、日本看護協会出版会 ･その他必要時提示します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	矢野正子（非常勤） 質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	看護教育学特論（国際比較）	科目コード	MNSA527	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	矢野正子	担当者	矢野正子、近末清美		

授業の概要（授業の目的）

わが国の看護教育は第二次大戦後米国における看護教育の影響を受け今日まで発展してきた。本科目は、日本、米国、英国、タイにおける看護教育の歴史、教育制度の変遷、それに伴う教育の考え方の変化などについて比較しながら看護教育についてグローバルに探究する。
日本、米国、英国、タイにおいて異なった文化圏の教育を比較することにより、自国の看護教育をより深く理解し、最終的には自国の看護教育の発展に寄与することを目的とする。あわせて看護教育を学ぶことから看護教育学についての考え方について学びを深める。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．わが国における看護教育の歴史を理解し、説明できる	7国際性・学際性の探求
2．米国における看護教育の歴史を理解し、説明できる	
3．英国における看護教育の歴史を理解し、説明できる	
4．タイにおける看護教育の歴史を理解し、説明できる	
5．看護師および高度実践看護師の教育について各国理解し説明できる	8専門職業人としての発展
6．看護教育学について理解し、説明できる	2倫理の本質を捉えた実践

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	わが国における看護教育の歴史（1） 明治維新前後―1945	講義	矢野	次回の講義内容を理解し、専門用語等の意味を理解しておくこと 教科書①第4章 日本における看護教育の歴史的変遷①②③	4時間
2	わが国における看護教育の歴史（2） 1945―現在	講義	矢野	教科書①第4章 日本における看護教育の歴史的変遷④⑤	4時間
3	看護教育の考え方、わが国の場合（1） 看護教育制度、看護教育課程の方向性と課題	講義	矢野	参考資料(看護教育の序論、制度、教育課程)	4時間
4	看護教育の考え方、わが国の場合（2） 看護実践能力と基礎技術隣地実習の方向性と課題	講義	矢野	参考資料(看護教育授業展開論、隣地実習)	4時間
5	米国における看護教育の歴史（1） 19世紀―1950年代	講義	矢野	教科書①第1章 アメリカの看護教育の歴史的変遷①②	4時間
6	米国における看護教育の歴史（2） 1960年代以降	講義	矢野	教科書①第3章 アメリカの看護教育の歴史的変遷③	4時間
7	看護教育の考え方、米国の場合（1） ヨーロッパの影響、1900年前後の卓越した指導者達	講義	矢野	参考資料 Donahue, M.P. Unit7 Advancing toward New Frontiers	4時間
8	看護教育の考え方、米国の場合（2） 20世紀における変容と発展、その後	講義	矢野	参考資料 Unit8,9 Nursing is Action	4時間
9	ヨーロッパにおける看護教育の歴史(英国)（1） ナイチンゲール以前からプロジェクト2000まで	講義	矢野	教科書①第3章 イギリスにおける看護教育の歴史的変遷①②③④	4時間
10	ヨーロッパにおける看護教育の歴史(英国)（2） プロジェクト2000以降	講義	矢野	教科書①第3章 イギリスにおける看護教育の歴史的変遷①②③④	4時間
11	タイにおける看護教育の歴史（1） 1896―1988 始まりと米国看護教育の影響	講義	矢野		4時間
12	タイにおける看護教育の歴史（2） 1988年以降 修士、博士課程の発展	講義	矢野		4時間
13	高度実践看護師の教育、その歴史と現状と課題(日、米、英、タイ)	講義	矢野	参考資料（看護研究 Jul-Aug,2015）	4時間
14	教育評価、学習理論と学習方法	講義	矢野	参考資料（看護教育評価論） 教科書①第7(看護教育における学習法)	4時間
15	全体にわたるまとめ評価	講義	矢野	課題の整理、レポートの提示	4時間

成績評価方法・基準	参加態度50% 課題レポート50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の模範解答を講義内に、または後日提示する ・講義中、または後日返却する

ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ その他	近末清美　７号館 3F　７３４研究室 ｵﾌｨｽｱﾜｰ 水曜 16:30～17:30

開設科目名	看護政策・管理学演習（国際比較）	科目コード	MNSA528	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	矢野正子、近末清美		

授業の概要（授業の目的）

授業目標をふまえて、看護政策・管理学の諸課題・諸問題について現実的かつ継続的なアプローチができるように、そのために必要な知識の収集や方法論を具体的に学ぶ。その場合、わが国のみならず、グローバルな視点をも常に念頭におくようにする。

看護政策・管理学特論の授業科目における、保健・医療・福祉・看護における国際的な動きの把握をもとに、新たに検討すべき課題、さらに内容の幅や深さや関連する文献などにより学びの視点を広げる。その上で、わが国の看護政策・管理についての課題・問題を明らかにし、これからの方向を検討することより、これからの研究へと導くことができる。わが国の医療状況について現状を十分に自ら知ることが重要であり必要な情報を継続的に収集し、法制度に関する検討会などの動きにも関心をもつ。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．歴史的経緯から見たわが国の訪問看護についてその歴史や実態などを理解できる	4看護の質向上への貢献 8専門職業人としての発展
2．歴史的経緯から見た米国の訪問看護について、その歴史や実際、社会的影響などを理解できる	
3．看護制度に関する検討会の経緯について理解できる	
4．看護制度検討会報告による訪問看護制度の具体化について理解できる	
5．看護制度検討会報告による専門看護師等認定制度の具体化について理解できる(1987～)	
6．地域包括ケアシステム構築における看護師の役割について理解できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	米国における訪問看護の歩み－看護教育との関連―① ニューヨークヘンリー街セツルメント活動としての訪問看護	講義	矢野	教科書③unit7(米国での訪問看護の始まり)	4時間
2	米国における訪問看護の歩み－看護教育との関連―② TeachersCollege での公衆衛生看護師の教育	演習	矢野	教科書③unit7(米国での公衆衛生看護制度の始まり)	4時間
3	わが国の看護歴史研究からみた訪問看護のあゆみ① 明治期における派出看護事業における大関和・柘植あい	講義	矢野	参考資料（明治期の派出看護）復習する	4時間
4	わが国の看護歴史研究からみた訪問看護のあゆみ② 明治期以降現在に至るまで	演習	矢野	参考資料(訪問看護が現在に至るまでのあゆみ)を復習	4時間
5	看護制度検討会報告からみた政策課題① 報告書の概要	講義	矢野	参考資料(看護制度検討会報告概要)を復習	4時間
6	看護制度検討会報告からみた政策課題② 政策課題について	講義	矢野	参考資料(看護制度検討会報告の政策課題)復習	4時間
7	政策課題に対する取り組み① 訪問看護制度への取り組み	講義	近末	講義内容に関連する文献を精読し、疑問点を明確にして授業に参加する。学生によるプレゼンテーション、討議を行い理解を深める	4時間
8	政策課題に対する取り組み② 訪問看護の制度化	講義	近末		4時間
9	政策課題に対する取り組み③ CNS、認定看護管理者	講義	近末		4時間
10	政策課題に対する取り組み④ 大学化の推進	講義	近末		4時間
11	看護職員確保対策について① 看護職員確保対策の経緯	講義	近末		4時間
12	看護職員確保対策について② 看護師等人材確保法の制定	講義	近末		4時間
13	看護職員確保対策について③ 人確法基本方針の内容	講義	近末		4時間
14	看護職員確保対策について④ 基本指針による施策	講義	近末		4時間
15	看護診療報酬の経緯 地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想	講義	矢野	参考資料（診療報酬の経緯 地域包括システム、地域医療構想）を復習	4時間

成績評価方法・基準	①クラスワーク・発表 50%　②課題レポート 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	レポートは評価し、後日返却、説明する
教科書	①金子雅彦（2012）医療制度の社会学－日本とイギリスにおける医療提供システム－．書肆クラルテ ②日本看護歴史学会編（2014）日本の看護のあゆみ－歴史をつくるあなたへ－．日本看護協会出版会 ③Donahue M.Patricia (1985),Nursing, The Finest Art: An Illustrated History,The C.V.Mosby（コピーを準備）
参考書・参考文献	・Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5th edition Hamric, A. 他(2013) ・看護六法 2020 年版（必要部分をコピーで作成） ・訪問看護のあゆみ　その他必要時提示します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	近末清美　7号館 3F　734研究室　オフィスアワー　水曜 16:30～17:30

開設科目名	国際看護学特論	科目コード	MNSA529	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	秦野環	担当者	秦野環、矢野正子、城石幸博		

授業の概要（授業の目的）

世界のグローバル化が進む中、人々の健康は大きく影響を受けている。人々の健康増進に関わる看護は、国境や地域を超えて広く世界で発生する健康課題に対応することが期待されている。世界の看護の実状を概観し、看護学の課題と展望を追求する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．世界の看護の現状を概観し、説明できる	1全人的ケアの探求、 3看護実践の追究、 7国際性・学際性の探求、 8専門職業人としての発展
2．グローバル社会における人々の健康問題を理解できる	
3．人々の健康問題改善のために、国際看護学に求められているものを説明できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	ガイダンス、国際看護学とは		秦野	国際看護学をイメージする	4時間
2	世界の看護史と看護の現状（1）先進国	講義	矢野	看護の歴史を概観しておく	4時間
3	世界の看護史と看護の現状（2）先進国	講義	矢野	看護の歴史を概観しておく	4時間
4	世界の看護史と看護の現状（3）開発途上国	講義	秦野	看護の歴史を概観しておく	4時間
5	国際看護学の歴史	講義	秦野	国際看護学の歴史を予習する	4時間
6	日本における国際看護の展開	講義	秦野	日本における国際看護の実際について考えておく	4時間
7	国際看護に関連する国際機関、国内機関、その組織と機能（1）国際機関（WHO, UNICEF, WID/GAD, UNDP, UNFPA 等）	講義	城石	国際看護活動に関わる団体に関し予習する	4時間
8	国際看護に関連する国際機関、国内機関、その組織と機能（2）国内機関（ICN, ICM）（国、JICA、地方、NGO、NPO 等）	講義	秦野	国際看護活動に関わる団体に関し予習する	4時間
9	グローバルヘルスの現状と看護 MDGs とSDGs について	講義	城石	ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標について予習する	4時間
10	グローバルヘルスの現状と看護 アジア・中近東の現状と課題	講義	秦野	アジア、中近東地域の健康問題と看護について予習する	4時間
11	グローバルヘルスの現状と看護 アフリカの現状と課題(HIV／AIDS)	講義	秦野	アフリカの健康問題と看護について予習する	4時間
12	グローバルヘルスの現状と看護 まとめ	講義	秦野	世界の健康問題と課題ということで考えておく	4時間
13	グローバルヘルスの現状と看護 開発途上国の看護の現状	講義	秦野	開発途上国における保健医療問題と、看護を展開するにあたり課題となることを考える	4時間
14	グローバルヘルスの現状と看護 先進国の看護の現状、世界の看護における雇用の創出と人材の移動	講義	秦野	先進諸国における保健医療問題と、看護を展開するにあたり課題となることを考える	4時間
15	国際看護学まとめ	講義	秦野		

成績評価方法・基準	評価方法： 授業外レポート 50点、 授業内での参加 30点、 プレゼンテーション 20点
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	最後の講義においてディスカッションを行い、講義全体への取り組みやプレゼンテーションに対しフィードバックを行う。レポートに関しても学生とディスカッションを行ったうえで、フィードバックを行う。
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	秦野環 2号館一階 214研究室 オフィスアワー： 火曜日 12時10分～13時10分、その他はメールでご連絡ください。調整します。 メールアドレスは office365 を活用ください。

これ以降は、学生には公表しない部分になりますが、シラバス原稿の「学修到達目標」「成績評価方法・基準」欄の参考となる

開設科目名	国際看護学方法論	科目コード	MNSA530	開設期	1年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	秦野環	担当者	秦野環、杉本孝生、城石幸博		

授業の概要（授業の目的）

日本国内外において展開される看護活動が国際社会が目指す人々の健康向上に貢献できるよう国際保健医療協力に関心を持ち、21 世紀の国際社会が目標とした「国連ミレニアム宣言 MDGs」や、それに続く「持続可能な開発目標 SDGs 」をふまえて、国際看護活動を展開する基礎的知識を学習する。国際医療協力に関わる世界の組織の特徴、活動の内容なども学ぶ。国際医療協力の現状や実績、方法論などを理解し、国際看護の視点を育み、将来のグローバル・ヘルスに協力する能力を養う。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．国連開発目標を理解し、人々の健康に関する事項について述べることができる	1全人的ケアの探求、 2倫理の本質をとらえた実践、 3看護実践の追究 7国際性・学際性の探求、 8専門職業人としての発展
2．持続可能な開発目標を理解し、人々の健康に関する事項について述べることができる	
3．国際社会における人々の保健医療に関する課題を述べることができる	
4．国際保健医療協力について理解し、説明できる	
5．国際看護活動について理解し、説明できる	
6．人々の健康向上に貢献するための看護活動を探求し、実践の計画・立案を行う	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	ガイダンス 「毎回の授業は、予習を基にプレゼンテーションを行い、担当教員の講義と合わせてディスカッションし、進める。」 国際看護学の実践を考える	講義	秦野	「国際看護学の実践とは」をイメージする	4時間
2	メディカルツーリズムと国際看護 （聖マリア病院、もしくは近隣の病院での実態を見学する）	講義 見学	秦野	メディカルツーリズムを予習する	4時間
3	日本の看護協力事業活動（アジア）	講義	秦野	アジアの国々における看護について	4時間
4	日本の看護協力事業活動（アジア）	講義	秦野	アジアの国々における看護について	4時間
5	日本の看護協力事業活動（アフリカ）	講義	秦野	アフリカの国々における看護について	4時間
6	日本の看護協力事業活動（アフリカ）	講義	秦野	アフリカの国々における看護について	4時間
7	日本の看護協力事業活動（中南米）	講義	秦野	中南米の国々における看護について	4時間
8	国際保健医療協力活動（日本政府）	講義	城石	政府開発援助	4時間
9	国際保健医療協力活動（国連機関）	講義	城石	国連機関の復習をしておく	4時間
10	国際保健医療協力活動（国際NGO）	講義	城石	国際NGOを選択し、予習する	4時間
11	国際保健医療協力活動（国際赤十字）	講義	秦野	国際赤十字について予習する	4時間
12	外国人保健医療従事者を対象とした研修の企画・運営―技術協力(本邦研修)の形態―	講義	杉本	研修事業の形態、実施主体(政府、NGO)による違いを予習する	4時間
13	外国人保健医療従事者を対象とした研修の企画・運営―本邦研修の企画・運営―	講義	杉本	研修事業の企画・運営を行うにあたり必要なことを考えておく	4時間
14	外国人保健医療従事者を対象とした研修の企画・運営―本邦研修の実際―	講義	杉本	研修事業の企画・運営を復習しておく	4時間
15	国際保健医療協力活動まとめ	講義	秦野		

成績評価方法・基準	評価方法 ：授業外レポート50点、 授業内参加度 30点、 プレゼンテーション20点
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	最後の講義においてディスカッションを行い、講義全体への取り組みやプレゼンテーションに対しフィードバックを行う。レポートに関しても学生とディスカッションを行ったうえで、フィードバックを行う。
教科書	適宜紹介する
参考書・参考文献	適宜紹介する
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	秦野環 2号館一階 214研究室 オフィスアワー： 火曜日12時10分～13時10分、その他はメールでご連絡ください。調整します。 メールアドレスはoffice365を活用ください。

開設科目名	国際看護学演習	科目コード	MNSA531	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義・演習
責任者	秦野環	担当者	秦野環		

授業の概要（授業の目的）

国際看護、国際看護協力を実施するための方法論の理論的構築を行い、さらにそれを展開することを目的とした実践的な問題解決能力を養い、今後の研究につなげる。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．国際保健医療協力、国際看護活動の研究の動向と課題に関する文献を収集できる	6．看護理論の検証
2．各自が焦点とする国や地域、地球規模の健康・看護課題に関する文献を収集できる	7．国際性・学際性の探求
3．収集した文献のクリティークを行い、研究に取り組む基礎を習得する	8．専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	学習ガイダンス	講義	秦野	国際保健医療協力、国際看護活動、等の研究論文を計画的に検索し、順次読んでおく	4時間
2	文献講読（国際看護、国際協力における看護活動	演習	秦野		4時間
3	文献講読（国際看護、国際協力における看護活動	演習	秦野		4時間
4	学生の興味ある国際看護活動の絞り込み	演習	秦野		4時間
5	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
6	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
7	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
8	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
9	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
10	文献購読（学生のテーマに基づく）	演習	秦野		4時間
11	研究テーマに関する文献購読と研究計画に向けてのプレゼンテーション I	演習	秦野		4時間
12	研究テーマに関する文献購読と研究計画に向けてのプレゼンテーション II	演習	秦野		4時間
13	研究テーマに関する文献購読と研究計画に向けてのプレゼンテーション III	演習	秦野		4時間
14	研究テーマに関する文献購読と研究計画に向けてのプレゼンテーション IV	演習	秦野		4時間
15	研究テーマに関する文献購読と研究計画に向けてのプレゼンテーション V	演習	秦野		4時間

成績評価方法・基準	評価方法：授業外レポート50点　授業内での参加度30点　プレゼンテーション20点
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	最後の講義においてディスカッションを行い、講義全体への取り組みやプレゼンテーションに対しフィードバックを行う。レポートに関しても学生とディスカッションを行ったうえで、フィードバックを行う。
教科書	必要に応じ適宜紹介します
参考書・参考文献	必要に応じ適宜紹介します
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	秦野環　2号館一階　214研究室 オフィスアワー：　火曜日12時10分～13時10分、その他はメールでご連絡ください。調整します。 メールアドレスはoffice365を活用ください。

開設科目名	課題研究	科目コード	MNSA532	開設期	1年後期~2年通年
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		

授業の概要（授業の目的）

看護実践の質の向上を目指して各専門領域における研究課題を特定し、適切な研究手法を用いて実践的な研究を行い、課題研究論文を作成する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 看護実践の中から課題を見出すことが出来る。 2. 研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画を作成できる。 3. 作成した研究計画に沿って課題を探求し課題研究論文を作成できる。	3. 看護実践の追及 4. 看護の質向上への貢献 8. 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1. テーマの決定 2. 関連文献の検索とクリティーク 3. 研究計画の作成 〔課題の重要性と背景、研究目的、研究の意義、研究方法、データ収集、分析と評価〕 4. 研究の実施 5. 分析とまとめ	演習	各担当教員	課題研究論文提出期限に向け、必要なプロセスを計画的に実施すること	

成績評価方法・基準	課題研究論文審査
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください

開設科目名	特別研究	科目コード	MNSA533	開設期	1年後期～2年通年
単位数（履修区分）	8単位（選択）	時間数	240時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		

授業の概要（授業の目的）

専攻領域の講義・演習などによる知識の活用及び文献検討をふまえて、各分野に関する研究課題を科学的に探求し、この過程を通して、修士論文を作成する。専攻領域で学んだ講義・演習などの内容に基づき、研究を通して専攻領域の技術、概念、理論の発展に貢献しうる能力を養う。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 文献検討からリサーチクエスチョンを導きだし、研究計画書を作成することができる。	5.看護理論活用の探求
2. 研究計画書に基づき、調査を実際に行い、データを収集することができる。	6.看護理論の検証
3. 研究の目的にそってデータ分析を適切に実施できる。	7.国際性、学際性の探求
4. 研究の目的にそって結果を考察し、論文を全体にまとめることができる。	8.専門職人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
複数回	1. 関連文献の検索	演習	各担当教員	1. 文献検索を行い、リサーチクエスチョンを明確にする	
	2. テーマの決定			2. 文献検索から導かれた適切なテーマを探求する	
	3. 研究計画書の作成 〔問題とその重要性と背景、目標、結果の予測、方法、作業計画、設備〕			3. 研究計画書の準備を行う。	
	4. データ収集			4. データ収集のための準備を行う。	
	5. 集計　まとめ			5. 量的分析または質的分析の方法を取得する。	
	6. 研究論文の作成			6. 論文完成に必要な資料を整理し、論文作成の準備を行う。	

成績評価方法・基準	特別研究論文審査
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください 論文作成のプロセスについては、本便覧の「修士論文提出手続き」「修士論文審査及び最終試験」の項を参照。

開設科目名	APN（Advanced Practice Nursing）研究A	科目コード	MNSA534	開設期	1年後期
単位数（履修区分）	2単位（自由）	時間数	45時間	授業区分	講義・演習
責任者	矢野正子	担当者	矢野正子、日高艶子		

授業の概要（授業の目的）

APN研究Aは、わが国における高度実践看護のあり方を検討するために、米国のAPNの制度、法律事項などについて、ある州のNursing Practice Actから学ぶ。NPの業務範囲（Scope of Practice）と資格制度や診療報酬などの医療制度との関係、特に医師とのコラボレーションやスーパービジョン、医師との間でのアグリーメント、プロトコールなどの考え方や実際例について、講義と演習により学ぶ。
これらの学習からわが国におけるAPNを展望するために検討すべき具体的課題を見いだし、考察する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．米国カルフォルニア州の看護業務法Nursing Practice Actから、CNS、NP、NM、CRNAの法的位置づけを理解できる	7国際性・学際性の探求
2．医療関係職種におけるAPNの役割を理解できる	4看護の質向上への貢献 8専門職業人としての発展
3．APNの役割と機能を、制度面での3Pの強化の取り組みを含め理解できる	7国際性・学際性の探求 8専門職業人としての発展
4．ANPの活動内容を関連文献から探し、発表できる（例：AANP、NR）	2倫理の本質を捉えた実践 7国際性・学際性の探求
5．他の州についても看護業務法の内容を比較することで州による特徴を理解できる	2倫理の本質を捉えた実践 7国際性・学際性の探求

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	米国カルフォルニア州の看護業務法Nursing Practice Actを1例として取り上げ、看護職の位置づけを具体的に学ぶ。他の州についても取り上げる予定。			次回講義内容を予習し、専門用語等の意味を理解しておく	
1	米国のAPNの歴史	演習	矢野	参考資料(APNの歴史)	2時間
2	米国のAPNの概念	演習	矢野	参考資料(APNの概念)	2時間
3	米国のAPNの定義	演習	矢野	参考資料(APNの定義)	2時間
4	米国のAPNの役割の開発	演習	矢野	参考資料(APNの役割の開発)	2時間
5	APNの国際的な発展（NP、CNS、NM、CRNA）	演習	矢野	参考資料(APNの発展)	2時間
6	国際的にみたAPNの課題（医師との関係、教育レベル）	演習	矢野	教科書 chapter1	2時間
7	看護業務法（NPA）について① NPAの概要	演習	矢野	教科書 Article1(管理的側面)	2時間
8	看護業務法（NPA）について② 制度の範囲	演習	矢野	教科書Article 2(規制の範囲)	2時間
9	看護業務法（NPA）について③ 看護学校について	演習	矢野	教科書①Article4(看護学校(大学含む)について)	2時間
10	看護業務法（NPA）について④ 公衆衛生看護師について	演習	矢野	教科書①Article5・6(公衆衛生看護師)	2時間
11	看護業務法（NPA）について⑤ 看護師助産師について	演習	矢野	教科書①Article2・5(看護師助産師)	2時間
12	看護業務法（NPA）について⑥ NPについて	演習	矢野	教科書①Article8(NP)	2時間
13	看護業務法（NPA）について⑦ CNS、NMについて	演習	矢野	教科書①Article2・5・9(CNS、NM)	2時間
14	RN評議会について① RN評議会の組織	演習	矢野	教科書①Article1 chapter16(RN評議会)	2時間
15	RN評議会について② 登録と試験	演習	矢野	教科書①Article2(登録・試験)	2時間
16	RN評議会について③ 継続教育-RN免許更新	演習	矢野	教科書①Article5(継続教育・免許更新)	2時間
17	RN評議会について④ NMの基準、業務範囲、再免許	演習	矢野	教科書①Article2・5(NM、業務範囲など)	2時間
18	RN評議会について⑤ NPの基準、業務範囲、再免許	演習	矢野	教科書①Article8(NP、業務範囲など)	2時間
19	RN評議会について⑥ 公衆衛生看護師の認定、成績	演習	矢野	教科書①Article5・6(公衆衛生看護師、認定、成績)	2時間
20	RN評議会について⑦ CNSの基準、業務範囲、再免許	演習	矢野	教科書①Article9(CNS、業務範囲)	2時間
21	RN評議会について⑧ 他州からのAPNについて	演習	矢野	教科書①Article10(他州からのAPNの認定)	2時間
22	APNの研究についての紹介	演習	矢野	参考資料(Jo AANPOなどから)	2時間
23	まとめ（APNの課題、医療政策との関係）	演習	矢野	参考資料(APNの課題、保助看法など)	2時間

成績評価方法・基準	①授業への参加状況 40%　　②課題への取り組み 60%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の模範解答を講義内に、または後日提示する ・講義中、または後日返却する
教科書	①California Nursing Practice Act with Regulations and Related Statutes, Lexis Nexis Board of Registered Nursing(2015) ②Buppert, Carolyn. Nurse Practitioner's Business Practice and Legal Guide 4th Edition (2011)
参考書・参考文献	・Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5th edition ・Hamric, A. 他(2013) ・NP のジャーナル（英文） ・看護研究 Jul-Aug, 2015
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	矢野正子（非常勤）　質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。

2年次開講科目

開設科目名	保健医療福祉政策論	科目コード	MNSB601	開設期	２年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	森山幹夫	担当者	森山幹夫、平田輝昭		

授業の概要（授業の目的）

看護が活躍する保健医療福祉の各政策において、基本原理及び構成要素である人材、施設・設備、費用の状況を把握する。その上で、保健、医療、介護、福祉、年金、労働施策など諸制度が何故でき、どのように適用され、効果はどうか、過去の制度の発達や変遷を考察して、利用者主役の視点でより良くする将来の改革策は何かを論ずる。さらに自分が能力を発揮し地域に住む個々人に合った制度を適用する手法を見つける。毎回、制度の存在意義や限界と問題点は何かまで問いながら議論を深める。単なる知識の吸収ではなく、思考方法を身につける。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１）保健医療福祉政策の基本である国民福祉の向上と人間の尊厳の２つの原理を基軸に置きながら、政策を実現するための法律や制度、システムの根本を理解し議論することができる。	３看護実践の追求 ４看護の質向上への貢献 ８専門職業人としての発展
２）ニーズが拡大している慢性病を有する者に適用される医療・介護・福祉の制度や体制について、在宅医療や連携医療、医療アウトカムなどの方向と革新的方策を議論することができる。	
３）実際に患者や利用者に適する制度やシステムについて考案し提案することができる。	
４）保健医療福祉に関するシステムや改革の動きを患者や家族に説明し、選択肢を提示できる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	保健医療福祉の基本理念	講義	森山	各制度の基本的仕組みを資料・教科書で理解	４時間
2	保健医療福祉の分野ごとの制度	講義	森山	各制度と看護師の関係を教科書で理解	４時間
3	費用負担、自己負担、税と保険料の役割分担の原理	講義	森山	保健医療福祉の構成要素である費用について、同様な方法で様々な角度から考察	４時間
4	人材育成、各種専門職種の共通原理	講義	平田	講義内容の復習	４時間
5	医療制度の各種資源配分方策 慢性病を持つ者に配分される資源とその方策	講義	平田	講義内容の復習	４時間
6	慢性病者に適用できる保健医療福祉の諸政策	講義	平田	講義内容の復習	４時間
7	医療保険始め社会保険の諸原理	講義	森山	医療保険の概要と保険原理を同様に確認	４時間
8	年金保険と所得保障	講義	森山	所得保障の全体像を厚生労働省資料で把握	４時間
9	介護保険と慢性病者、高齢者施策	講義	森山	高齢者諸施策を自治体資料で理解	４時間
10	保健医療福祉施策と財政、税との関係	講義	森山	日本の財政の現状と将来を財務省資料で理解	４時間
11	医療機能の分化、連携医療、在宅医療を支える体制と制度 医療アウトカムの方向と保健医療福祉の体制・制度の革新方策	講義	平田	講義内容の復習	４時間
12	医療や介護の諸施設運営の実際と施設運営における看護	講義	森山	施設運営の在り方を自分の施設の現状で考察	４時間
13	利用者の負担の考え方と保健医療施策との関係	講義	森山	診療報酬制度の方向と政策誘導効果を考察	４時間
14	リスク分散とマネジメントと看護の目的との関係	講義	森山	看護の目的はリスクとの戦いであり先例から考察	４時間
15	保健医療福祉と看護の将来展望	講義	森山	看護師として保健医療福祉の場でどのような看護をすべきか考察	４時間

成績評価方法・基準	①　定期試験（期末レポート）50%　　②授業内レポート 40%　③授業態度や参加度 10%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	レポートについては、以下のようにフィードバックする。 ・講義中または後日、事務局を通じて返却 ・課題の出題意図の説明を講義中に行う。場合によっては掲示等で行う。
教科書	・系統看護学講座「看護関係法令」医学書院 2020 年版 ・森山は教材として作成資料を配布
参考書・参考文献	「初めての社会保障」有斐閣 2020 年版
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	森山幹夫は非常勤であるので moriyamamikio@yahoo.co.jp にメールされたい。 制度や法律の解説ではなく、根本にある普遍的事実を学問にまで高めたい。患者や利用者のために何をすればよいかを一緒に考えていく。現実の問題について、院生から事例を持ってきてもらいともに考えていく手法も採るし、毎回、看護が直面する課題について議論していきたい。

開設科目名	研究論文（英文）クリティカル・ライティング	科目コード	MNSB602	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	講義
責任者	Eric FORTIN	担当者	Eric FORTIN、宮林郁子		

授業の概要（授業の目的）

コースの前半は論文構成、内容クリティーク、文脈理解を目的とした英文原著抄読を行い、後半では、APA フォーマットを使い、自己の研究課題に基づいて英語論文抄録を書き、査読のポイントに沿って、ピアーレビューを行うことを目的とするコースである
科学論文のクリティークが出来、自己の研究課題に基づく英文抄録の作成を目標とする。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．Understanding of APA format for writing abstracts in English.	4看護の質向上への貢献 7国際性・学際性の探求 8専門職業人としての発展
2．Understanding English punctuation and word usage.	
3. Ability to write abstracts in English.	
4. Understanding how to critique abstracts.	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	論文構成、クリティーク方法の理解①	講義	Fortin 宮林郁子	英語ジャーナルの abstract を読んで、主語・動詞・述語を確認し、同じような書き方をまねして書くこと。	4時間
2	論文構成、クリティーク方法の理解②	講義		Review abstract headings	4時間
3	英文原著論文抄読①（Background）APA format①	講義		Complete Background	4時間
4	英文原著論文抄読②（Purpose), APA format②	講義		Complete Purpose	4時間
5	英文原著論文抄読③（Method), APA format③	講義		Complete Method	4時間
6	英文原著論文抄読④（Results), APA format④	講義		Complete Results	4時間
7	英文原著論文抄読⑤（Conclusion), APA format⑤	講義		Complete Conclusion	4時間
8	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成①	講義		Prepare abstract critique	4時間
9	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成②	講義		Review PowerPoint format	4時間
10	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成③	講義		Review how to make charts/graphs	4時間
11	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成④	講義		Write first draft of abstract	4時間
12	自己の研究課題にもとづく英語論文抄録の作成⑤	講義		Write final draft of abstract	4時間
13	ピアーレビュー① Practice	講義		Prepare for presentation	4時間
14	ピアーレビュー② Practice	講義		Prepare for presentation	4時間
15	ピアーレビュー③ Final presentation	講義			

成績評価方法・基準	授業中の課題: 20%　プレゼンテーション: 40%　英語論文抄録: 40%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の批評・アドバイス ・プレゼンテーションの批評・アドバイス
教科書	教員のプリント
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	Eric Fortin（6号館 2F L621 研究室）、オフィスアワー:水曜日 16:30～17:30

開設科目名	療養支援慢性看護学演習ＩＢ(２)	科目コード	MNSA601	開設期	２年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	６０時間	授業区分	演習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、崎田マユミ、酒井輝文、今村豊、福田賢治、福嶌由尚、田代英樹、中野輝明、東治道、佐藤雄一、坂西雄大、他		

授業の概要（授業の目的）

第１回～17 回ではペーパーペーシェントや模擬患者を用いて症状別マネジメントのためのフィジカルアセスメントを実施する。第 18 回～29 回は実際に病院で医師や専門看護師のクリニカルラウンドに同行し、Subspecialty としての必要な検査、薬物療法、必要な処置を習得する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．「臨床病態生理学」、「ライフスパンフィジカルアセスメント」で学んだ知識・技術を基盤とし、ペーパーペーシェントや模擬患者を通して症状別マネジメントのためのアセスメント技術を習得する。 ２．医師や専門館後のクリニカルラウンドに同行し、患者に必要な検査、薬物療法および処置を学び高度実践看護としての望ましい対応を習得する。	３．看護実践の追及、４．看護の質向上への貢献 ８．専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	ケーススタディ①胸痛	演習	田代	胸痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
2	ケーススタディ②呼吸困難	演習		呼吸困難の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
3	ケーススタディ③腹痛	演習	酒井	腹痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
4	ケーススタディ④頭痛	演習	福嶌	頭痛の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
5	ケーススタディ⑤発熱	演習	中野	発熱の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
6	ケーススタディ⑥意識障害	演習	福田	意識障害の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
7	ケーススタディ⑦めまい	演習	福田	めまいの定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
8	ケーススタディ⑧筋力低下	演習	中野	筋力低下の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
9	ケーススタディ⑨咳嗽	演習		咳嗽の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
10	ケーススタディ⑩悪心、嘔吐、下痢	演習	酒井	悪心、嘔吐、下痢の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
11	ケーススタディ⑪感覚低下、しびれ	演習	佐藤	感覚低下、しびれの定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
12	ケーススタディ⑫浮腫	演習	東	浮腫の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
13	ケーススタディ⑬全身倦怠感	演習	酒井	全身倦怠感の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
14	ケーススタディ⑭貧血	演習	今村	貧血の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
15	ケーススタディ ⑮動悸・脈拍異状	演習	田代	動悸・脈拍異常の定義・症候から原因疾患、診断の進め方について予習し講義に臨む。	１時間
16	ケーススタディ⑯出血傾向	演習	今村	出血傾向の定義・症候から原因疾患、診断の進め方等について予習し講義に臨む。	１時間
17	ケーススタディ⑰脱水	演習	東	脱水の定義・症候から原因疾患、診断の進め方等について予習し講義に臨む。	１時間
18 ～ 29	クリニカルラウンド（循環器・呼吸器・消化器（腸）・消化器（肝/胆/膵臓）・脳神経・内分泌代謝・血液・膠原病）	演習	各 担当者	クリニカルラウンド実施後に、レポートを作成する。	１時間
30	ケーススタディ（統合）	演習	坂西 日高		１時間

成績評価方法・基準	レポート（70%）、授業への参加状況（30%）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは、後日返却します。
教科書	ライフスパンフィジカルアセスメント、臨床病態生理学、臨床薬理学で使用したテキスト
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子：７号館３階、731 研究室、オフィスアワー：金曜日 16：30～17：30

開設科目名	療養支援慢性看護学実習Ⅱ	科目コード	MNSA602	開設期	2年通年
単位数（履修区分）	4単位（選択）	時間数	180時間	授業区分	実習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、崎田マユミ (実習施設指導者：福田賢治、福嶌由尚、田代英樹、吉村綾子、安永恵、佐藤友紀他)		

授業の概要（授業の目的）

実習Ⅱでは、慢性疾患を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養うために、慢性病の発症・悪化予防と長期管理に必要とされる基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について医師や薬剤師、専門看護師、担当教員の指導の下に実習する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．慢性疾患を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養う。	3．看護実践の追求、4．看護の質向上への貢献、6．看護理論の検証、8．専門職業人としての発展
2．基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について理解する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	実習Ⅱは、実習Ⅰを終了した学生に対して2年次前期～2年次後期に実施する。	実習	各指導教員		
	対象とする患者は、慢性疾患の中でも、呼吸器疾患、脳血管障害、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患を持つものとする。				
	学生は、各自の関心領域（Subspecialty）を中心に、授業目標に提示されている専門看護師に必要とされる基本的な医学的評価や判断に基づく薬物療法、医療処置管理について学ぶための実習計画書を、実習要領に基づき作成し提出する。				
	患者の薬物療法や医療処置管理についてレポートを提出し、医師、薬剤師、専門看護師、看護師長、担当教員とカンファレンスを持ち検討する。 ・患者に適した薬剤投与方法、薬理作用・副作用と管理、アドヒアランス ・患者の状態と処置内容、医療処置の効果（身体的効果、生活上の効果） ・検査や診察と医療処置の実際 ・長期の薬物療法と医療処置の特徴と問題点 詳細は、実習要項参照				
	実習場所：聖マリア病院（病棟、外来、地域医療連携室）、聖マリアヘルスケアセンター、誠愛リハビリテーション病院、国立病院機構福岡病院、九州労災病院他				

成績評価方法・基準	レポート70%、実習への取り組み状況（カンファレンス参加度、臨床指導者評価など）30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは後日返却します。
教科書	・Lynn S.Bickley 著、福井次矢、井部俊子監修：Bates' Guide to Physical Examination and History Taking.
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子：7号館3階731研究室 オフィスアワー：金曜日16：30－17：30

開設科目名	療養支援慢性看護学実習Ⅲ	科目コード	MNSA603	開設期	2年通年
単位数（履修区分）	3単位（選択）	時間数	135時間	授業区分	実習
責任者	日高艶子	担当者	日高艶子、﨑田マユミ （実習施設指導者：田代英樹、井林雪郎、中村真紀、吉村綾子、安永恵、佐藤友紀他）		

授業の概要（授業の目的）

実習Ⅲでは、慢性疾患を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養うために、患者や家族のセルフケアの再構築に必要となる他職種や他部署、地域の関連施設との調整やマネジメント能力についてケアチームメンバー、専門看護師、看護師長、医師、担当教員の指導のもとに実習する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．慢性疾患を病む人々と家族に対して、専門看護師として高度な看護実践を提供できる能力を養う。	3．看護実践の探求、4．看護の質向上への貢献、8．専門職業人としての発展
2．患者や家族のセルフケアの再構築に必要となる他職種や他部署、地域の関連施設との調整やマネジメント能力について実践を通して修得する。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1. 実習Ⅲは、実習Ⅰ、実習Ⅱが終了した学生に対して2年次前期～後期に実施する。2. 対象とする患者は、慢性疾患の中でも糖尿病、呼吸器疾患、脳血管障害、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患をもつ者とする。 2. 学生は、各自の関心領域（subspecialty）を中心に、授業目標に提示されている患者や家族のセルフケアの再構築に必要となる他職種や他部署、地域の関連施設との調整やマネジメント能力を学ぶために実習計画書を実習要領に基づき作成し提出する。 3. 患者と家族のケア、組織のアセスメントについては、レポートを提出しケアチームメンバー、専門看護師、看護師長、医師、担当教員とカンファレンスを持ち検討する。 4.実習場所： 聖マリア病院（病棟、外来、地域医療連携室、地域医療支援センターなど）、聖マリアヘルスケアセンター、誠愛リハビリテーション病院（病棟、外来、福祉部）、国立病院機構福岡病院（病棟、外来、患者教室、連携室など）他、連携先の診療所、かかりつけ医、訪問看護ステーション	実習	各担当教員	毎年発行される「日本看護協会WEBのCNS審査規程」に目を通しておくこと	

成績評価方法・基準	(1)レポート70%、(2)実習への取り組み状況（カンファレンス参加度、臨床指導者評価など）30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	提出されたレポートは後日返却します。
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	日高艶子（7号館3階731研究室 オフィスアワー：金曜日16：30－17：30

開設科目名	MCH(周産期・母子)看護学特論Ⅲ	科目コード	MNSA604	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	60時間	授業区分	講義・演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、野口ゆかり、川上桂子、秦野環、中田稔？ 有森直子他		

授業の概要（授業の目的）

特定の周産期看護ケアを必要とする妊産褥婦と胎児・新生児および家族に対して、対象のニーズに即したケアの立案と実践について、対象のQOLを高める実践の評価・検討を行い、家族の安寧をもたらす質の高い高度実践看護のあり方、ケアについて探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．建学の精神とリプロダクティブ・ヘルス＆ライツの視点から、看護専門職者としての役割と責務を理解し、自らの専門職者としてのあり方を考察できる。また特に、リプロダクティブ・ヘルスにおける倫理的課題と、そこで求められる看護専門職者の役割と責務について考察できる。 2．特定のケアニーズ有する周産期事例について、エビデンスを活用しながら、事例へのケアの立案と実践について、対象のQOLを高めるという視点から評価・検討を行うことができる。 3．家族の安寧をもたらす質の高い高度実践看護のあり方、ケアについて考察できる。	◎3）看護実践の追求、4）高度実践看護師 ◎5）看護理論の活用、6）看護理論の検証 ◎8）看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	科目ガイダンス	講義	桃井	予習： 事前課題に各自で取り組み授業に参加する。 復習： 授業内容を受けて、自らの関心に沿ってさらにリソース探索を行うとともに、ケアについて考察を深める	4時間
2	リプロダクティブ・ヘルスにおける看護専門職者の役割と責務				4時間
3	妊孕性に関するケアニーズを有する女性と家族へのケア	講義討論	桃井		4時間
4					4時間
5	ヒト遺伝学の基礎：遺伝子と染色体、遺伝と環境	講義	中田？		4時間
6					4時間
7					4時間
8	遺伝に関するケアニーズを有する女性と家族へのケア	講義討論	有森		4時間
9					4時間
10					4時間
11	身体的リスクを有する妊産褥婦と家族へのケア	講義討論	野口		4時間
12					4時間
13	心理的・社会的リスクのある妊産褥婦と家族へのケア	講義討論	峰原		4時間
14					4時間
15	育児に関するケアニーズを有する親と家族へのケア① プライマル・ヘルスに基づくケアの原理に焦点を充てる	講義討論	浅野		4時間
16					4時間
17	育児に関するケアニーズを有する親と家族へのケア② プライマル・ヘルスに基づくケアニーズを考える	講義討論	浅野		4時間
18					4時間
19	周産期におけるDomestic Violenceに関するケアニーズを有する家族へのケア	講義討論	川上		4時間
20					4時間
21	Child abuseリスクのある家族へのケア	講義討論	野口		4時間
22					4時間
23	在日外国人の妊産褥婦と家族へのケア	講義討論	秦野		4時間
24					4時間
25	周産期における喪失（ペリネイタル・ロス）に関するケアニーズを有する親・家族へのケア	講義討論	桃井		4時間
26					4時間
27	周産期における特別なケアニーズを有する母子と家族へのケア① （履修者の関心に沿ったケース・スタディ）	発表討論	桃井他		4時間
28					4時間
29	周産期における特別なケアニーズを有する母子と家族へのケア② （履修者の関心に沿ったケース・スタディ）	発表討論	桃井他		4時間
30					4時間

成績評価方法・基準	①　授業・演習への取り組み状況（60%）：事前の準備、授業・演習への参加状況 ②　レポート（40%）＊レポートのテーマは授業最終回に提示します。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	フィードバックは講義内、又は個別に時間を取り行います。

教科書	必要に応じて、適宜提示いたします。
参考書・参考文献	必要に応じて、適宜提示いたします。
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談 メッセージ・その他	＊オフィスアワー：水曜日　16:30~18:00　　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	PIC（周産期集中ケア）特論Ⅲ	科目コード	MNSA605	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	2単位（選択）	時間数	30時間	授業区分	演習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、川上桂子 他		

授業の概要（授業の目的）

母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム、周産期医療の提供体制（院内助産システム、周産期における医療安全を含む）、周産期における看護・助産業務管理、社会参画の方法、周産期医療ネットワークの構築、政策立案、周産期看護における上級実践看護者としての専門看護師(CNS)の役割と実践活動、看護職の自律と裁量権の拡大等、周産期医療における今日的な課題について、臨床における実例をもとに学び、探究する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム、周産期医療の提供体制について理解できる。	◎3）看護実践の追求 ◎4）高度実践看護師 5）看護理論の活用 6）看護理論の検証 8）看護学の検証と発展
2．周産期における看護・助産業務管理、社会参画の方法、周産期医療ネットワークの構築、政策立案について理解できる。	
3．周産期看護における上級実践看護者としての専門看護師の役割と実践活動、看護職の自律と裁量権の拡大について理解できる。	
4．周産期医療における今日的な課題について、専門看護師としての役割と具体的な実践について考察することができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1	周産期医療提供体制における課題（総論）	講義・討議	桃井	予習： 事前に提示された文献等で授業内容に該当する箇所に目を通し、これまでの自身の経験と照らし合わせ、授業のテーマに関する自己の見解をもって授業に参加してください。 復習： ・授業で配布された文献・資料等を見直すと共に、自らの関心に沿ってリソース探索を行い、さらに理解を深めてください。 ・各回の演習を受けて、専門看護として取り組むべき課題と役割、また具体的な実践について考察してください。	到達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。
2	周産期医療におけるﾌﾟﾗｲﾏﾘｰｹｱの現状と課題	講義・討議	桃井		
3	看護職の自律と裁量権の拡大	講義・討議	桃井		
4	助産師の業務拡大と自律	講義・討議	桃井		
5	周産期における専門看護師の役割と実践	講義・討議	桃井		
6	周産期における専門看護師の役割　＊課題学習	講義・発表・討議	桃井		
7	母子・家族への継続支援と地域における子育て支援システム	講義・討議	桃井		
8	看護政策の課題と看護政策立案	講義・討議	桃井		
9	看護職の社会参画	講義・討議	桃井		
10	周産期医療における質と安全の保障① 周産期における医療安全とリスクマネジメント	講義・討議	桃井		
11	周産期医療における質と安全の保障② 周産期医療における質の保証と看護 周産期の上級実践看護に期待されるもの	講義・発表・討議	桃井		
12	周産期における看護・助産業務管理 周産期医療提供体制における助産管理と課題	講義・討議	川上		
13	周産期医療ネットワークの構築と課題	講義・討議	川上		
14	周産期医療と災害看護	講義・討議	川上		
15	まとめ	講義・発表・討議	桃井 川上		

成績評価方法・基準	①　演習への取り組み状況（40%）：事前の準備、演習への参加状況 ②　レポート（60%）＊レポートのテーマは、第6回の授業中に提示いたします。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	＊フィードバックはレポート返却時に行います。
教科書、	必要に応じて、適宜提示いたします。
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談メッセージ	桃井雅子　＊オフィスアワー：水曜日　16:30~18:00　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	MCH 看護学特論実習Ⅱ	科目コード	MNSA606	開設期	2年通年
単位数（履修区分）	5単位（選択）	時間数	225時間	授業区分	実習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、川上桂子 他		

授業の概要（授業の目的）

【実習 2nd レベル】 CNS 役割実習

周産期に発生する緊急事態への対応、特定の周産期ケアを必要とする妊産褥婦・胎児・新生児および家族への看護、倫理的調整が必要な事例へのケア、看護スタッフへの相談・教育、他職種との連携、調整の役割について、高度看護実践活動を行うことを通して学修する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．MCH（周産期・母子）看護学領域の専門科目で学習したことを基礎として周産期にある対象や家族の状況に即した質の高い看護実践活動を行うための周産期看護の専門看護師として、高度なアセスメント能力と実践能力を養うことができる。	◎1）全人的ケアの探求 ◎2）倫理原理の修得 ◎3）看護実践の追求
2．ケアの質の向上を目指し、専門看護師としての役割を果たすために、自律的に活動する能力を自らの中に統合できる。	4）高度実践看護師　5）看護理論の活用 6）看護理論の検証　8）看護学の検証と発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	実習内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	専門看護師の役割と機能を果たすために、実習Ⅰに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自立して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネイトして実習を進める。 (1) 周産期高度集中ケアを必要とするハイリスクケースに対し、（包括指示による一部医行為を含む）高度看護実践を行う。 <母体例> 転送、搬送ケースなど緊急対応の必要な事例、合併症、精神疾患、複雑な心理的問題、複雑な家族問題を有する事例 <新生児例> 転送、搬送ケースなど緊急対応の必要な事例 呼吸・体温・水分・栄養・管理など高度周産期医療・ケアが必要な新生児、複雑な心理的問題、複雑な家族問題を有する事例 その他、早産児、低出生体重児、先天異常 等 (2) 心理・社会的に複雑な問題を抱える妊産褥婦に対し、妊娠・分娩・産褥経過の正常性を維持するための予防的ケア（包括指示による一部医行為を含む）と共に、心理・社会的な側面に対する上級看護実践のスキルを獲得する。 (3) 看護スタッフおよび他部門・他施設、地域と連携し、調整機能を果たす。 (4) 高度看護実践を行いつつ、事例のもつ状況により、倫理調整の機能を果たす。 (5) 実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへ参加し、必要に応じて、周産期看護の質の確保・向上に向けての取り組みについて相談・教育機能を果たす。 ※詳細は実習要項参照	実習	桃井 浅野 川上他	実習要項を熟読し、実習の目的・目標・内容、留意事項について十分理解した上で、自身の実習計画を立案し、実習施設との調整等、主体的に実習準備を行ってください。	達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。

成績評価方法・基準	実践場面の評価：60%、レポート：40% ＊各自の関心領域を中心に、各期の実習目標に適合した事例を選択して実習する。適宜、実習施設と協働したケース・カンファレンスを行い、終了時には事例発表としてのﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝまたは、課題レポートとしてまとめる。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	＊フィードバックは実習中（随時）および実習後のレポート返却時に行います。
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	桃井雅子　＊オフィスアワー：水曜日 16:30~18:00　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	MCH 看護学特論実習Ⅲ	科目コード	MNSA607	開設期	2年通年
単位数（履修区分）	3単位（選択）	時間数	135時間	授業区分	実習
責任者	桃井雅子	担当者	桃井雅子、浅野美智留、川上桂子 他		

授業の概要（授業の目的）

【実習 3rd レベル】　役割開発実習

専門看護師の役割と機能を果たすために、実習Ⅰ・Ⅱに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自律して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネイトして実習を進める。

看護実践活動の中から、ケアの変革、新たな周産期医療システム構築につながる方策を探求する。また複雑な問題を有する事例を受け持ち、事例を通して新しいケアの開発や看護実践の改善の試みを行い、研究プロセスに準じた探索的アプローチを実践する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．周産期にある母子・家族の状況に即したＱＯＬを高めるための周産期看護専門看護師の実践活動について、評価・検討ができる。	◎1）全人的ケアの探求 ◎2）倫理原理の修得 ◎3）看護実践の追求 4）高度実践看護師 5）看護理論の活用、 6）看護理論の検証 8）看護学の検証と発展
2．家族の安寧をもたらすケアの探究と社会システムを構築するために、研究手法を用いて探究活動を行うことができる。	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	実習内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	専門看護師の役割と機能を果たすために、実習Ⅰ・Ⅱに引き続き、実習目標が達成できるよう、担当教員、実習指導者と協議しながら自律して実習計画を立案し、自らが実習環境をコーディネイトして実習を進める。 看護実践活動の中から、ケアの変革、新たな周産期医療システム構築につながる方策を探求する。また複雑な問題を有する事例を受け持ち、事例を通して新しいケアの開発や看護実践の改善の試みを行い、研究プロセスに準じた探索的アプローチを実践してレポートにまとめる。 （1）周産期高度集中ケアを必要とするハイリスクケースに対し、（包括指示による一部医行為を含む）高度看護実践を行う。 母体例：転送・搬送ケースなど緊急対応の必要な事例、合併症・精神疾患・複雑な心理的問題や家族問題を有する事例 新生児例：転送・搬送ケースなど緊急対応の必要な事例 呼吸・体温・水分・栄養・管理など、高度周産期医療・ケアが必要な新生児、複雑な心理的問題や家族問題を有する事例（早産児、低出生体重児、先天異常など） （2）心理・社会的に複雑な問題を抱える妊産褥婦に対し、妊娠・分娩・産褥経過の正常性を維持するための予防的ケア（包括指示による一部医行為を含む）とともに、心理・社会的な側面に対する上級看護実践のスキルを獲得する。 （3）看護スタッフおよび他部門・他施設、地域と連携し、調整機能を果たす。 （4）高度看護実践を行いつつ、事例のもつ状況により、倫理調整の機能を果たす。 （5）実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへ参加し、必要に応じて、周産期看護の質の確保・向上に向けての取り組みについて相談・教育機能を果たす。 （6）上記の実践活動を発展させ、上級実践看護を実践する CNS の役割として開発していくかを探求し、課題研究にまとめる。 ※詳細は実習要項参照	実習	桃井 浅野 川上他	実習要項を熟読し、実習の目的・目標・内容、留意事項について十分理解した上で、自身の実習計画を立案し、実習施設との調整等、主体的に実習準備を行ってください。	達目標に向けて自身が必要とする時間数を判断し、確保して下さい。

成績評価方法・基準	実践場面の評価：60%、レポート：40%　＊課題研究は別に評価します。
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	＊フィードバックは実習中（随時）および実習後のレポート返却時に行います。
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談	桃井雅子　＊オフィスアワー：水曜日 16:30~18:00　＊学習相談：随時受け付けます。

開設科目名	リーダーシップ・コンサルテーション論	科目コード	MNSA608	開設期	２年前期
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	３０時間	授業区分	講義
責任者	近末清美	担当者	矢野正子、近末清美		

授業の概要（授業の目的）

リーダーシップの基本、リーダーシップの理論的背景、リーダーシップを発揮する方法、変革の時代に求められる「リーダーシップ、サーバントリーダーシップなどを具体例を交えて学び、リーダーシップ理論のまとめとしてマネジャーの役割と仕事を学ぶ。リーダーシップはただ理論を知っているだけでは何ら意味がなく、いかに実践に活かせるかが重要である。リーダーシップの前提としてマネジメントがあるが、マメジメントは当初は企業を対象としていたが、現在は公的組織、教育機関、病院、０NPOなど、さまざまな組織で必要となっている。マネジャーの役割として重要なのがマネジャーのリーダーシップである。リーダーシップには諸理論があることから、それらの理論を学び、以下に実践に活かせるかを考える。
コンサルテーションは、援助関係を築くことであり、いかに支援的になれるかの技術である。コンサルテーションによって組織はさまざまなプロセスを経ながらその開発や運営にさまざまな影響を受ける。そこでコンサルテーションのプロセスにより、援助者(コンサルタント)とその被援助者(クライエント)の事例の分析・評価を試みる。続いて高度実践看護師におけるコンサルテーションの適応と実際ににについて学ぶ。（1－7回リーダーシップ、8―14回コンサルテーション、15回まとめ）

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．リーダーシップの基本・コンサルテーションの基本－定義と概念について理解できる	３看護実践の追求 ◎４看護の質向上への貢献 ８専門職業人としての発展
2．リーダーシップスタイルを知り、その特徴を理解できる	
3．マネジャーの役割と行動を理解できる	
4．援助関係の心理力動を理解できる	
5．集団・個人へのプロセス介入を理解できる	
6．高度実践看護師に必要なコンサルテーションについて理解できる	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
1 2	１リーダーシップ論 ①リーダーシップの基本―定義と概念 ②リーダーシップとマネジメントとの関係	講義	矢野	教科書① 16－27ページ 教科書① ２８－42ページ	４時間
3	２リーダーシップの基本、リーダーシップスタイル ③官僚制組織とカリスマ：合法的支配、伝統的支配、カリスマ的支配(マックスウェーバー)	講義	矢野	教科書① 43－68ページ	４時間
4	④リーダーシップ行動特性論、ＰＭ行動理論：三隅二不二(九大)、オハイオ州立大学の研究	講義	矢野	教科書① 69－90ページ	４時間
5	⑤変革の時代に求められるリーダーシップ：ウオレンベニス(アメリカの経営学者・教授)	講義	矢野	教科書① 91－120ページ	４時間
6	⑥サーバントリーダーシップ：ロバートＫグリーンリーフ(アメリカの経営学者・教授)	講義	矢野	教科書① 121－146ページ	４時間
7	３マネジャー ⑦マネジャーの役割と仕事：ヘンリーミンツバーグ(アメリカの経営学者・教授)	講義	矢野	教科書① 147－173ページ	４時間
8	４プロセスコンサルテーションの定義 ①プロセスコンサルテーションの定義、クライアントの概念	講義	近末	教科書②第Ⅰ部第１・４章	４時間
9	②援助関係における心理力動(サイコダイナミックス)	講義	近末	教科書②第１部２・３章	４時間
10	５隠れたプロセスを読み取ること ③対面関係のダイナミックス、相互作用とコミュニケーション	講義	近末	教科書②第Ⅱ部第５・６章	４時間
11	６学習サービスの提供における介入 ④コミュニケーションと計画的なフィードバック	講義	近末	教科書②第Ⅲ部第７章	４時間
12	⑤促進的なプロセス介入：集団における課題プロセス、個人間のプロセス、対話	講義	近末	教科書②第Ⅲ部第８・９・10章	４時間
13	７プロセスコンサルテーションの実際 ⑥プロセスコンサルテーションの実際	講義	近末	教科書②第Ⅳ部第11章	４時間
14	⑦高度実践看護師(CNS)が実施するコンサルテーション	講義	近末	他の医療・教育機関などの例を参考に検討する	４時間
15	８リーダーシップ理論・コンサルテーション理論のまとめ展望	講義	近末	教科書①教科書②第Ⅳ部第12章などを参考にする	４時間

成績評価方法・基準	① クラスワーク・発表 50%　②課題レポート 50%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の模範解答を講義内に、または後日提示する　　・講義中、または後日返却する
教科書	① 小野善生(2013)：リーダーシップ理論―集中講義―、日本実業出版社 ② Edger H. シャイン(2002)：プロセスコンサルテーション―援助関係を築くこと、稲葉他訳、白桃書房
参考書・参考文献	リーダーシップ関連参考書 ・ジョン G マクスウエル.弓場隆訳(1999/2013)：人の上に立つ」ため本当に大切なこと、ダイアモンド社 ・ケレア・フェイガン(2002)：フェイガンリーダーシップ論、日本看護協会出版会 ・ Eleanor J. Sullivan(2012)： Effective Leadership and Management in nursing ・Ann B. Harmic, Charlene M. Hanson(2014)：Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, ELESVIER 5 th ed. コンサルテーション関連参考書 ・看護管理学 学習テキスト改訂第３版（全８巻・別巻） 日本看護協会出版会 2019 年４月刊行予定 ・Ann B. Harmic 上に記載のものと同じ
ｵﾌｨｽｱﾜｰ・学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ・その他	近末 清美 オフィスアワー：水曜日 16:30～17:30 学習相談：随時受け付けます

開設科目名	ＡＰＮ（Advanced Practice Nursing）研究Ｂ	科目コード	MNSA610	開設期	２年前期
単位数（履修区分）	２単位（自由）	時間数	４５時間	授業区分	講義・演習
責任者	矢野正子	担当者	矢野正子、日高艶子		

授業の概要（授業の目的）

APN研究Ｂの内容は、APNのうちNPを中心に学修する。米国NPの高度実践看護については、連邦政府、州レベルでの法規制が各州で明確になされている。特に、診断、検査、薬剤の処方、病院への患者の入院、保護、他の専門家への紹介など、法令に基づく行為の範囲が定められている。また NP による実践看護のためのケア基準やNPの業務効果の測定方法の開発についての研究もあり、NPの職能団体からはNPのコンピテンシーやドメインについての考え方が明示されている。これら業務を中心とした学びからわが国の高度看護実践のあり方を展望する

APN 研究Ｂでは、高度実践看護に関する文献から、その実践の量・質などについて実証的な研究例を解読する。高度実践看護について、専門のジャーナルをはじめ関連する資料から、医師とのコラボレーションやスーパービジョンに関連する実践研究、事例報告、専門職能組織機関からの報告書などを講読し、NP のケア基準、NP 実践の測定、メディケア・メディケイドの仕組みなどその実際的な活動状況、プロフェッションとしての評価や現在の動向などを政策、費用対効果の経済分析などを含め多面的に学ぶ。また、わが国の特定行為研修制度についてもその修了者による業務の実際を学び、看護実践の将来展望についてその方向性を見る力を養う。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
１．米国の NP の活動実態について、主として業務を中心に総合的な知識を得ることができる	３看護実践の追求７国際性・学際性の探求８専門職業人としての発展
２．米国の連邦政府の NP に対する政策と、各州での政策について、その実態を知ることができる	
３．NP の実践について、NP の報告から学ぶことができる。NP として活動している日本人 Nr の報告内容を理解できる。	７国際性・学際性の探求８専門職業人としての発展
４．NP の実績について、NP の看護報告から学ぶことができる	
５．わが国の特定行為研修制度について、その誕生の経緯や修了者の活動を知り、その看護実践を理解できる	８専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	米国の APN に関する文献から、NP が行う業務内容を理解し、NP の実践とその考え方などを学ぶ			次回の講義内容を予習し、専門用語などの意味を理解しておく	
1	米国における NP の歴史	講義	矢野	教科書①chapter1(NP の法側面での歴史)	１時間
2	連邦政府の NP に対する規制。メディケイド、メディケアとの関係	講義	矢野	教科書①chapter9(NP とメディケア、メディケイド)	２時間
3	NP の薬剤処方について	講義	矢野	教科書①chapter5(NP による薬剤の処方)	２時間
4	Hospital Privileges についての考え方	講義	矢野	教科書①chapter6(入院について)	２時間
5	Negligence や Malpractice について	講義	矢野	教科書①chapter7(怠慢、医療ミス)	２時間
6	Risk Management について	講義	矢野	教科書①chapter8(看護管理)	２時間
7	NP に対する診療報酬の考え方	講義	矢野	参考資料(ビジネスプランと診療報酬)	２時間
8	米国で活躍する日本人 NP の活動について① ML 氏	演習	矢野	参考資料(ML 氏、小児精神専門、ワシントン)	２時間
9	米国で活躍する日本人 NP の活動について② SO 氏	演習	矢野	参考資料(SO 氏、成人、コネチカット州)	２時間
10	米国で活躍する日本人 NP の活動について③ ME 氏	演習	矢野	参考資料(ME 氏、小児、テネシー州)	２時間
11	NP 専門誌からの講読① Clinic での活動・業績	演習	矢野	参考資料(Clinic)	２時間
12	NP 専門誌からの講読② Health Center での活動・業績	演習	矢野	参考資料(Health Center)	２時間
13	NP 専門誌からの講読③ 病院での活動・業績	演習	矢野	参考資料(病院)	２時間
14	NP 専門誌からの講読④ Nursery Home での活動・業績	演習	矢野	参考資料(Nursery Home)	２時間
15	NP 専門誌からの講読⑤ その他	演習	矢野	参考資料(Hospital)	２時間
16	NP のビジネスや法的側面について①ビジネスとしての NP	講義	矢野	教科書①chapter2(業務と法)	２時間
17	NP のビジネスや法的側面について②ビジネスと法との関係 わが国の特定行為研修制度との関連・比較	講義	矢野	教科書①chapter3・4・12(州、連邦政府による規制、関係する法)	２時間
18	特定行為研修修了者の活動① 外来	演習	矢野	参考資料(外来)	２時間
19	特定行為研修修了者の活動② 訪問看護	演習	矢野	参考資料(訪問看護ステーション)	２時間
20	特定行為研修修了者の活動③ 高齢者施設など	演習	矢野	参考資料(高齢者施設)	２時間
21	特定行為研修修了者の活動④ その他	演習	矢野	参考資料(Ope 室、病院)	２時間
22	まとめ① 米国の実際と今後の課題	講義	矢野	参考資料(例 NP の挑戦)	２時間
23	まとめ② わが国の実際と今後の課題	講義	矢野	参考資料(新たな発展を目指して)	２時間

開設科目名	国際看護学フィールドスタディ	科目コード	MNSA609	開設期	2年前期
単位数（履修区分）	4単位（選択）	時間数	120時間	授業区分	実習
責任者	秦野環	担当者	秦野環		

授業の概要（授業の目的）

学生が焦点化したグローバル・ヘルスの課題をもつ国、地域あるいは外国のみならず国内において実施されている国際看護協力活動などに参加し、プロジェクトなどの立案、計画、実施、評価までの一連の活動を経験する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1．フィールド対象国の政治・社会・経済・歴史・文化的な背景を説明できる	1全人的ケアの探求、 3看護実践の追求、 7国際性・学際性の探求、 8専門職業人としての発展
2．フィールド対象国の保健医療の現状を説明できる	
3．フィールド対象国における健康問題と看護の課題を考えることができる	
4．フィールド対象国における実践可能な看護活動を考えることができる	
5．フィールド対象国において効果的な実習ができるよう言語的コミュニケーション手段を習得する	

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1、 聖マリア学院大学が属する聖マリアグループを中心とした関連機関、施設における実習 2、 専攻学生の研究テーマに合致した国、地域における実習 フィールドスタディ予定 ＊ 事前学習（7.5時間×2日、15時間） ＊ フィールドでの活動（90時間） ① フィールド 1 を選択した場合；例として、特定非営利活動法人ISAPH (International Support and Partnership for Health) が行う住民参加型地域保健向上活動 （ラオスカムアン県母子保健プロジェクト）に参加する場合 ・ ラオス人民民主共和国の保健医療システム（国、県、郡）について ・ ラオス人民民主共和国保健省の母子保健対策について ・ ラオス人民民主共和国の医療施設見学 国立ビエンチャン病院（首都におけるリファラル施設）、県病院、郡病院、村落における保健医療施設訪問 ・ ISAPHの活動地域の視察（カムアン県） ② フィールド 2 を選択した場合においては、当該国において上記活動、研究テーマにのっとったフィールドワークを行う。 事後学習、まとめ（7.5時間×2日、15時間）	実習	秦野	選択したフィールド対象国に関し、インターネットを活用し、十分な情報収集を行い実習計画書を作成する	

成績評価方法・基準	評価方法 レポート70%、 実習への取り組み 30%
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	1、 実習中に、メールなどを活用し適宜連絡を取り合い、指導やフィードバックを行う。 2、 実習終了後には全体的な報告と最終レポートに対し、フィードバックを行う。
教科書	適宜配布する
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 メッセージ その他	秦野環 （2号館一階、214研究室） hatano@st-mary.ac.jp 基本的には、事前にメールでアポイントメントをとることを要件とし、いつでも学修に対する支援を行う。

成績評価方法・基準	①授業への参加（50%）　②課題への取り組み（50%）
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	・課題の模範解答を講義内に、または後日提示 ・講義中、または後日返却する
教科書	①Buppert, Carolyn, Nurse Practitioner's Business Practice and Legal Guide (4th ed, 2011)
参考書・参考文献	・Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5th edition, Hamric, A. 他(2013) ・NP のジャーナル（英文） ・American Jornal NP ・平成 24 年度　日本私立看護系大学協会　米国におけるナースプラクティショナーの教育・実践・研究の実際 ・看護研究 Jul-Aug 2015
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ	矢野正子（非常勤）　質問、相談等には、授業終了後、教室にて受け付けます。

開設科目名	課題研究	科目コード	MNSA532	開設期	１年後期～２年通年
単位数（履修区分）	２単位（選択）	時間数	６０時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		

授業の概要（授業の目的）

看護実践の質の向上を目指して各専門領域における研究課題を特定し、適切な研究手法を用いて実践的な研究を行い、課題研究論文を作成する。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 看護実践の中から課題を見出すことが出来る。 2. 研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画を作成できる。 3. 作成した研究計画に沿って課題を探求し課題研究論文を作成できる。	3. 看護実践の追及 4. 看護の質向上への貢献 8. 専門職業人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
	1. テーマの決定 2. 関連文献の検索とクリティーク 3. 研究計画の作成 〔課題の重要性と背景、研究目的、研究の意義、研究方法、データ収集、分析と評価〕 4. 研究の実施 5. 分析とまとめ	演習	各担当教員	課題研究論文提出期限に向け、必要なプロセスを計画的に実施すること	

成績評価方法・基準	課題研究論文審査
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください

開設科目名	特別研究	科目コード	MNSA533	開設期	1年後期～2年通年
単位数（履修区分）	8単位（選択）	時間数	240時間	授業区分	演習
責任者	研究科教員	担当者	研究科教員		

授業の概要（授業の目的）

専攻領域の講義・演習などによる知識の活用及び文献検討をふまえて、各分野に関する研究課題を科学的に探求し、この過程を通して、修士論文を作成する。専攻領域で学んだ講義・演習などの内容に基づき、研究を通して専攻領域の技術、概念、理論の発展に貢献しうる能力を養う。

学修の到達目標	ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連
1. 文献検討からリサーチクエスチョンを導きだし、研究計画書を作成することができる。	5.看護理論活用の探求
2. 研究計画書に基づき、調査を実際に行い、データを収集することができる。	6.看護理論の検証
3. 研究の目的にそってデータ分析を適切に実施できる。	7.国際性、学際性の探求
4. 研究の目的にそって結果を考察し、論文を全体にまとめることができる。	8.専門職人としての発展

授業計画（授業内容・方法・予習復習内容とその取り組み時間等）

回	授業内容	方法	担当者	予習・復習(学習課題)	取組時間
複数回	1. 関連文献の検索	演習	各担当教員	1. 文献検索を行い、リサーチクエスチョンを明確にする	
	2. テーマの決定			2. 文献検索から導かれた適切なテーマを探求する	
	3. 研究計画書の作成 〔問題とその重要性と背景、目標、結果の予測、方法、作業計画、設備〕			3. 研究計画書の準備を行う。	
	4. データ収集			4. データ収集のための準備を行う。	
	5. 集計 まとめ			5. 量的分析または質的分析の方法を取得する。	
	6. 研究論文の作成			6. 論文完成に必要な資料を整理し、論文作成の準備を行う。	

成績評価方法・基準	特別研究論文審査
課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ	
教科書	特になし
参考書・参考文献	特になし
ｵﾌｨｽｱﾜｰ 学習相談 ﾒｯｾｰｼﾞ その他	専任教員連絡先一覧にて確認してください 論文作成のプロセスについては、本便覧の「修士論文提出手続き」「修士論文審査及び最終試験」の項を参照。